

昭和五十九年三月

史料館所藏史料目錄 第三十九集

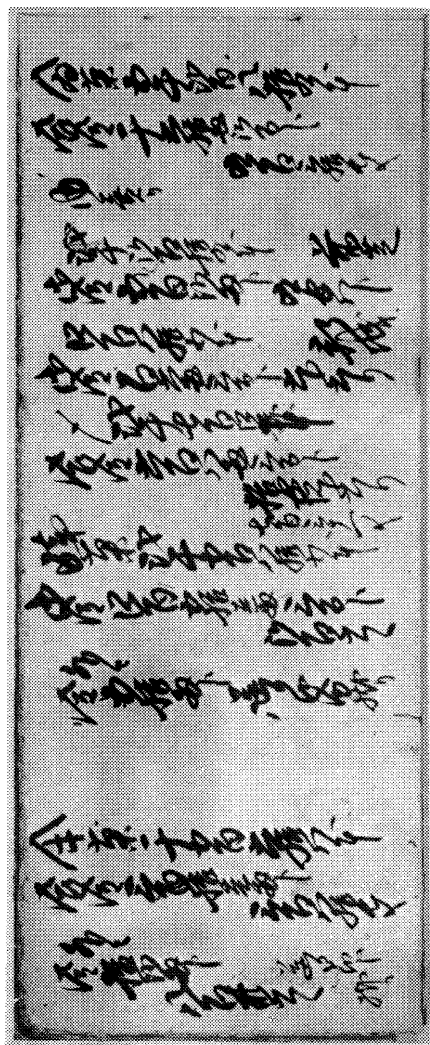
# 三河国八名郡乗本村菅沼家文書目錄

史料館

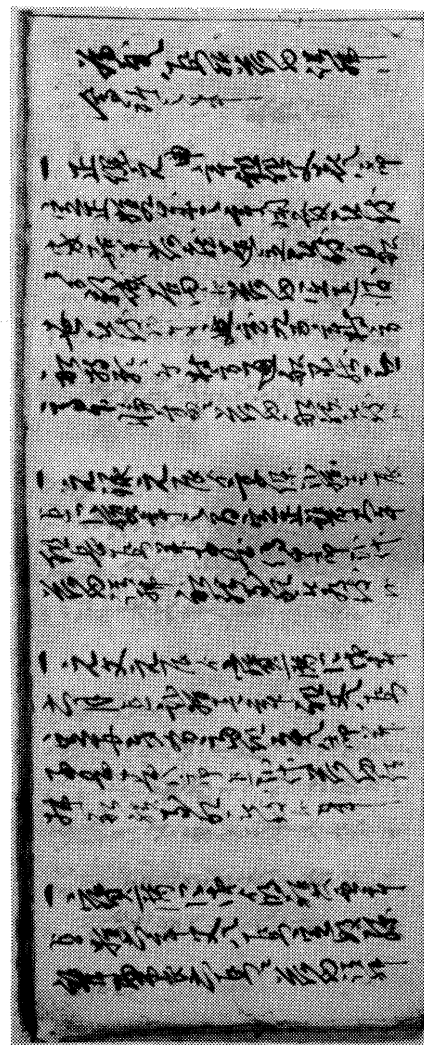
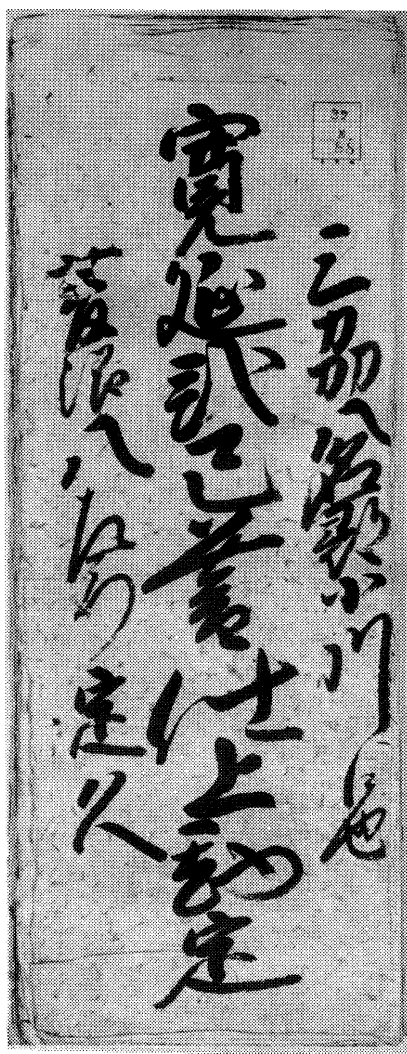
史料館所藏史料目錄 第三十九集

三河国八名郡乗本村菅沼家文書目錄

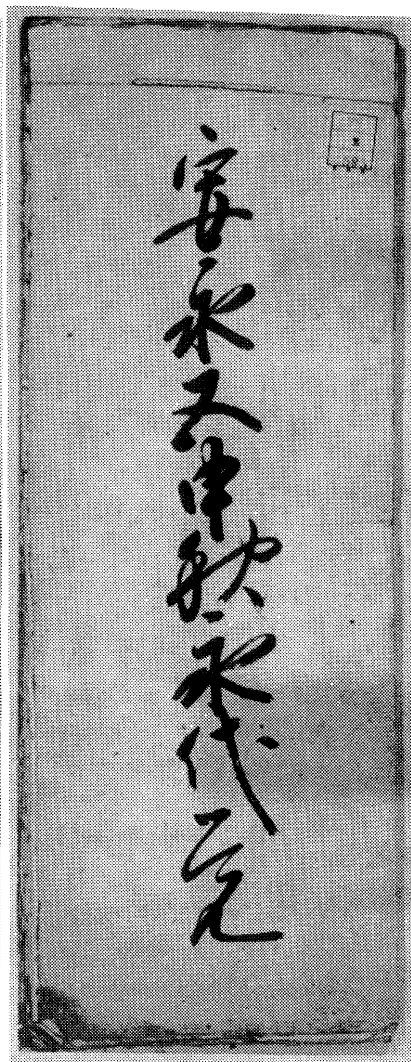




寛延貳巳暮仕上勘定 (整理番号 107)



安永五申秋永代覚 (整理番号1284)





## 凡 例

- 一 本目録は『史料館所蔵史料目録』第三十九集として、三河国八名郡乗本村菅沼家文書目録を収め、あわせて豊橋市美術博物館および愛知大学総合郷土研究所所蔵の菅沼家文書からのマイクロ・フィルム収録分をも収めた。
- 一 史料は利用上の便宜を考慮して、その内容・性格等に応じ、大・中・小の項目を立てて分類配列した。大項目は一二ポイント活字、中項目は一〇ポイント活字、小項目は九ポイントゴチック活字で示した。また、必要に応じて〇印で小項目内を区分した。なお、内容が多岐にわたり、他の項目中にも掲げることを妥当と考えた史料は、\*印を付して重出した。更に関連のある項目には↓印を付して参照項目を掲示した。
- 一 小項目の中の史料の配列は、原則として年次順である。
- 一 史料目録の記載欄は史料館所蔵分についてはほぼ、(一)表題 (二)作成者または差出人 (三)宛名 (四)作成年次 (五)形態 (六)数量 (七)整理番号の順である。但し、表題中に作成者または差出人の名が表示されている場合は、(二)を省略してある。なお、マイクロ・フィルム収録分については、ほぼこれに準じているが、豊橋市美術博物館所蔵分には、(一)の表題の上欄に①、愛知大学総合郷土研究所所蔵分には④の記号を付して区別し、最下段(七)の整理番号欄にはアラビア数字で紙焼製本番号と平活字で撮影史料整理番号を示してある。
- 一 表題(史料名称)は、冊子型史料については原則として表紙記載の原表題を採り、原表題の無いものには仮に命名して( )を付した。書付型史料については原表題の無いものが多いので原則として仮表題を掲げ、この場合にはいちいち( )を付けることをしなかった。また内容摘記・補注は(一)・(二)内に八ポイント活字をもって併記した。
- 一 作成年次は年月日もしくは干支を採り、推定年次の場合は( )を付した。
- 一 史料の形態は、冊子型史料では半(半紙判)、横半(半紙横判綴)、美(美濃判)、横美(美濃判横綴)、美大(美濃大判)、半半(半紙半截判)、横長半(半紙横長判)、横長美(美濃横長判)、横長美大(美濃大横長判)、横半半(半紙半截横長判)、横美半(美濃半截横長判)などによって原書の大略を示すにとどめた。また書付型史料は通をもって数量を示し、紙形の大小・寸法などは省略した。絵図類は縦横の寸法をセンチメートル単位で示した。
- 一 数量の上部に示した仮は仮綴本、合は合冊本、継は書添証文・書添覚書などのある複合文書であることを示す。
- 一 史料の利用にあたっては、巻末の解題を参照されたい。

目次

口絵

凡例

三河国八名郡乗本村菅沼家文書目録

目次

目録

解題

附図一、菅沼家系図

附図二、菅沼家文書関連町村配置図

頁

一

三

五

六

三河国  
八名郡  
营沼家文書目録

三河国八名郡  
乘本村菅沼家文書目錄 目次

菅沼家	五	山林証文、山詫証文	四	頼母子講、半原陣屋大黒講、寺社講	四
家譜	五	店政	四	他村出入扱	四
系図・過去帳、家伝記録	五	出店支配人、奉公人請状	四	書状	四
公用向	六	経営帳簿	四	江府来状、その他	四
代官所御用、宿村助成金、献木・上金ほか、勤功書上・覚書、田原藩扶持	六	大福帳（万貸帳）、仕入荷物勘定、暮仕	四	聞書ほか	四
家政	八	上勘定、積送荷物仕上帳、米仕上帳、木	四	分家・親類	六
遺言状・覚書、雜記・永代帳、日記、祝儀、仏事、寄進、譲り・遣し金、旅行、買物、柔術	八	店勘定、出店勘定仕上、長篠村為屋仕上勘定	四	菅沼正藏家	六
所持地	二〇	茶取引	三	菅沼周助家	六
所持地取調、分地・譲地、替地、地境改	二〇	寛政度書上、前芝茶問屋	三	菅沼正兵衛家	六
・出入、田畑買証文、貸家・貸地、江戸本八町堀地所	二〇	回漕業	三	菅沼耕兵衛家	六
年貢・運上	三	羽根問屋、鵜飼船売買・貸渡、船仲間規定、船人、積荷・運賃出入、東上分一番所、船荷手形、回漕店、一畝田分水事件	三	日記、他村出入扱、酒造取締役、八名郡副郡長勤役中書類、草高書上	七
年貢、水車運上、荷物請払置場役永	三	林産業	三	乗本村	七
小作	三	伐出・川下ヶ、流木、板材買付、炭会所、仕切状ほか、辛灰	三	支配	七
貸付	三	酒造	三	御触写・名主廻状、代官所御用状	七
貸金証文、郷貸、祠堂金、質屋	三	酒造高書上、鳳来寺御神酒	三	村明細	七
山林証文	三	借入	三	乗本村、他村分	七
		頼母子・信心講	三	村政	七
				村役人、五人組、村法、組分願、分散、村内出入、詫一札、行路病人村継送り	七
				戸口	七

家数人数書上、引越、送籍、欠落人、兵役、改名願	
土地・山林	七
検地・地改、高反別取調、名寄、荒損地	
・起返地、隠田、林改、加判帳、地租改正	
年貢	六
小川分、乗本村、願書	
夫錢・村入用	三
夫錢割、助郷、村入用	
拝借金	三
林産業	三
水運	三
用水	三
貯穀・夫食	三
頼母子講	四
鉄炮証文	四
社寺	四
氏神、寺院	

三河国

八名郡  
乗本村

菅沼家文書目録

(文書記号 32E)  
(プリント記号 P8204)

菅沼家

家譜

系図・過去帳

①菅沼系図〔清和源氏嫡流土岐家末葉菅沼系図 元貞三男定俊ヨリ定久代マデ〕

一通 1

菅沼家系図〔定昌ヨリ定基代マデ〕

一冊 二六三

①小川邑菅沼家記〔定俊ヨリ定久マデ〕

一冊 1 二

某氏書状〔菅沼氏家系吟味一条〕

一通 一五三

①田峯城主由来〔原田彦右衛門方所持書付之写〕 菅沼八左衛門

一通 35 二七〇

①過去帳 安政四丁巳改

一冊 1 三

付録史料

菅沼氏系図 (ゼロックス複写、原本菅沼恵一郎氏所蔵)

一卷 付一

家伝記録 (↓「家政」の八雑記) 八頁

万覚之日記 小川村住菅沼八左衛門定好 (享保一六年三月―明和元年) 横美半 一冊 一

安永五申秋永代覚 正作 (定久) (明和六―天明二年) 横長美大 一冊 二八四

万覚書 菅沼定基 天明四年辰中春 半 一冊 四

正朔木場仕上帳 (安永六―文化五年) 半 一冊 二〇一

①木店地場往古之事共覚 (正藏定系) (文政カ) 一冊 31 二〇〇

①鵜川村高付 慶長一〇年一二月 一通 35 二三

①慶長拾年巳霜月小川組高付ニ付覚書添 為屋八左衛門正作定久 安永四年一二月 一通 35 二三

①安永九子年小川組高付書添 (慶長年中小川組高付有之候ニ付) 八左衛門正作定久 一通 35 二五

①書渡シ申手形〔清十郎田地ニ付喜八出入一件和熟ニ付〕 乗本村四郎右衛門他一二名連印 鵜川村喜八宛 明暦四年五月七日 一通 26 二七

①仕申手形〔御節句・年礼勤ニ付〕 乗本村源右衛門他一二名連印 鵜川村喜八宛 明暦四年九月一五日 一通 35 二六

①長九書状〔清十郎と出入一件ニ付〕 喜八宛 九月一三日 (明暦四年カ) 一通 26 二〇



①宇川村喜八郎訴願書控〔舟荷物置場ニ付庄屋金十郎と出入一件〕伊奈弥左衛門宛 万治元年十二月二日	一通 27 二六	④且那要用金借用証文 大草太郎左衛門内逸見小野右衛門・小沢勝右衛門 乗本村八左衛門宛 明和元年十一月	一通 34 〇二
①万治元年極月廿八日宇川村喜八郎訴願書写 安永四年乙未秋為屋正作定久子孫之為書写	一通 26 三三	④中泉御役所要用金年賦証文 遠州中泉村借主忠兵衛・平三郎 三州乗本村八左衛門・大野村次兵衛・五兵衛宛 明和二年一〇月	一通 34 〇三
①仕申手形〔宇川村喜八と金十郎舟場出入ニ付相談取極〕長篠村無押以下七名連印 宇川村喜八宛 万治二年四月二日	一通 27 二七	布施專藏金子預り覚 十郎左衛門宛 子七月一〇日	一通 二九 一
①宇川村七郎左衛門田地渡シ手形 証人金十郎・喜八郎他三名加判 宇川村長右衛門宛 寛文元年二月一八日	一通 26 二六	為藏書狀〔内談有之ニ付赤坂私宅江招請〕 卯三月一四日	一通 〇六
①仕り渡シ申手形〔宇川村金十郎親支配之外山ニ付〕宇川村金十郎 宇川村市十・喜八・与兵衛・喜平次宛 寛文五年四月一二日	一通 26 二九	宿村助成金	
①書渡ス手形〔宇川村喜八・熊藏出入ニ付扱人立合取極〕宇川金十郎他四名・乗本三郎右衛門他一名・久間忠左衛門・卒川作ノ右衛門・川四郎右衛門他五名連印 宇川村喜八郎宛 寛文六年十月六日	一通 26 三三	③三州額田郡菅園村外四ヶ村助合金御貸附取調帳〔寛政一一年カ〕	一冊 〇九
○		三州村々困窮人救金差出ニ付請取証文写 平岡彦兵衛手代小幡孝藏・手附関根藤左衛門 三州八名郡乗本村役人中・百姓八左衛門宛 天保五年四月	一通 二三 一
先年預リ之若者惣連印御託書紛失ニ付差出一札 小川組年寄勇助 為屋八左衛門様御隠居御老母宛 弘化三年六月	一通 二六 二六	〔乗本村八左衛門差出金之内半金利息分年々村方年貢助成之儀御役所々被仰出ニ付請一札〕 乗本村百姓代・組頭・名主惣連印 乗本村為屋八左衛門宛 天保五年五月	一通 二六 二六
公用向		郡中惣代当賀清左衛門御用狀取次添狀 菅沼八左衛門宛 八月一五日〔天保五年カ〕	一通 〇六
代官所御用		④赤坂御役所御書付〔貧民救済之儀奇特ニ付褒詞〕 三州八名郡乗本村百姓八左衛門宛 天保五年八月	一通 34 〇三
①朝鮮人来朝節覚 天野助次郎御雇手代菅沼八左衛門 延享五年五月	一冊 27 三〇	〔村方難渋之者江貸渡米借用之覚〕 乗本村百姓代・組頭・名主連印 小川組為屋八左衛門宛 天保七年一二月	一通 二六 二六
赤坂御役所御用狀〔御廻米買納間金当分出金之儀不要之旨〕 八名郡乗本村八左衛門宛 已二月二三日	一通 三三 一		

献木・上金ほか

- ①三州八名郡乗本村八左衛門請書扣〔東海道白須賀宿因窮ニ付為助成百両出金被仰付ニ付〕名主市郎兵衛加判 赤坂役所宛 天保七年二月二〇日 一通 27 一三
- 〔去々申年難洪人江借入米金殘高并八分金差加金請取覚〕 七村庄屋吉十・市郎兵衛・役人惣代喜右衛門 小川組八左衛門宛 天保九年九月一八日 一通 一五〇
- 〔赤坂宿他三ヶ村ノ差出之御手限御貸附金永年賦被仰付御請証文扣并年賦金算用覚〕 三務額田郡明見村・八名郡大野村・乗本村・宝飯郡赤坂宿三役人并問屋平松弥一左衛門 小笠原信助赤坂役所宛 天保一二年三月 継 一通 三
- 〔宿助郷御救金之内江差加上金之儀内願書〕 小笠原信助代官所三州八名郡乗本村八左衛門 桑田歳兵衛宛 天保一三年七月 一通 六
- 藏平組恩借金年賦証文〔小前銘々持高書入〕扣・案紙共 乗本村役人惣代・組頭・庄屋奥印 小川八左衛門宛 天保一五年一月 三通 九三
- 〔申九月ノ酉五月迄白米安売損金高之覚〕〔安政カ〕 一通 一五六
- 去寅十一月地震ニ而難洪之者共江救方取計之面々江御營被仰渡御請証文下書 林伊太郎赤坂役所宛 安政二年六月二五日 一通 三
- ①八名郡乗本村菅沼八左衛門請書扣〔長州御進免ニ付東海道二川宿他三カ宿江御貸渡金之内江差加金之儀願済ニ付〕 赤坂役所宛 元治元年九月 一通 35 二四三
- 
- ①東海道宿御伝馬役人助成金拝借証文 三河国設楽郡足込村地主次郎右衛門他三名・百姓代・与頭・庄屋加判 松下内匠役所宛 文化三年二月 一通 27 三

- 〔御備筋御入用之内江上納物致候ニ付為御褒美其身一代苗字御免被仰付請書下書〕 三州八名郡乗本村名主後見菅沼八左衛門 名主耕兵衛奥印 林伊太郎赤坂役所宛 八月一七日〔安政二年〕 一通 四〇
- 八名郡乗本村名主後見長百姓菅沼八左衛門献木之節願書扣 御役所宛 安政三年一〇月 半 一冊 二六八
- 三州乗本村菅沼八左衛門献木ニ付伺書写 右願済申渡書共〔代官〕林伊太郎 勘定所宛 安政三年 一通 四
- 〔献木川下ヶ船積之儀ニ付御下知方願書下書〕 八名郡乗本村菅沼八左衛門他行ニ付名主耕兵衛 赤坂役所宛 安政三年一〇月 一通 四
- 菅沼八左衛門献木流失之儀届書 八名郡乗本村菅沼八左衛門代兼名主耕兵衛 安政三年一〇月 一通 四
- 献木ニ付再願書下書〔先般書上之献納木之儀大雨ニ而流材散乱ニ付代木書上献納御開濟被下度〕 八名郡乗本村願主菅沼八左衛門他行ニ付代印名主耕兵衛 赤坂役所宛 安政三年一〇月 一通 四
- 乗本村菅沼八左衛門献納木願済ニ付請書 赤坂役所宛 安政三年一月 一通 四
- 菅沼八左衛門平日所業奇特等御尋ニ付申上書 乗本村耕兵衛 安政三年 一通 四七
- 長防御征討御進免ニ付献納金願書下書 八名郡乗本村名主後見長百姓菅沼八左衛門 赤坂役所宛 慶応元年閏五月 一通 四七
- 
- ①御進免御用途金上納ニ付御褒美被下置御請証文扣 三州八名郡大野村百姓勘次郎・斧吉 乗本村名主後見菅沼八左衛門 田上寛蔵赤坂役所宛 慶応元年七月二五日 一通 34 一〇〇
- 御払米代金明細仕訳帳 明治二年一〇月 横長半 一冊 一四四

勤功書上・覚書

明和元年申十一月以来赤坂御役所江御用立金口々覚書 (定久筆)

寛政以来上納金其他宿村江助成出金之廉訳書下書 六月(安政二年カ)

公用向扣 嘉永二年二月一安政二年八月

穂園覚書(不許他見トアリ) 安政七年閏三月

田原藩扶持

田原御扶持扣(天保五年一弘化元年)

①扶持米代金渡手形 田原蔵元 菅沼八左衛門宛 天保一四年一二月

①扶持米代金渡手形 田原蔵元 菅沼八左衛門宛 嘉永二年一二月

扶持米代金渡手形 田原蔵元 菅沼八左衛門宛 慶応元年一二月

扶持米代金渡手形 田原蔵元 菅沼八左衛門宛 慶応三年一二月

扶持米代金渡手形 田原倉麿方 菅沼八左衛門宛 明治四年一二月

家政

遺言状・覚書

内金伝右衛門(長篠村久保屋)跡式寅五月相談一札之覚書 為屋正作定久 八左衛門宛 天明二年一〇月一七日 付、庄屋・親類調印一件書添別紙共

①正作定久書置 八左衛門・庄蔵・周助宛 天明五年十一月二五日 一通 二五

定基書置 正蔵・周助・義助・平兵衛・仁兵衛・伊助、二郎八・善六・喜六、平兵衛・仁兵衛・伊助其他家中宛 寛政四年十一月 一通 二八三

辞世の句

雑記・永代帳

万覚書日記 小川村菅沼八左衛門 享保二一年ヨリ 横美半 一冊 二

永代帳 小川菅沼八左衛門 (天明二年一享和三年) 横長美 一冊 三

永代諸色覚 天明四年正月ヨリ 横長美 一冊 五

勘定覚書写シ 菅沼正朔定久 天明五年五月 横美半 一冊 六

万日記 君伏山下洞壺亭主人 享和二年二月一二日一七月晦日 横半半 一冊 二六二

①無尽蔵(不許他見トアリ) 玉留菴 文政六年四月八日一六月二〇日 一冊 1

万扣 為屋 天保一〇年一二月 横半半 一冊 二六六

弘化録 三陽小川秋園主人定春 弘化改元ヨリ嘉永四年六月マテ 18×8 一冊 七

○

万覚(和算教習覚帳) 安永四年 横美半 一冊 三

御進発御役々姓名人数附 (慶応元年カ) 横半半 一冊 六

日記

文化六巳ノ八月日記(豊吉・文治伊勢参宮中留守日記) 文化六年八月二四日一九月八日 半 一冊 三

文政貳年卯極月日記（八左衛門年越參宮中留守日記） 菅沼定系 文政二年二月二十四日—同三年正月十三日	半	一冊	三
留書并日記 松園菅沼定敬 安政六年	半	一冊	五
統用之日記 菅沼樸二 文久二年正月元日—四月一四日	横美半	一冊	六
文久壬戌とし統用之日記 文久二年四月一五日—九月二二日	横美半	一冊	七
文久戌とし統用日記（尾欠） 文久二年九月二二日—二月一六日	横美半	一冊	六
文久三年癸亥日記 菅沼定春	半	一冊	元
年内統用の日記 菅沼樸二 文久四年正月元日—九月二七日	横美半	一冊	二〇
元治貳乙丑とし統用の日記 菅沼定雄 元治二年正月元日—閏五月一日	横美半	一冊	三
慶応元乙丑とし統用の日記（尾欠） 菅沼定雄 慶応元年閏五月二日—九月二六日	横美半	一冊	三
統用日記 菅沼定雄 明治四年正月元日—七月晦日	横美半	一冊	三
統用日誌 菅沼定雄 明治五年七月二日—同六年一月一二日	横美半	一冊	四
統用の日誌 菅沼定雄 明治六年一月二三日—同七年二月一七日	横美半	一冊	五
祝儀 呉服物売上覚（一〇代定基婚礼用） 名古屋本町五丁目水口屋伝兵衛代仙助 加藤六蔵・為屋治郎八宛 明和五年八月二九日	横長美	一冊	元
婚礼入用帳 菅沼三郎次定治 明和五年十一月二六日—十二月二六日	横長美大	一冊	三〇

①三州小川為屋はね普請見舞・移徒祝儀至来帳 菅沼慎吉定好 安永二年七月—九月	横長美	一冊	33
乙卯霜月十五日祝儀到来帳（豊吉元服之節）（寛政七年）	横長美大	一冊	三
婚礼祝儀帳 天保三年二月四日	横長美大	一冊	三
安産祝儀到来扣 菅沼助治 天保四年三月	横長美大	一冊	三
①婚礼入用帳 菅沼八左衛門 嘉永七年二月一三日到来日並帳 為屋納戸 嘉永七年正月—明治四年歳末	横長美大	一冊	33
祝儀到来覚（苗字御免の祝儀力） 安政二年八月	横長美大	一通	三
①戌十一月十五日髪置ニ付祝儀至来之覚	横長美大	一冊	33
①高野山実相院谷清涼院月牌証文（桃屋性見大姉・玉室貞琳大姉・心月貞本禅尼・天室寅西庵主・本光永心禅定尼の五位牌分） 法印本成 菅沼三郎左衛門宛 享保五年五月五日	横長美大	一通	34
①高野山実相院谷清涼院祠堂月牌契照（一乗入法・瑞顔妙正両逆修） 法印本成 三森八名郡小川村菅沼八左衛門宛 享保六年二月四日	横長美大	一通	34
①高野山実相院清涼院祠堂月牌証文（珠心貞玉大姉分） 法印本成 三森八名郡小川村菅沼八左衛門宛 享保六年二月五日	横長美大	一通	34
①義厚源謙永代供養料受納書 医王寺 小川菅沼八左衛門宛 文政八年十一月二三日	横長美大	一通	34
菅沼定春靈君賻資記 明治五年四月二二日	横長美大	一冊	三
追善発句（菅沼氏老母病死之砌） 袋弓	横長美大	一通	110元

竜泉庵再建之敷地御寄進被下ニ付差入証文 小  
川組願主藤助・平八郎・吉兵衛、証人弥七郎、願主  
遊竹、組頭茂左衛門、庄屋金十郎 小川組八左衛門  
宛 宝暦二年正月

二通 二六〇

安永九年庚子八月四日氏神御遷宮諸事扣

一通 一四〇

大般若并建立講金受納書 妙嚴寺役寮 小川村菅  
沼八左衛門宛 天明八年九月一二日

一通 二三五

瑠璃殿前石槨再建祈願文 発願一乗院湛猷 文化  
九年七月二四日

二通 二三七

付、同日付一乗院書狀 財施主菅沼八左衛門・同  
正藏宛

伊勢朝熊岳千体仏造立御寄附料受納書 明王院  
参州八名郡小川菅沼八左衛門宛 文化一一年一二月

一通 二二六

薬師寺御燈明油料受納書 鳳来寺役所 小川菅沼  
八左衛門宛 嘉永五年一月

一通 二四〇

牛久保六角鉄燈籠建立見積書 絵図・添状共 正  
月二二日

三通 三

譲り・遺し金 (↓「菅沼正藏家」六七頁)

①八左衛門定久遺し金之覚 おさつ宛 寛延四年二  
月

一通 三五二

玄真居士御讓金并定久御見次金受納覚 (為学問  
立身金・寺持入用金) 泰仙 小川八左衛門宛 宝暦  
元年一月二二日

一通 二二三

旧年勤続給金讓り書付扣 為屋八左衛門 為屋次  
郎八宛 明和二年正月

一通 二九六

旅行

菅沼八左衛門定好書狀 (高野山参詣之途次大坂へ)  
小川入法・母宛 二月八日 (享保六年)

一通 七

有馬入湯道中記 三州小川邑菅沼喜八 享保一一  
年八月 一通 八

勢劔山田方長谷越道法記 小川村菅沼喜八郎 享  
保一二年八月 半四半截 一冊 九

善光寺旅行上下道記 三州八名郡乘本村菅沼正朔  
(天明五年三月晦日一五月二日) 横長半 一冊 一〇

道中夫覚 善六 御隠居(定久カ)宛 天明六年八  
月五日 横長美 一冊 二

道中御宿付并紺屋所付(信濃路) 善六 御隠居  
宛 三月二七日・同二八日 二通 二五八

付、信劔駒場町こま屋孫藏宿引札  
日記 吉言 安政五年九月八日一〇月一八日(内、  
九月二三日一〇月一八日の間、帳尻より京都道中  
日記) 半 一冊 一四

買物

相模守藤原泰幸銘脇差売払ニ付一札 売主片岡  
右左衛門、菅沼藤助加判 菅沼八左衛門宛 宝暦一  
二年四月 一通 二七二

御厨子入仏尊像新調前金請取書 京都車屋町御  
池上ル大仏師清水定運 小川菅沼氏宛 天保四年六  
月七日 一通 二五三

柔術

浅山一伝流目録 吉田氏門人菅沼雲平 明和六年  
夏 横美半 一冊 三

所持地

所持地取調

吉村吉右衛門が以前被渡候田畑ニ付書留 八左衛門 享保一二年二月	一通	一五四	
浅畑・下平兩村ニ御所持田畑名寄帳 浅畑村只吉 乘本村菅沼八左衛門宛 安永三年正月	一冊	一二五	
反別改控帳 小川八左衛門 文久三年二月	一冊	三九	
田畑并山林扣 參州小川菅沼八左衛門 慶応二年八月	一冊	三〇	
惣高老石四斗貳合六勺六才之田畑改名寄 (喜八郎・庄五郎・平九郎・七郎右衛門分)	一通	一五二	
当亥年中ニ高入抜可仕田畑場所畝歩石高之覺 八左衛門分	一冊	三三	
(菅沼家田畑一筆限名請人取調帳)	半	一冊	三三
(菅沼家田畑一筆限取調帳)	半	一冊	三三
(田畑取調書拔)	半	一冊	三三
乘本分田畑名寄	半	一冊	三三
地券仕出シ控帳 菅沼八左衛門定雄 明治六年九月	半	一冊	三六
地券書換願 (菅沼家代替ニ付相続人菅沼耕一 地券名儀變更願) 地元組長菅沼彦助・用掛菅沼正録 愛知県令安場保和宛 明治一〇年	半	一冊	三七
○	半	一冊	二六
設楽郡長篠村前田入札控 明治八年一〇月二六日 一二月一日	一冊	一六八	
横長半			
分地・讓地	二通	二〇	
八左衛門定好覺書 (吉村吉右衛門が買田畑之内式ケ所金十郎内おりつへ譲り之儀) 享保一二年二月			

付、吉村吉右衛門田畑売渡証文 小川八左衛門宛 享保一二年二月	一通	四二
乘本村之内小川八左衛門田畑敷林共讓渡証文下書 太七郎・なつ宛 宝曆三年正月	一通	四二
八左衛門控地之内上之山野地小川組為墓地合力讓渡ニ付為取替一札 小川藤助・次郎兵衛・徳兵衛・惣八・孫四郎・長十・弥右衛門 小川八左衛門宛 右差出人宛八左衛門一札扣共 明和八年七月	二通	二二
小川組八左衛門屋敷畑讓渡証文下書 藏平組清右衛門宛 安永四年二月	一通	二四
今般讓受田畑之内畑地宅ヶ所相渡証文 (為荷物請私会所并荷藏用地) 乘本村小川組重左衛門・組頭証人次郎八 同組庄作宛 安永九年十二月	一通	三六
小川組八左衛門田畑讓リ証文扣 藏平組喜三郎宛 天明元年六月	一通	二四
正藏分田畑名寄 定基 天明五年九月	一冊	二六
乘本村小川組八左衛門畑地讓渡証文下書 親類庄兵衛・百姓代武兵衛・与頭長九郎・庄屋利八郎加判 長篠村為吉宛 天保九年十二月	一通	三六
小川八左衛門田畑讓渡証文扣 親類喜左衛門・百姓代彦吉・組頭長九郎・庄屋惣兵衛加判 庄兵衛宛 天保一〇年七月	一通	三六
字滝川橋際地所之儀村方ニ而貰請ニ付差出一札 百姓代久兵衛 組頭友右衛門・宇兵衛・名主喜平次・正兵衛連印 為屋八左衛門宛 弘化三年二月	一通	二六
替地	四通	二七
久兵衛名請長十郎買畑と河添太郎兵衛名請地と替地一件書添証文 小川本人長十郎 小川八左衛門宛 (元禄一〇年十二月・享保九年十二月・元文二年十二月) 宝曆七年三月	四通	二七



替地ニ而請取畑之畝札(二三枚) 付、享保九年辰一二月八左衛門書添共 小川組兵右衛門家屋敷畑地替証文 八左衛門宛 宝曆八年二月	二綴 一通 一四五	去ル安永三年永代売之畑地山林之地境ニ付改 地引絵図証文、設楽郡川合村武七、地類・請人四 名、百姓代・組頭・名主各一名加判 八名郡乘本村 為屋八左衛門宛 寛政一〇年一月 付、未四月十四日右出入中諸入用ニ付浅畑只 吉書出し 小川菅沼八左衛門宛	二通 一五三
小川組兵右衛門・要吉地替証文 同組八左衛門 宛 明和二年三月	一通 一三六	磯七・勇次差出一札(組合治兵衛地所ニ付向後故 障申聞敷旨) 八左衛門宛 申一二月	一通 一三五
小川組八左衛門・三郎次替地証文下書 兵右衛 門・要吉宛 明和二年三月	一通 一三六	田畑買証文	
小川組又兵衛地替証文 同組八左衛門宛 明和四 年二月	一通 一三六	乘本村四郎右衛門田畑相渡繼添証文(元禄八年 三月二日付小川甚五左衛門・小川彦三郎宛田畑売渡 手形、當時持主四郎右衛門) 小川八左衛門宛 元禄 一四年二月二十八日	一通 一四九
大道分氏神様立之通路附替ニ付道幅代金請取覽 売主直吉・証人惣次郎・地類次郎兵衛・組頭茂左 衛門 八左衛門宛 明和七年一月	一通 一四三	小川甚五左衛門畑地売渡手形 小川八左衛門宛 元禄一五年三月	一通 一四〇
小川組八左衛門替地手形下書 小川組半七・左吉 宛 天明四年閏正月	一通 一三七	藏平忠右衛門・七三郎田畑売渡手形 小川八左 衛門宛 元禄一五年一月	一通 一四三
*長篠村重兵衛畑地売渡証文 乘本村小川組八左衛 門宛 文政七年二月	二通 一七六	小川彦三郎畑地売渡手形 小川村八左衛門宛 元 禄一六年二月	二通 一四三
付、右畑地替地ニ付小川組八左衛門畑地売渡 証文扣 長篠村重兵衛宛 文政七年二月		付、享保一三年申二月当村反別名寄之節、右 買地之内一ヶ所畝歩改之儀八左衛門覽書	
地境改・出入		小川小右衛門田地売渡手形 小川彦三郎宛 元 禄七年二月三日	一通 一四四
前々々相渡置候質田畑之義場所不分明ニ付改之 上差入一札 倉平本人久右衛門・市右衛門、証人市 兵衛他四名・組頭二名加判 小川村八左衛門宛 宝曆九年二月二十八日	一通 一五四	小川彦三郎田地売渡手形 小川八左衛門宛 元禄 一六年二月	一通 一四四
*先年相渡候田畑附山林改書添証文 倉平組惣代 市右衛門・市兵衛・松三郎・金右衛門、組頭久右衛 門・与平太・久左衛門連印 小川村八左衛門宛 宝 曆九年二月	一通 一五〇	吉村勘兵衛畑敷売渡書添証文(宝永元年一二月小 川市十郎・買入之畑敷) 小川村八左衛門宛 宝永二 年一〇月	繼一通 一四九
去ル宝曆十辰年売渡候赤畑山地境ニ付添書一札 藏平組本人五郎兵衛、与合弥八郎・久藏、五人組 頭喜代八、証人十平・権平、百姓代・組頭連印 小 川組八左衛門宛 寛政八年一〇月	一通 一五五	小川市十郎田畑蔵林并頼母子家舟共売渡証文 吉村平三郎宛 宝永元年二月	一通 一四五
		売渡シ申諸色書付帳 市十郎 吉村平三郎宛	一冊 一四八

小川市十郎畑地壳渡証文 元年二月	小川八左衛門宛	宝永	一通	四六
小川市十郎畑地壳渡証文 元年二月	小川八左衛門宛	宝永	一通	四七
小川久作田畑壳渡手形 二年二月	小川市十郎宛	元禄一	一通	四五
小川左平畑地壳渡手形 二年二月	小川市十郎宛	元禄一	一通	四六
小川文左衛門畑地壳渡手形 元禄二年二月	小川市十郎宛	元禄一	一通	四七
小川文右衛門畑地壳渡手形 元禄三年二月	小川市十郎宛	元禄一	一通	四八
小川忠右衛門・七三郎田畑壳渡手形 十郎宛 元禄一五年二月	小川市	小川市	一通	四二
小川松兵衛畑地壳渡手形 二年二月	小川八左衛門宛	宝永	二通	四〇
付、享保九年辰一二月右之内式々所久助と替 地之儀覚書添				
小川松兵衛田畑壳渡手形 二年二月	小川八左衛門宛	宝永	一通	四三
小川甚助田畑壳渡手形 二年二月	小川八左衛門宛	宝永二	一通	四三
小川清三郎畑地壳渡手形 二年二月	小川八左衛門宛	宝永	一通	四三
小川左五右衛門田地壳渡手形 宝永二年二月	小川八左衛門宛	宝永	一通	四四
小川清三郎後家・松次郎田地壳渡手形 左衛門宛 宝永六年三月一六日	小川八	小川八	一通	四五
小川松兵衛・喜平次畑地壳渡手形 宝永六年二月	八左衛門宛	八左衛門宛	一通	四六

藏平村六兵衛畑地壳渡手形 正徳二年二月	小川村八左衛門宛	小川村八左衛門宛	一通	四七
高野村利右衛門・平右衛門田畑壳渡手形 八左衛門宛 正徳三年二月	小川	小川	一通	四八
小川平八郎田地壳渡手形 五年二月	小川八左衛門宛	正徳	一通	四九
小川松右衛門畑地壳渡手形 徳五年二月	小川八左衛門宛	正	一通	四〇
小川左平畑地壳渡手形 元年二月	小川八左衛門宛	正徳五	一通	四三
藏平村六兵衛・善七郎・忠三郎・左五七田畑壳 渡証文 小川村八左衛門宛 正徳五年二月	小川村八左衛門宛	正徳五	一通	四三
藏平村半十郎畑地壳渡証文 正徳五年二月	小川村八左衛門宛	小川村八左衛門宛	継一通	四三
享保一五年戊一二月右地所藏平藏泉寺へ施入 之儀菅沼八左衛門定好書添覚書共				
小川十兵衛田畑壳渡手形 元年二月	小川八左衛門宛	享保	一通	四四
藏平村半十郎・八之助畑地壳渡手形 左衛門宛 享保二年二月	小川村八	小川村八	一通	四四
倉平村孫七郎畑地壳渡手形 享保三年四月	小川村八左衛門宛	小川村八左衛門宛	継一通	四六
享保一五年一二月右畑地氏神様為御供米六斗 代神主七郎左衛門へ相渡旨菅沼定好書添覚書 共				
藏平權右衛門・五平田地壳渡手形 宛 享保三年三月	小川八左衛門	小川八左衛門	一通	四七
市川村与次兵衛田地壳渡手形 享保八年三月	小川村八左衛門宛	小川村八左衛門宛	一通	四九

倉平村權右衛門・五兵衛・權十郎・五助田畑壳渡手形 小河村八左衛門宛 享保一〇年三月 付、宝曆九年卯二月畝歩改之節右田地之内久右衛門方江返進一札扣	二通 四〇	川路村金借主庄太夫田地相渡証文 小川村八左衛門宛 享保一七年三月	一通 七二
小川左次右衛門・源八郎・新七郎田地壳渡手形 小川村八左衛門宛 享保一〇年二月	一通 四二	小川新七郎田地壳渡証文 小川八左衛門宛 享保一七年二月	一通 四三
小川七郎左衛門・彦兵衛畑地壳渡証文 小川八左衛門宛 享保一二年二月	一通 四三	小川組權六郎畑地壳渡証文 小川組八左衛門宛 享保一八年二月	一通 四四
吉村吉右衛門田畑壳渡証文 小川八左衛門宛 享保一二年二月 (注、右實田畑之内二カ所、同月幸十郎内りつへ譲り之定好覽書(二三四〇有り))	一通 四三	小川久八郎畑地壳渡手形 小川組八左衛門宛 享保一八年二月	一通 四四
藏平村清右衛門・松三郎田畑壳渡手形 小川村八左衛門宛 享保一三年二月	一通 四四	小川弥次右衛門田畑壳渡手形 八左衛門宛 享保一八年二月	一通 四五
倉平村吉兵衛田畑壳渡手形 小川村八左衛門宛 享保一三年二月	一通 四四	小川弥七郎畑地壳渡証文 小川組八左衛門宛 享保二〇年二月	一通 四六
藏平村利右衛門・金太郎田地壳渡手形 小川村喜八郎宛 享保一三年二月	一通 四六	小川安兵衛畑地壳渡手形 小川組八左衛門宛 享保二〇年二月	一通 四七
小川村弥右衛門・徳右衛門田畑林共壳渡手形 小川村八左衛門宛 享保一四年三月	二通 四七	藏平松三郎畑地壳渡手形 小川八左衛門宛 元文四年二月	一通 四八
付、右地所之内金十郎へ譲り之旨八左衛門定好書添覽書		小川平四郎田畑壳渡証文 小川八左衛門宛 元文四年二月	一通 四八
倉平村与七郎田畑頼母子壳渡証文 小川村八左衛門宛 享保一四年二月	一通 四八	久間組忠左衛門畑地壳渡証文 小川組八左衛門宛 元文五年二月	一通 四九
藏平村市兵衛畑地壳渡手形 小河村八左衛門宛 享保一四年二月	一通 四九	久間助次郎田地壳渡手形 小川八左衛門宛 元文五年二月	一通 四九
山吉田村庄三郎・儀右衛門田地壳渡手形并山吉田馬場源右衛門・鈴木兵左衛門小作約定添書証文 小川村八左衛門宛 享保一五年二月一九日	繼一通 四〇	久間組久平畑地壳渡証文 小川組八左衛門宛 元文五年二月	一通 四九
小川伝七郎畑地壳渡証文 小川八左衛門宛 享保一六年二月	一通 四一	久間組忠左衛門田地壳渡証文 小川組八左衛門宛 元文五年二月	一通 四九

久間組虎之助畑地壳渡証文 元文五年二月	小川組八左衛門宛	一通	四六
小川半兵衛畑地壳渡証文 五年二月	小川八左衛門宛 元文	一通	四六
久間組忠左衛門畑地壳渡証文 元文五年二月	小川組八左衛門宛	一通	四七
久間組久兵衛畑地壳渡証文 文六年二月	小川八左衛門宛	一通	四六
久間組庄三郎畑地壳渡証文 文六年二月	小川八左衛門宛	一通	四六
久間組七兵衛畑地壳渡証文 文六年二月	小川八左衛門宛	一通	四七
小川伝兵衛田畑壳渡手形 元年二月	小川八左衛門宛 寛保	一通	四七
小川藤右衛門畑林戴家土蔵共壳渡証文 枚共 小川八左衛門宛 寛保元年二月	畝札八	一通	四三
倉平村利助田畑壳渡証文并利助分加地子付 保三年二月	寛	二通	四三
蔵平柿平左五平畑地壳渡証文 延享元年二月	小川村八左衛門宛	一通	四四
蔵平村平十郎田畑壳渡証文并平十郎分加地子付 小川村八左衛門宛 延享二年二月	付、蔵平村組頭荒川久右衛門返書状	三通	四五
蔵平柿平勘助田畑壳渡手形 延享二年二月	小川村八左衛門宛	一通	四六
小川組伝兵衛畑地壳渡手形 延享三年二月	小川組八左衛門宛	一通	四七
大平長左衛門田地壳渡証文(本物返)并右田地請 作添証文 小川組八左衛門宛 延享三年二月		二通	四八

山吉田小阿寺村左五七郎田地壳渡証文并右田地 請作添証文 乗本村之内小川村八左衛門宛 年二月七日	延享四年	二通	四九
小川孫八郎畑地并林壳渡証文 寛延二年二月	小川村八左衛門宛	一通	四二
柿平金十郎田畑壳渡証文 二月	八左衛門宛 寛延三年	一通	四三
小川弥七郎田畑壳渡証文 二月	八左衛門宛 宝曆元年	一通	四四
長篠村善七郎畑地壳渡証文 宝曆三年二月	小河村八左衛門宛	一通	四五
七郎左衛門末家彦三郎田畑林壳渡証文 宝曆七年三月	八左衛門宛	一通	四七
設楽郡長篠村内金組田地三年季壳渡証文 郡乗本村内小川組八左衛門宛 宝曆八年二月	八名	一通	四八
設楽郡長篠村内金組左衛門田地五年季壳渡証文 八名郡乗本村小川組八左衛門宛 宝曆八年二月	宝曆八年二月	一通	四九
長篠村森下四郎兵衛田畑壳渡証文并請作書添証文 小川村八左衛門宛 宝曆九年二月	繼一通	四九〇	
長篠村内金理左衛門田畑壳渡証文 付、右田畑 分米・取米・御口米・入用付 乗本村小川八左衛門宛 宝曆九年八月	二通	四九二	
小川組平三郎畑地壳渡手形 曆九年二月	同組八左衛門宛	一通	四九三
長篠村市平田畑壳渡証文 曆一〇年二月	小川村八左衛門宛 宝	一通	四九三
善六田畑壳渡証文 八左衛門宛 宝曆一〇年二月	八左衛門宛	一通	四九四

藏平金右衛門・和吉郎・吉太郎田畑壳渡証文 小川八左衛門宛 宝曆一〇年二月	一通	四九	長篠村組頭李太夫畑地五年季壳渡証文 乘本村八左衛門宛 明和七年三月	一通	五二
栗衣嘉右衛門畑地壳渡手形（本物返） 小河組八左衛門宛 明和元年二月	一通	四八	小川孫八畑地壳渡証文（本物返） 小川八左衛門宛 明和八年二月	一通	五三
八名郡塩沢村十三郎田地壳渡証文（本物返） 乘本村八左衛門・三郎治宛 明和二年一月二十三日 付、宝曆八年寅三月・同一三年未二月同村伊左衛門右田地買証文式通添	三通	四九	長篠村三十郎畑地三年季壳渡証文 乘本村八左衛門宛 明和八年七月	一通	五三
大平金兵衛田地壳渡証文（本物返） 小川八左衛門宛 明和二年二月	一通	五〇	長篠村三左衛門田地壳渡証文（本物返） 乘本村八左衛門宛 明和八年二月	一通	五四
長篠武八畑地三年季壳渡証文 小河組八左衛門宛 明和三年二月	一通	五一	長篠村組頭源藏畑地五年季壳渡証文 乘本村八左衛門宛 安永二年二月	二通	五七
長篠村忠兵衛畑地壳渡証文 小川八左衛門宛 明和四年二月	一通	五二	付、安永三年午極月御年貢書出し 設楽郡門谷村兵助畑地五年季壳渡証文 八名郡乘本村八左衛門宛 安永三年二月	一通	五八
小川組又兵衛田地入札壳渡証文 同組八左衛門宛 明和四年二月	一通	五四	小川善吉田畑壳渡証文 小川組為屋八左衛門宛 安永四年二月	一通	五〇
長篠村半左衛門田畑十年季壳渡証文 乘本村八左衛門宛 明和五年三月	一通	五五	長篠村組頭善兵衛田畑五年季壳渡証文 請作引請書添 乘本村八左衛門宛 安永四年二月	一通	五九
付、右田畑壹筆限高反別書拔帳 長篠村惣兵衛田地壳渡証文 請作引請書添 乘本村八左衛門宛 明和五年三月	一通	五六	藏平組藏泉寺荒地讓渡証文 同地見取絵図共 小川組八左衛門宛 安永九年四月	一通	二六
長篠村庄三郎田地三年季壳渡証文 請作引請書添 乘本村八左衛門宛 明和五年三月	一通	五七	長篠村組頭善左衛門畑地拾年季壳渡証文（右畑地請作請合書添）付、加地子書出 乘本村八左衛門宛 天明元年二月	二通	五四
長篠村吉左衛門・次郎十畑地五年季壳渡証文 請作請合書添 乘本村八左衛門宛 明和五年二月 付、畑場所附帳 長篠村壳主吉左衛門・次郎十組頭代与四郎・庄屋三左衛門・同半左衛門 乘本村八左衛門宛 明和五年二月	一通	五八	畑地場所付帳 長篠村壳主德左衛門・平藏連印、組頭周藏・庄屋半左衛門加印 乘本村八左衛門宛 天明元年二月	一通	五五
藏平組善吉十年季壳畑書添繼証文 小川八左衛門・三郎次宛 明和六年二月・天明元年一〇月・同四年三月	一通	五〇	小川組重左衛門畑地壳渡証文 八左衛門内舟人松兵衛宛 天明二年二月	一通	五六
	繼一通	五〇	川合村九右衛門畑地七年季壳渡証文 乘本村八左衛門宛 天明三年六月	一通	五七

小川武八畑地壳渡証文（本物返） 宛 天明七年三月	小川八左衛門	一通	五〇
長篠村組頭善右衛門畑地三年季壳渡証文 村八左衛門宛 天明八年四月	乗本	一通	五三
長篠村善左衛門田畑三年季壳渡証文 付、田畑 場所付帳 乗本村正作宛 天明八年二月	付、田畑 横長美	一通	五三
長篠村善左衛門田地三年季壳渡証文 左衛門宛 天明八年二月	乗本村八	一通	五三
長篠村藤吉畑地三年季壳渡証文 庄作宛 天明八年二月	乗本村小川組	一通	五三
小川組仙藏畑地壳渡証文 天明八年二月	小川為屋八左衛門宛	一通	五三
長篠村六三郎畑地七年季壳渡証文 組八左衛門宛 寛政元年二月	乗本村小川	一通	五三
長篠村藤藏田畑四年季壳渡証文（請作請合書添 奥印） 乗本村小川組八左衛門宛 寛政元年六月	寛政元年六月	一通	五七
設楽郡川合村安兵衛畑地五年季壳渡証文 別紙 畑地場所付書附添 八名郡乗本村八左衛門宛 政元年二月	別紙 寛	一通	五八
長篠村庄三郎田畑七年季壳渡証文 組正作宛 寛政元年二月	乗本村小川	一通	五九
設楽郡浅畑村只吉田地壳渡証文 下平村本家長右 衛門・浅畑村証人・組頭・庄屋加印 八名郡乗本村 八左衛門宛 寛政二年二月	八名郡乗本村	一通	五二
長篠村利兵衛畑地三年季壳渡証文 宛 寛政二年二月	乗本村庄作	一通	五三
長篠村清左衛門田地三年季壳渡証文 左衛門宛 寛政三年二月	乗本村八	一通	五三
栗衣六左衛門田地壳渡証文 政三年三月	小川八左衛門宛 寛	一通	五四

長篠村善兵衛畑地七年季壳渡証文 宛 寛政五年二月	乗本村八左衛	一通	五九
長篠村藤藏畑地三年季壳渡証文 門宛 寛政五年二月	乗本村八左衛	一通	五〇
小川長十郎恩借金三相渡申畑地証文 屋八左衛門宛 寛政五年二月	小川組為	一通	六九
長篠村内金嘉右衛門田地三年季壳渡証文 村八左衛門宛 寛政七年二月	乗本	一通	五二
小川組平八郎田地壳渡証文 政九年二月	為屋八左衛門宛 寛	一通	五三
藏平組要右衛門畑地三年季壳渡証文 屋店支配仁兵衛宛 寛政一年二月	小川組為	一通	五五
長篠村喜左衛門田畑十年季壳渡証文 共 乗本村小川組八左衛門宛 享和元年三月	書添一札	二通	五八
藏平組吉左衛門畑地三年季壳渡証文 左衛門宛 享和元年三月	小川組八	一通	五〇
長篠村平左衛門田畑三年季壳渡証文 左衛門宛 享和元年二月	乗本村八	一通	五九
藏平組久兵衛畑地十年季壳渡証文 門宛 享和元年二月	小川組八左衛	一通	五二
小川組与頭善六恩借金方江山林并畑地相渡証文 為屋八左衛門宛 文化四年二月	畑地相渡証文	一通	八三
乗本村小川組次郎八畑地五年季壳渡証文 地類・与頭・長篠村百姓代・与頭・庄屋連印 八左衛門宛 文化五年二月	証人 小川	一通	五三
小川組宗兵衛畑地壳渡証文 宛 文化六年四月	小川組為屋八左衛門	一通	五四
小川組長兵衛荒地山壳渡証文 中宛 文化八年二月	為屋八左衛門店衆	一通	五七



小川組長兵衛杉立荒地畑壳渡証文 為屋八左衛門宛 文化八年二月	一通	其六	小川組文吉田地壳渡証文 当組為屋八左衛門宛 天保九年二月	一通	其九
乘本村小河組市平田地壳渡証文 同組八左衛門宛 文化一〇年九月	一通	其七	小川組千藏畑地壳渡証文 為屋八左衛門宛 天保九年二月	一通	其八
小川組次郎八田畑壳渡証文 小川組八左衛門宛 文化二年一月	一通	其八	仙藏畑地壳渡証文 為屋八左衛門宛 天保九年二月	一通	其九
小川組与頭清八畑地三年季壳渡証文 為屋八左衛門宛 文政二年二月	一通	其九	小川組茂七田地壳渡証文 当組八左衛門宛 天保一〇年二月	一通	其一〇
付、小川組長兵衛畑地三年季壳渡証文 当組清八宛 文化二年九月	一通	其一〇	倉平組佐右衛門・直七畑地壳渡証文 小川組八左衛門宛 天保一一年三月	一通	其一一
小川組善六畑地壳渡証文 為屋八左衛門宛 文政四年二月	一通	其一一	倉平組村畑地三年季壳渡証文 倉平組村役人五郎兵衛・九左衛門・当役政右衛門 小川組八左衛門宛 天保一三年九月	一通	其一二
長篠村重兵衛畑地壳渡証文 乘本村小川組八左衛門宛 文政七年二月	二通	其一二	村山地壳渡証文 倉平組惣代九左衛門・政右衛門・組頭五郎兵衛 小川八左衛門宛 天保一五年三月	一通	其一三
付、右畑替地二付小川組八左衛門畑地壳渡証文扣 重兵衛宛 文政七年二月	一通	其一三	倉平組忠兵衛田畑壳渡証文 小川組八左衛門宛 弘化二年四月	一通	其一四
大野村兵左衛門畑屋敷壳渡証文 小川八左衛門宛 天保二年二月	一通	其一四	小川彦太夫畑地壳渡証文 当組八左衛門宛 弘化三年二月	一通	其一五
小川組忠次畑山壳渡証文 当組八左衛門宛 天保三年二月	一通	其一五	小川茂七田畑壳渡証文 当組八左衛門宛 弘化三年二月	一通	其一六
長篠村与頭伝右衛門田畑壳渡証文 乘本村八左衛門宛 天保四年八月	一通	其一六	栗衣六左衛門畑地壳渡証文 小川八左衛門宛 嘉永元年二月	一通	其一七
長篠村与頭伝右衛門田畑壳渡証文 (本物返) 乘本村八左衛門宛 天保四年八月	一通	其一七	小川組次郎八山地畑地壳渡証文 小川組為屋八左衛門店案中宛 嘉永元年二月	一通	其一八
小川元吉田地壳渡証文 当組為屋八左衛門宛 天保四年二月	一通	其一八	弘化四年未十二月栗衣組源次郎方買田地壳渡証文 付添書繼証文 小川組主善六 当組八左衛門宛 嘉永二年二月	一通	其一九
小川組榮藏畑地壳渡証文 当組為屋八左衛門宛 天保九年二月	一通	其一九		繼一通	其二〇

鳥原村八左衛門畑地売渡ニ付約定証文 小川村菅沼八左衛門宛 嘉永二年二月	一通	六七	大平売主市郎兵衛畑地売渡証文 小川八左衛門宛 安政二年二月	一通	六五
小川組源兵衛畑地売渡証文 当組為屋内喜三郎宛 嘉永二年二月	一通	六八	長篠村組頭長左衛門畑地売渡証文 小川菅沼八左衛門宛 安政二年二月二十九日	一通	六七
小川組次郎八畑地売渡証文 当組八左衛門宛 嘉永四年九月	一通	六九	市郎兵衛田畑売渡証文 小川八左衛門出店宛 安政三年三月	一通	六六
栗衣組与助畑地売渡証文 小川八左衛門宛 嘉永四年二月	一通	七〇	小川勘吉畑地売渡証文 当組菅沼八左衛門宛 安政五年二月	一通	六〇
川合村平七畑地売渡証文(本物返) 小川八左衛門宛 嘉永三年十一月	一通	七〇	善六畑地売渡証文 当組菅沼八左衛門宛 文久元年二月	一通	六三
小川村与四藏畑地売渡証文 当村八左衛門宛 嘉永四年二月	一通	六二	栗衣組浅蔵田畑売渡証文 菅沼八左衛門宛 慶応元年二月	一通	六三
小川組武八畑地売渡証文 小川組八左衛門宛 嘉永六年二月	一通	六六	大平松五郎畑地売渡証文 小川八左衛門宛 慶応二年六月	二通	六四
小川組畑地山林売渡証文 当組菅沼八左衛門宛 嘉永六年三月	一通	六七	小川組五左衛門畑地売渡証文 当組菅沼八左衛門宛 明治元年二月	一通	六六
小川組友右衛門畑地売渡証文 当組為屋八左衛門宛 嘉永六年二月	一通	六八	市兵衛家屋敷買増金受取ニ付差入一札 乘本村市兵衛組合吉左衛門・源六・組頭喜平治 小川八左衛門宛 明治二年二月	二通	六六
名越村治助畑地売渡証文 小川組八左衛門宛 嘉永六年二月	一通	六三	小川為屋次郎八(為屋出店)田地買代金契約書 長篠村弥之吉宛 明治三年三月二十七日	一通	二三
付、小川次兵衛畑地売渡証文 名越村次助宛 弘化五年四月	一通	六三	小川菅沼兼次郎畑地永代売渡証文 当組菅沼八左衛門宛 明治四年二月	一通	六三
小川組兵右衛門畑地売渡証文 当組為屋八左衛門宛 嘉永七年七月	一通	六三	重左衛門畑地売渡証文 当組八左衛門宛 明治四年二月	一通	六三
倉平組弥八田地売渡証文 小川組八左衛門宛 嘉永七年二月	一通	六三	小川栄蔵畑地売渡証文 当組八左衛門宛 明治四年二月	一通	六四
小川組兵右衛門畑地売渡証文 当組為屋八左衛門宛 嘉永七年二月	一通	六四	蔵平組喜三郎田畑相渡証文 小川八左衛門宛 (年次欠)	一通	六五

長篠村弥三吉地所壳渡証文 小川八左衛門宛 午二月一〇日	一通	六六	塩沢村重平次畑地壳渡証文 同村七郎兵衛宛 天明年二月	一通	五三
○為屋次郎八宛			長篠村内金左七郎畑地五年季壳渡証文 内金組左五七宛 天明六年十二月	一通	五元
小川勘吉畑地壳渡証文 当組為屋次郎八宛 慶応二年三月	一通	六三	塩沢村佐太夫田地壳渡証文 同村吉左衛門宛 文化一〇年十二月	一通	五〇
小川栄蔵田畑壳渡証文 当組為屋次郎八宛 明治元年二月	一通	六二	塩沢村惣平・久買候畑地壳渡書添証文 鳥原村伊兵衛・証人・庄屋連印 塩沢村權左衛門宛 文化一二年十二月	繼一通	五三
長篠村弥之吉田地五年季壳渡契約証文 小川為屋次郎八宛 明治三年三月	一通	六元	塩沢村柳七畑地壳渡証文 同村平次郎宛 天保六年二月	一通	五四
喜七郎畑地拾年季壳渡ニ付契約証文 為屋次郎八宛 明治三年二月	一通	六〇	長篠村善兵衛畑地三年季壳渡証文 当村勘左衛門宛 天保八年三月	一通	五六
○他家宛			付、長篠村長九郎田畑三年季壳渡証文 当村善兵衛宛 文政七年十二月	一通	五七
市川村与次兵衛田畑壳渡証文 長篠村三右衛門宛 享保七年二月	一通	五六	三左衛門田地壳渡証文 次郎兵衛宛 弘化二年二月	一通	五九
上吉田村次郎左衛門・次郎助畑地壳渡手形 藏平村惣八宛 延享二年三月一六日	一通	六〇	栗衣吉左衛門田地壳渡証文 小川善五郎宛 安政二年二月	一通	六六
喜三郎田地壳渡証文 作之右衛門宛 寛延四年三月	一通	六三	貸家・貸地		
長篠村五右衛門畑地壳渡証文 当村西彦作宛 宝曆五年二月	一通	六六	小川組地借弥平・平蔵加地子約定一札 地借兩人并請人善六・半七連印 同組八左衛門宛 明和五年八月	一通	二三
七郎平本畑入札壳渡証文 当村善四郎宛 明和四年一〇月	一通	五三	小川組要吉家賃加地子請合一札 (八家屋敷借用ニ付) 本人要吉・兄善吉・又兵衛・請人善六・藤助連印 小川組八左衛門宛 明和七年正月	一通	二三
浅畑村定八畑地壳渡証文 同村只吉宛 安永二年一二月一四日	一通	五六	八左衛門扣地内借家人新七差出一札 (勝手ニ家普請地形引候段不屈之旨託入) 下書共 本人新七・親類宇平・五人組親茂吉・佗人友吉・金次連印 小川組八左衛門宛 文政五年四月	二通	二六
乗本組千代蔵畑地壳渡証文 栗衣喜重郎宛 安永五年二月	一通	五二			
塩沢村六次郎畑地壳渡証文 同村七兵衛宛 安永八年二月	一通	五三			

江戸本八町堀地所

本八町堀老丁目川岸通地所惣店絵図（坪数・地代書入）

江戸地面購入之節町儀入用書出し 一二月朔日

地代店ちん勘定帳 江戸本八町堀三丁目三川屋八三郎 本家宛 天保一〇年三月

天保十一子年御地代店ちん帳 三河屋八三郎本家宛 天保一二年九月

天保十二丑年十三ヶ月御地代店賃帳 江戸本八町堀三丁目三河屋 本家宛 天保一三年九月

天保十四卯年地代店賃勘定書

（卯年御地代店ちん帳）

御地面上り金調書 三河屋八三郎 弘化四年一〇月

申七月子六月迄半次郎支配分地代店賃差引上り高目録 三河屋八三郎 本店宛 元治元年一二月

申七月子六月迄林三郎支配分地代店賃差引目録 三河屋八三郎 本店宛 元治元年一二月

亥五月子十一月迄店賃并路金入用算用之覚 三河屋八三郎 本家宛 二二月四日

三河屋八三郎書状 屋敷地絵図面添 首欠

江戸抱屋敷普請其他諸入用勘定一紙 三河屋八三郎 本店宛 子一二月

年貢・運上

年貢

①亥ノ御年貢金（両新田本御成箇）請取手形 う川金十郎 う川喜八宛 万治二年一二月六日

嘉平次書付（卯三月子七月迄米代金并去暮勘定殘金之内渡金之覚） 八左衛門宛 卯一二月晦日

御年貢金請取小手形 小川村金十郎 小川村喜八宛 戌一二月二四日

酉年御年貢割付納金勘定書 三郎左衛門分 戌三月一二日

申ノ三郎左衛門分年貢割付配符

戌之御年貢書出し 長篠村内金組頭利左衛門 小川八左衛門宛 戌一二月（宝曆四年カ）

寅ノ御年貢諸役小入用之覚 下平与右衛門 小川八左衛門宛 明和七年

酉年正作分内金組田畑年貢書付 内金組頭伝右衛門 小川正作宛 酉八月

（小川八左衛門扣引地村高反別納米金高書拔）引地村与頭・庄屋 小川八左衛門宛 寛政六年一二月

（乗本村入百姓八左衛門分年貢米金割付帳） 浅畑村役人 八左衛門宛 享和四年三月

浅畑村年貢書出し 浅畑村庄屋清左衛門 小川八左衛門宛 文政九年九月

横長美

飯一冊

三三

一通 一五五

丑之御年貢之覚 上吉田村伝重郎 藏平村惣八郎  
宛 九月朔日

寅御年貢覚 上吉田村伝十郎 惣八郎宛 一二月

○  
刁ノ御年貢割付法(元禄一二年カ) (本書付は親八左  
旨享保一〇年巳三月二四日) (衛門定安筆跡之  
菅沼八左衛門定好添書有り)

水車運上

水車運上永御吟味ニ付差上一札 三州八名郡乗本  
村水車持主八左衛門 岩松直右衛門役所宛 卯一一  
月(明和八年)

①水車増運上御免願書扣 三州八名郡乗本村水車持  
主八左衛門・庄屋・組頭・百姓代奥印 岩松直右衛  
門役所宛 卯一一月

水車運上三年季上納請書 三州八名郡乗本村持主  
八左衛門・庄屋・組頭・百姓代奥印 岩松直右衛門  
役所宛 明和九年二月

水車運上上年季明ニ付跡請減永願書扣 三州八名  
郡乗本村水車持主八左衛門・庄屋正作・組頭善六奥  
印 役所宛 天明四年三月

水車運上上年季切替ニ付七ヶ年御定永願書扣 乘  
本村願主八左衛門・組頭・百姓代・庄屋奥印 赤坂  
役所宛 寛政六年二月

新規水車造立ニ付運上永之儀願書 乗本村稼人  
正藏・名主・与頭奥印 文化六年二月・同年四月

水車運上上年季明ニ付跡請増永御免願書下書 乘  
本村稼人正藏・百姓代・組頭・庄屋奥印 赤坂役所  
宛 文化一三年三月

一通 一五〇  
一通 一五二

一通 三〇

二通 三四

一通 三五  
一通 三六

一通 三五

一通 三六

一通 三七

二通 三八

四通 三九

式々所水車年季明ニ付跡請拾年季運上永之儀願  
書下書 三州八名郡乗本村八左衛門・正藏・百姓代  
・組頭・名主奥印 伊奈玄蕃赤坂役所宛 文政二年  
二月

水車取払之上運上御免之儀願書下書 稼人名主  
正藏・組頭・百姓代加判 羽倉外記赤坂役所宛 文  
政四年一〇月

水車運上上年季明ニ付跡請願書 稼人八左衛門・百  
姓代・組頭・名主奥印 羽倉外記赤坂役所宛 文政  
六年九月

水車運上上年季明ニ付増永跡請願書扣 八名郡乗  
本村稼人八左衛門・百姓代・組頭・名主加印 赤坂  
役所宛 安政六年正月

○  
(水車寸法)

荷物請払置場役永

①乗本村八左衛門願書(同人曾祖父開発之荷物請払  
置場ニ付運上永上納之儀) 願人他、船持惣代次郎八  
・同儀右衛門・庄屋・組頭・百姓代連印 二川役所  
宛 安永六年七月

乗本村諸荷物置場役永年季明ニ付跡請願書 願  
人八左衛門・百姓代・組頭・名主奥印 赤坂役所宛  
文政五年一〇月

荷物請払置場役永無年季定納願書 乗本村願主  
八左衛門・百姓代・組頭・名主奥印 赤坂役所宛  
文政五年一〇月

荷物請払置場役永年季明ニ付跡請願書下書 乘  
本村願主八左衛門・名主・組頭・百姓代奥印 赤坂  
役所宛 文政五年一〇月

二通 三〇

二通 三三

一通 三三

一通 三八

二通 一五〇

一通 二八(一)

一通 二六

二通 二七

一通 三三

① 荷物請払置場役永之儀無年季定納願書 三州八名郡乘本村願人八左衛門・百姓代・与頭・名主奥印赤坂役所宛 文政五年一〇月

① 乘本村八左衛門扣地荷物請払場冥加御年貢無年季定納願書 付尋答書下書 文政五年一〇月  
諸荷物置場役永上納方御免願書下書 (八左衛門) 役所宛 文政一〇年一〇月

① 乘本村八左衛門願書 (同人扣地荷物請払置場役永之儀年貢上納ニ切替被下度旨) 百姓代・組頭・庄屋奥印 役所宛 文政一〇年一〇月

諸荷物置場之儀向後見取御年貢地切替願濟請書 三州八名郡乘本村百姓代半左衛門・組頭兵右衛門・名主平八 赤坂役所宛 文政一一年七月

荷物置場役永年季明ニ付願書下書

### 小作

田畑小作方指引帳 塩沢村役人 小川八左衛門宛 宝曆二二年一二月二四日

小川分之田畑預方勘定帳 塩沢村勇右衛門 八左衛門宛 明和三年一二月

田畑預方取立帳 塩沢村勇右衛門 八左衛門宛 安永九年一二月二六日

\* (小川八左衛門扣引地村高反別納米金高書拔) 引地村役人 小川八左衛門宛 寛政六年一二月

(引地兵藏分年ノ御年貢小作差引寛) 小川八左衛門宛 午一二月

田畑小作嘉地子并茶貫奴差引帳 長篠村久保支配人喜作 小川本家宛 文政三年一二月

菅沼家文書目録 菅沼家 年貢・運上 小作

一通 28 頁(二)

一通 35 頁

二通 三四

一通 28 頁(一)

一通 三五

一通 一五三

横長半

一冊 二六

横長半

一冊 二六

横長半

一冊 二七

横長半

一通 二七

横長半

一通 二六

横長半

一冊 二七

田畑小作帳 三州小川為屋八左衛門 安政七年

田畑小作帳 參州小川為屋八左衛門 明治六年

田畑小作帳 三州小川為屋八左衛門 明治七年

田畑掟取納帳 菅沼八左衛門 明治八年一二月

塩沢村田畑小作人覚帳写

塩沢村猪太夫質地作徳米勘定書付 塩沢村儀兵衛 小川八左衛門宛 未二二月

(田畑付立覚)

加地子取立覚 藏平久左衛門 小川八左衛門宛 子一二月二七日

中切合加地子算用書付 大野庄田兵助 小川菅沼八左衛門宛 一二月二八日

質入田畑小作金高附帳

已御年貢仕加地子差引覚 清左衛門・只吉 小川菅沼八左衛門宛 已一二月二五日

下平与右衛門質地年貢加地子差引覚 清左衛門・只吉

○

設楽郡川合村武七郎小作金滞ニ付向十ヶ年質畑小作支配約定為取替証文案 乘本村八左衛門川合村本人武七郎・庄屋宛

貸付 (「経営帳簿」四五頁)

貸金証文

横長美

一冊 二七

横長美

一冊 二七

横長美

一冊 二七

横長美

一冊 二七

横長美大

一冊 二七

横長半

一冊 二七

一通 二七

一通 二五

横長半

一冊 二五

一通 二六

一通 二六

四通 二七



大野奧林伝兵衛金子預り手形 小川八左衛門宛 元禄一三年一二月二九日	一通	七三
市川六郎左衛門金子借用手形〔畑地書入〕 小川八左衛門宛 宝永五年一二月八日	一通	七四
市川村徳兵衛金子借用手形〔田畑書入〕 小川村八左衛門宛 宝永七年一二月一七日	一通	七五
市川村徳兵衛金子借用手形〔田地書入〕 小川八左衛門宛 正徳元年一二月二二日	一通	七六
山吉田小阿寺村金三郎金子借用手形 小川八左衛門宛 正徳元年一二月二八日	一通	七七
市川村勘七金子借用手形〔畑地書入〕 小川八左衛門宛 正徳三年一〇月二五日	一通	七八
藏平権右衛門・五平實地手形并同人請作書添証文 小川村八左衛門宛 正徳五年一二月	繼一通	二四三
吉田下地鈴木喜多右衛門金子預り証文〔申年仕切殘金滞リニ付〕 小川村菅沼八左衛門宛 享保二年九月八日	一通	七九
吉田下地村九郎左衛門・源五郎金子預り証文〔田地書入〕 小川村八左衛門宛 享保五年一二月二五日	一通	八〇
山吉田紺屋村吉左衛門金子預り手形〔茶引当〕 小川八左衛門宛 享保五年一二月二日	一通	八一
大野村作兵衛・平重郎金子預り手形〔畑地書入〕 小川八左衛門宛 享保五年一二月三日	一通	八二
久間村与三郎田畑質入証文 小川村八左衛門宛 享保六年一二月二四日	一通	二四三
久間村源之丞田畑質入証文 小川村八左衛門宛 享保六年一二月二四日	一通	二四四
久間村与平田畑質入手形 小川村八左衛門宛 享保九年一二月	一通	二四五

小阿寺村源兵衛・市郎右衛門金子借用手形〔手作茶引当〕 享保一一年一〇月一三日	一通	八三
吉川村久兵衛金子借用証文〔田地書入〕 小川村八左衛門宛 享保八年五月一二日	一通	八四
遠州田沢村刑部八・久三郎金子預り証文〔田地書入〕 三州小川菅沼八左衛門宛 享保九年八月九日	一通	八五
市川村虎之助金子借用手形〔田地書入〕 小川村八左衛門宛 享保一一年一二月一八日	一通	八六
久間村助右衛門畑地質入証文 小川八左衛門宛 享保二二年一二月一二日	一通	二四六
川路村十左衛門田地質入手形 小川村八左衛門宛 享保一三年一二月	一通	二四七
倉平村吉左衛門・市兵衛・久右衛門畑地質入証文 小川村八左衛門宛 享保一三年一二月	一通	二四八
權太・長右衛門金子預り証文〔菅沼民部西ノ藏納米引当〕 小川村八左衛門宛 享保一四年一二月二三日	一通	八七
川路村五郎左衛門田地質入金子借用手形 小川村八左衛門宛 享保一四年一二月	一通	八八
市川村源兵衛金子借用手形〔田地書入〕 小川村八左衛門宛 享保一四年一二月	一通	八九
市川村七右衛門・源兵衛金子借用手形〔田畑書入〕 小川村八左衛門宛 享保一五年一二月二〇日	一通	九〇
山吉田内小阿寺村甚助金子借用手形〔畑地書入〕 小川村八左衛門宛 享保一五年一二月二七日	一通	九一
久間村松之助・虎之助差入手形〔加地子未進金之儀田地請戻之節本金ニ可差加旨約定〕 小川八左衛門宛 享保一六年二月	一通	二四九

市川村源兵衛金子借用手形 小川村八左衛門宛 享保一七年二月五日	一通	七四	乗本村幸四郎・善八郎金子借用手形〔杉丸太山 買入ニ付〕 小川村八左衛門宛 延享二年一〇月二〇 日	一通	八七
大河内新左衛門・村上平右衛門旦那用金借用年 賦証文 小川村八左衛門宛 享保一七年二月二八 日	一通	七三	能登瀬村兵七金子借用証文〔畑地書入〕 小川村 八左衛門宛 延享二年一月	一通	八八
久間村助右衛門金子借用手形〔田地書入・手作茶 引当〕 小川八左衛門宛 享保一八年二月	一通	七五	小川七郎左衛門金子借用手形〔手作茶引当〕 八 左衛門宛 延享三年正月	一通	八九
大野村平六金子預り手形 小川村八左衛門宛 享 保一八年二月二八日	一通	七六	久間村忠左衛門・市右衛門・彦七・次平金子借 用手形 小川八左衛門宛 延享三年二月	一通	八二
付、大野村平六生前借用殘金ニ付跡式相続人 恩借添証文 大野村本人又兵衛・第六之助・証人 又右衛門 小川八左衛門宛 元文元年二月	一通	七九	久間市右衛門金子借用手形〔田地書入〕 小川八 左衛門宛 延享三年二月	一通	八三
藏平利右衛門・金太郎質地手形 井同人請作書添 証文 小川村八左衛門宛 享保一九年二月	一通	二五	久間忠左衛門・次平・市右衛門・彦七金子借用 手形〔手作茶引当〕 小川八左衛門宛 延享三年一 二月	一通	八三
川路村庄太夫金子借用手形〔藪地書入〕 小川八 左衛門宛 享保二〇年二月二日	一通	七九	久間助右衛門金子借用手形〔畑地書入〕 小川村 八左衛門宛 延享三年二月	一通	八四
川路村神宮寺金子借用手形〔田地書入〕 小川八 左衛門宛 元文二年二月	一通	八〇	山吉田村喜八郎金子借用手形〔手作茶引当〕〔宛 書なし〕 延享四年一〇月二六日	一通	八五
久間村庄三郎田地質入証文 小川八左衛門宛 元 文二年二月	一通	二五	久間忠左衛門金子借用手形〔畑地書入〕 小川八 左衛門宛 延享四年二月	一通	八六
山吉田紺屋村平八金子借用手形 小川八左衛門 宛 元文三年二月一七日	一通	八一	久間彦七金子借用手形〔畑地書入〕 小川八左衛 門宛 延享四年二月	一通	八七
山吉田柿本村忠右衛門・清兵衛金子借用手形 〔畑地書入〕 小川村八左衛門宛 元文四年二月二 六日	一通	八二	久間次平金子借用手形〔田地書入・手作米引当〕 延享四年二月	一通	八八
久間助右衛門金子預り証文 小川八左衛門宛 元 文五年二月	一通	八三	山吉田山中村次郎七金子借用手形〔茶畑書入〕 小川八左衛門宛 延享五年六月二七日	一通	八九
田代金七恩借金年賦証文〔畑地書入・手作茶引当〕 乗本八左衛門宛 戊二月〔寛保二年カ〕	一通	八四	久間忠左衛門恩借金年賦手形〔田地書入〕 小川 村八左衛門宛 寛延元年二月	一通	九〇

小川七郎左衛門後家金子借用手形〔田畑家財不殘書入〕八左衛門宛 寛延元年八月	一通	八三	倉平甚助金子借用手形〔畑地書入〕小川村八左衛門宛 宝曆四年十二月	一通	八〇
（父六左衛門關所物村惣代中御買請被下ニ付請取一札等）川路村本人彦太郎・証人弟彦五郎・六之助・同人祖父六太夫連印 大峠村藤左衛門・乘本村八左衛門・出沢村平右衛門・黒瀬村甚九郎・同所兵左衛門宛 寛延三年八月	一通	三五	倉平村次郎兵衛金子借用手形〔手作茶引当〕小川八左衛門宛 宝曆五年二月	一通	八三
付、川路村彦太郎恩借金年賦証文〔父六左衛門關所田畑居屋敷家財不殘村中買戻ニ付〕本人彦太郎・証人弟彦五郎・祖父六太夫 大峠村藤左衛門・乘本村八左衛門・出沢村平右衛門・黒瀬村甚九郎・兵左衛門宛 寛延三年二月	一通	八三	慈広寺金子借用手形 菅沼八左衛門宛 宝曆六年十二月	一通	八三
乘本村八左衛門金子借用証文 証人大峠村藤左衛門・出沢村平右衛門・黒瀬村甚九郎・兵左衛門加印 下吉田村九太夫宛 寛延三年十二月	一通	八三	山吉田小阿寺村太郎兵衛米手金証文 小川村菅沼八左衛門宛 宝曆七年二月一日	一通	八三
久間忠左衛門金子借用手形 小川村八左衛門宛 寛延三年十二月	一通	八四	大野村長次郎・清左衛門茶手金証文 乘本之内小川村八左衛門宛 宝曆八年九月二八日	一通	八四
山吉田元右衛門金子借用手形〔田地書入・手作茶引当〕小川村八左衛門宛 寛延四年十二月二七日	一通	八五	小阿寺村伊平太茶手金証文 小河八左衛門宛 宝曆八年十二月二六日	一通	八五
久間村助右衛門金子借用手形〔畑地書入・手作茶引当〕小川村八左衛門宛 宝曆元年二月	一通	八六	倉平市右衛門賃入地替地証文 小川村八左衛門宛 宝曆九年二月	一通	二五
塩沢村儀兵衛質地証文 小川八左衛門宛 宝曆元年二月	一通	八七	田代村弥兵衛金子借用手形〔手作茶引当〕小川村八左衛門宛 明和元年閏二月	一通	八六
付、塩沢村兵助質地証文并賃入田地高付御年貢作徳米書付 同村儀兵衛宛 宝曆元年二月	一通	二五	田代村勘十金子借用手形 小川八左衛門宛 明和三年二月	一通	八七
大平平三郎・源四郎金子借用手形〔米酉出来米引当〕小川村八左衛門宛 宝曆二年二月	一通	八六	長篠村次郎九恩借金年賦手形〔田地書入〕乘本村小川八左衛門宛 明和四年十二月	一通	八六
下平村長次郎金子借用手形〔手作茶引当〕小川村八左衛門宛 宝曆三年二月	一通	八六	塩沢村伊左衛門・十平質地証文 高付御年貢預ケ米加地子書付添 小川八左衛門・三郎次宛 明和六年二月	二通	八六
長篠村庄右衛門田地賃入証文 乘本村八左衛門宛 宝曆四年七月	一通	二五	門谷弥次郎金子借用手形〔長篠畑地書入〕乘本八左衛門宛 明和七年六月	一通	八四
			山吉田定国村利右衛門金子借用手形〔手作茶引当〕小川村八左衛門宛 明和七年二月	一通	八四
			浅畑村甚右衛門金子借用証文〔手作茶引当〕乘本村八左衛門宛 明和七年十二月	一通	八四

藏平与三郎金子借用証文〔杉木・榎木林書入〕 小川八左衛門宛 明和七年二月	一通 八三	藏平組吉左衛門金子借用手形〔手作茶引当〕 小川組八左衛門宛 安永五年二月	一通 八五
山吉田助右衛門・助八郎金子借用証文〔手作茶引当〕 小川村八左衛門宛 明和八年九月	一通 八四	黒谷村加右衛門茶金借用証文 小川村八左衛門宛 安永五年二月	一通 八五
下平村善吉金子借用証文〔手作茶引当〕 乘本村八左衛門宛 明和八年二月	一通 八五	浅畑村伊八金子借用手形〔手作茶引当〕 乘本村八左衛門宛 安永五年二月	一通 八五
下平村甚八郎田畑質入証文 付、已二月右田畑作徳明細勘定書付 乘本村八左衛門宛 安永元年二月	二通 二五	栗衣六左衛門金子借用年賦証文 小川八左衛門宛 安永五年二月	一通 八五
浅畑村伊八金子借用証文〔手作茶引当〕 乘本村八左衛門宛 安永二年三月	一通 八四	藏平五郎八金子借用手形〔手作茶引当〕 安永六年二月	一通 八五
浅畑村伊八田地質入証文 乘本村八左衛門宛 安永二年三月	一通 二五	長篠村内金嘉右衛門商売仕入金借用証文〔胡麻油・荏油六樽書入〕 小川八左衛門宛 安永九年二月	一通 八六
設楽郡河合村武七畑地質入証文 添証文共 八名郡乘本村八左衛門宛 安永三年九月	一通 八四	門谷文治・留藏金子借用証文〔手作茶引当〕 小川村八左衛門宛 天明元年二月	一通 八六
浅畑村伊八金子借用手形〔手作茶藍引当〕 小川村八左衛門宛 安永三年二月	一通 八四	小川武八恩借金年賦証文〔畑地質入〕 小川組為屋八左衛門宛 天明七年三月	一通 八五
藏平組次郎右衛門・吉太郎恩借金ニ付質畑書入証文案紙 小川組八左衛門宛 安永四年八月他	二通一紙 八四	大峠村平左衛門金子借用手形〔手作茶書入〕 小川村八左衛門宛 寛政三年二月	一通 八五
八名郡名号村次兵衛恩借金ニ付質畑書入証文案紙 乘本村八左衛門宛 安永四年二月	一通 八五	内金嘉右衛門・嘉十・十吉金子借用証文〔大黒講半口分書入〕 八左衛門手代中宛 寛政四年二月	一通 八六
八名郡名号村次兵衛恩借金証文案紙 乘本村八左衛門宛 未二月〔安永四年力〕	一通 八五	長篠村内金佐五七・重太郎借用金年賦証文〔通船老艘書入〕 乘本小川八左衛門宛 寛政五年二月	一通 八七
藏平吉左衛門金子借用手形〔手作茶引当〕 小川八左衛門宛 安永四年閏二月	一通 八三	田代村武八金子借用証文〔手作茶引当〕 乘本村八左衛門宛 寛政五年二月	一通 八六
浅畑村善右衛門質地証文 乘本村八左衛門宛 安永五年三月	一通 二五	田代村惣右衛門茶金借用証文 小川為屋八左衛門宛 寛政六年二月	一通 八七
浅畑村甚右衛門質地証文 乘本村八左衛門宛 安永五年三月	一通 二六	田代村岩次郎茶手金手形 小川八左衛門宛 寛政七年二月一日	一通 八七

川合市左衛門山不足金借用証文 小川八左衛門宛 寛政八年一月	一通	八三	長篠村半右衛門金子借用証文〔茶手金〕 八左衛門宛 文化四年一月一日	一通	八六
塩沢村彦八恩借金年賦証文〔畑地書入〕 小川八左衛門宛 寛政九年二月二〇日	一通	八三	塩沢村彦八恩借金年賦証文〔畑地書入〕 乗本村八左衛門宛 文化四年二月	一通	八七
通久保村權十・俸長十金子借用証文〔山林書入〕 乗本村八左衛門宛 寛政九年二月	一通	八四	椎平熊吉恩借金年賦証文〔茶手金〕 小川八左衛門宛 文化四年二月	一通	八六
池場村政右衛門恩借金年賦証文〔杉小立老力所書入〕 乗本村八左衛門宛 寛政一〇年二月	一通	八五	蔵平新蔵恩借金年賦証文〔田地書入〕 文化七年二月	一通	八九
上吉田村次郎右衛門米手金借用証文〔田地書入〕 小川村八左衛門宛 寛政一二年二月	一通	八六	横山村追沢百次郎恩借金年賦証文〔畑地書入〕 小川八左衛門宛 文化七年二月	一通	八九
設楽郡寺林村米吉實地証文 八名郡乗本村八左衛門宛 寛政一二年二月	一通	二六	大野次兵衛金子借用一札 小川八左衛門宛 文化七年二月	一通	一四六
田代村金七茶金借用証文 八左衛門宛 享和元年二月	一通	八七	長篠村内金三七金子借用一札 乗本村小川八左衛門宛 文化七年二月	一通	八九
①浅畑村茶手金手形 浅畑村百姓惣代六藏・組頭伊八・同断宗右衛門・庄屋清八連印 乗本村八左衛門宛 享和元年二月	一通	三五	清井田村園右衛門金子借用証文〔田地書入〕 文化八年二月	一通	八五
長篠村六平恩借金年賦証文 乗本村八左衛門宛 享和二年二月	一通	八八	塩沢村兵藏質畑請戻金借用＝付添書一札 塩沢村借主孫右衛門・請人次右衛門 小川八左衛門宛 文化一〇年二月二〇日	一通	八五
椎平清左衛門恩借金年賦証文〔畑地書入〕 小川八左衛門宛 享和三年二月	一通	八九	山吉田源右衛門金子借用証文 小川八左衛門宛 文化二年三月	一通	八九
有海村庄司・伊惣次金子借用証文〔元金十力年据置〕 小川村八左衛門宛 享和三年二月	一通	八〇	塩沢村惣四郎恩借金年賦証文〔田地書入〕 小川八左衛門宛 文化二年二月	一通	八五
椎平熊吉恩借金年賦証文〔茶手金〕 小川八左衛門宛 文化三年二月	一通	九〇	乗本村本郷組彦兵衛金子借用証文〔畑地質証文質入〕 小川組八左衛門宛 文化二年二月	一通	八六
乗本村本郷組幸平借用金年賦証文〔田地質入〕 当所小川組八左衛門宛 文化四年二月	一通	八四	吉村慶蔵院金子借用証文〔畑地書入〕 小川八左衛門宛 文化二年二月	一通	八六
長楽茂右衛門恩借金年賦証文〔茶手金〕 小川八左衛門宛 文化四年二月	一通	八五	蔵平組新蔵金子借用手形〔畑地・山書入〕 小川組八左衛門宛 文化一三年二月	一通	九〇

下平村久右衛門借用金年賦証文 乗本八左衛門宛 文化一四年四月	一通	九〇六	小野屋惣助金子借用証文〔家屋敷書入〕 菅沼八左衛門宛 文政九年十一月一九日	一通	九〇元
塩沢村清吉金子借用証文〔米手金〕 小川八左衛門宛 文化一四年二月	一通	九〇七	内金油屋嘉右衛門滞り金濟方引請之儀口上書内金利平吉・九郎左衛門・政右衛門・助左衛門・久左衛門 小川為屋八左衛門宛 文政九年十二月一日	一通	九〇三
槇原定七金子借用手形〔杉山立木共書入〕 小川村八左衛門宛 文政元年二月	一通	九一〇	塩沢村平吉金子借用証文〔茶手金〕 小川八左衛門宛 文政九年十二月	一通	九一三
塩沢村源吉恩借金年賦証文〔畑地書入〕 乗本村八左衛門宛 文政二年二月	一通	九一三	小川組清兵衛恩借金ニ付引請一札 同組竜保小川組為屋八左衛門宛 文政九年十二月	一通	九一三
山吉田上吉田村次郎右衛門金子借用手形〔田地書入〕 小河菅沼八左衛門宛 文政二年二月二三日	一通	九一四	小阿寺十兵衛金子借用手形〔杉山書入〕 小川村八左衛門宛 文政九年十二月	一通	九一四
塩沢村又右衛門金子借用証文〔米手金〕 小川為屋八左衛門宛 文政三年二月	一通	九一五	小川組清八恩借金年賦証文〔田地書入・茶手金〕 小川組為屋八左衛門宛 文政一〇年十一月	一通	九一六
倉平組新藏恩借金年賦証文〔榎木立山并畑地書入〕 小川組八左衛門宛 文政五年二月	一通	九一九	新城樽屋正左衛門米代金借用証文 小川菅沼八左衛門宛 文政一〇年十一月	一通	九二〇
槇原某年賦金証文〔杉林書入〕 小川八左衛門宛 文政五年二月	一通	九二〇	小川組磯七金子借用証文〔鵜飼船書入〕 当組清兵衛宛 文政一〇年十二月	一通	九二一
吉村半次郎恩借金年賦証文〔田地書入〕 小川為屋八左衛門宛 文政六年二月	一通	九二三	下々村宇兵衛田地買金借用年賦証文〔田地書入〕 乗本村菅沼八左衛門宛 文政一〇年十二月	一通	九二三
一色清三郎内浜中啓太夫金子預り証文 菅沼八左衛門宛 文政七年二月	一通	九二三	小川組清八金子借用証文〔畑地書入〕 当組為屋八左衛門宛 文政一一年一〇月	一通	九二四
長篠村内金嘉右衛門金子借用証文〔山地書入〕 小川八左衛門宛 文政七年二月	一通	九二四	栗代由右衛門山仕入金借用一札〔江戸三川屋登り金引当〕 小川八左衛門宛 文政一三年十二月	一通	九二六
上津具村増屋政右衛門借用金引当書入之山荷物仕出之儀引請添証文付、戊一〇月三日同人口上書 為屋八左衛門宛 文政八年一〇月	一通	九二六	小林作左衛門荷物仕入金借用証文〔杉山書入〕 乗本村小川組八左衛門宛 天保二年一〇月	一通	九二七
上津具村増屋政右衛門莫荷物并檜原山代内金借用証文 乗本村為屋八左衛門宛 酉二月二三日	一通	九二七	栗代村由右衛門当卯御年貢并山仕入金借用一札 小川八左衛門宛 天保二年十一月	一通	九二八
久間組与兵衛恩借金年賦証文〔畑地書入・元金六ヶ年据置〕 小川組八左衛門宛 文政九年二月	一通	九二八			

長篠村弁藏家普請入用金借用証文 小川為屋八左衛門宛 天保三年三月	一通	六九
塩沢村七郎兵衛恩借金年賦証文 乗本村八左衛門宛 天保三年三月	一通	七〇
粟代村要之助金子借用証文 小川為屋八左衛門宛 天保三年二月	一通	七三
粟代村由右衛門御年貢并山仕入金借用一札 小川八左衛門宛 天保三年二月	一通	七三
山本屋甚兵衛金子借用証文〔見世藥種引当〕 為屋八左衛門宛 天保四年九月	一通	七四
三劔長篠林助左衛門金子借用証文 小川菅沼八左衛門宛 天保五年七月	一通	七五
遠州木船村半兵衛借用金年延約定ニ付請合添一札 同村仁三郎 三州小川為屋八左衛門・治助宛 天保五年一月	一通	二〇六
峯村利兵衛金子借用証文〔畑地書入〕 小川八左衛門宛 天保五年二月	一通	七五
峯村利兵衛金子借用証文〔田地書入〕 小川八左衛門宛 天保五年二月	一通	七六
塩沢村平次郎金子借用証文〔米手金〕 小川村八左衛門宛 天保五年二月	一通	七六
下々村八右衛門金子借用証文〔鳳来寺地獄谷杉立木仕入金〕 小川菅沼八左衛門宛 天保五年二月	一通	七六
下々村八右衛門金子借用証文〔鳳来寺山仕入金〕 小川菅沼八左衛門宛 天保六年一月	一通	七六
下々村八右衛門金子借用証文〔山仕入金〕 小川菅沼八左衛門宛 天保六年二月	一通	七六
付、三州八名郡乗本村八左衛門〆菅沼織部正領分設楽郡下々村八右衛門江掛ル他借金貸渡滞一件訴狀 菅沼織部正役場役人中宛 天保一三年四月	一通	二

菅沼織部正領分設楽郡下々村八右衛門江掛ル貸金滞出入訴狀添翰願書案 小笠原信助代官所三州八名郡乗本村八左衛門煩ニ付召使武八 赤坂役所宛 天保一三年四月	一通	二〇七
八名郡乗本村八左衛門〆設楽郡下々村八右衛門江掛ル貸金滞出入一件内済取扱規定通印一札 出入双方并取扱人三名・両村名主連印 天保一三年六月	一通	三
遠州豊田郡浦川半兵衛金子借用証文〔同人扣山杉立木書入〕 三州小川次郎八宛	一通	七三
下々村八右衛門金子借用証文〔仕入山荷物書入〕 小川菅沼八左衛門宛 天保七年二月	一通	七三
小川組弥吉金子借用証文〔家屋敷書入〕 八左衛門宛 天保八年七月	一通	七四
椎平村万之助金子借用証文〔畑地書入〕 小川村為屋八左衛門宛 天保八年二月	一通	七五
鳥原村八左衛門金子借用証文〔来戌出来米引当〕 小川為屋八左衛門宛 天保八年二月	一通	七六
下草村周藏桐山仕賃不足金借用証文〔田地書入〕 乗本村八左衛門宛 天保八年一月	一通	七六
粟代村要之助金子借用証文〔杉頭木書入〕 小川村為屋重助・次助宛 天保八年二月	一通	七六
小阿寺村重兵衛金子借用証文〔檜山書入〕 小川八左衛門宛 天保八年二月	一通	七六
粟代村由右衛門山仕入金恩借金年賦証文〔頼母子落札金引当〕 小川村八左衛門宛 天保九年四月	一通	七六
粟代村由右衛門山仕入金恩借金年賦証文〔杉山田畑書入〕 小川村八左衛門宛 天保九年四月	一通	七六
粟代村由右衛門借用金引当之杉木引渡一札 小川村八左衛門・布川榮左衛門宛 天保一一年九月	一通	二〇五

粟代村由右衛門借用金引当杉木代金不足分延書一札 和知野村源兵衛宛 天保一〇年九月	一通	二〇三
粟代村由右衛門藏老軒売払代金差出一札 小川八左衛門・布川榮左衛門宛 天保一一年九月	一通	二〇六
頼母子証文引渡ニ付加判一札 粟代村本人由右衛門・受人八左衛門・作藏・平左衛門・弥三郎 小川八左衛門・布川榮左衛門宛 天保一一年九月	一通	二〇六
粟代由右衛門分頼母子目録帳 天保一一年一月	一冊	二〇三
粟代村由右衛門年賦金滞ニ付引当之頼母子講口譲渡之儀取究一札 小川八左衛門・布川榮左衛門宛 天保一一年二月	一通	二〇九
新城山本屋桃右衛門滞金年賦証文 小川為屋八左衛門宛 天保九年一月	一通	二〇〇
布川榮左衛門金子借用証文〔粉荷引当〕 川合村藤吉・小川八左衛門宛 天保一〇年七月	一通	二〇三
小川組茂七恩借金年賦証文 当組八左衛門宛 天保一〇年一月	一通	二〇四
塩沢村仙吉金子借用証文〔米手金〕 小川八左衛門宛 天保一〇年二月	一通	二〇七
塩沢村平次郎金子借用証文〔米手金〕 小川八左衛門宛 天保一〇年二月	一通	二〇八
粟代村六左衛門借用割済金滞ニ付大黒講金書入書添証文 小川八左衛門宛 天保一一年一月	一通	二〇四
大平組金七金子借用証文〔畑地書入〕 小川八左衛門宛 天保一二年二月一三日	一通	二〇六
塩沢村千代次郎恩借金年賦証文〔畑地書入〕 小川八左衛門宛 天保一二年二月	一通	二〇三
塩沢村平次郎金子借用証文〔米手金〕 小川八左衛門宛 天保一二年二月	一通	二〇五

栗衣村長左衛門金子借用証文 小川八左衛門宛 天保一三年二月	一通	二〇三
設楽郡下田村枝郷小田組庄五郎金子借用証文〔杉山老ケ所書入〕 天保一三年二月	一通	二〇四
東上村太左衛門金子借用証文〔田地書入〕 天保一三年二月	一通	二〇六
小川組伊兵衛金子借用証文〔畑地書入〕 当組八左衛門宛 天保一四年二月二六日	一通	二〇七
門前村七藏金子借用証文〔頼母子落札金引当〕 小川為屋八左衛門宛 天保一四年二月	一通	二〇八
横山村弥吉金子借用証文〔茶手金〕 小川村八左衛門宛 天保一四年二月	一通	二〇九
小川組源兵衛金子借用証文〔畑地書入〕 当組為屋八左衛門宛 天保一四年二月	一通	二一〇
塩沢村仁兵衛金子借用証文 小川八左衛門宛 天保一五年四月二二日	一通	二一一
塩沢村龜吉金子借用証文 小川為屋八左衛門宛 天保一五年二月	一通	二一三
大平村又兵衛金子借用証文 小川組八左衛門宛 弘化二年三月	一通	二一四
小川組十右衛門金子借用証文 当組八左衛門宛 弘化二年四月	一通	二一五
小川組清兵衛金子借用証文〔畑地書入〕 当組八左衛門宛 弘化二年二月	一通	二一六
小川組次兵衛金子借用証文〔松材・同間木引当〕 為屋八左衛門宛 弘化二年一月	一通	二一七
栗衣組源次郎山買代金借用証文 小川組為屋八左衛門宛 弘化二年一月	一通	二一八



大平組七兵衛金子借用証文 小川組八左衛門宛 弘化二年二月	一通 九九	小川組源兵衛金子借用証文〔畑地書入〕 当組為 屋八左衛門宛 嘉永三年二月	一通 一〇五
塩沢村仁兵衛金子借用証文〔畑地書入〕 小川菅 沼八左衛門宛 弘化二年二月	一通 一〇〇	①鳳来寺日輪院金子借用証文 小川菅沼八左衛門宛 嘉永五年二月	一通 35 二四九
長篠村藤右衛門恩借金年賦証文〔家屋鋪買求ニ 付〕 小川為屋旦那・賄中宛 弘化三年二月	一通 一〇二	小川組栄蔵金子借用証文〔畑地書入〕 当組八左 衛門宛 嘉永六年八月	一通 一〇七
栗衣組次郎兵衛金子借用証文〔田地書入〕 小川 八左衛門宛 弘化三年一〇月	一通 一〇五	沢潟屋弥兵衛金子借用証文 為屋治兵衛・喜三郎 宛 嘉永六年一〇月	一通 一〇六
塩沢村利右衛門恩借金年賦証文〔畑地書入〕 小 川為屋八左衛門宛 弘化四年二月	一通 一〇六	塩沢村伊兵衛借用金年賦証文〔畑地書入〕 小川 村八左衛門宛 嘉永六年二月	一通 一〇九
塩沢村源吾恩借金年賦証文〔田地書入〕 小川八 左衛門宛 嘉永元年二月	一通 一〇六	小川組五左衛門金子借用証文〔畑地書入〕 当組 八左衛門宛 嘉永六年二月	一通 一〇〇
塩沢村仁兵衛・作七・源助金子借用証文〔畑地 書入〕 小川八左衛門宛 嘉永元年二月	一通 一〇九	大平組市郎兵衛金子借用証文〔中泉井筒方宿 飯料弘方差支ニ付杉立林書入〕 小川組八左衛門代人 次助宛 嘉永七年八月	一通 一〇三
小川組徳兵衛金子借用証文〔畑地書入〕 八左衛 門宛 嘉永二年一月	一通 一〇〇	小川善六金子借用証文〔畑地書入〕 当組為屋八 左衛門宛 嘉永七年二月	一通 一〇三
①鳳来寺一乗院印証〔恩借金年賦返済約定〕 同所 日輪院証印 小川菅沼八左衛門宛 嘉永二年二月	一通 35 二四	出沢村権左衛門金子借用証文 小川菅沼八左衛門 宛 安政二年一月	一通 一〇三
①一乗院年賦金当暮差出之利足金覚 小川菅沼八 左衛門宛 西二月（嘉永二年カ）	一通 35 二五	小川組善五郎金子借用証文〔田地書入〕 菅沼八 左衛門宛 安政二年一月	一通 一〇四
①円琳院昨亥暮年賦金滞ニ付書添一札 門谷町取 次仁兵衛証印 菅沼八左衛門宛 子二月	一通 35 二四七	小川組勘吉金子借用証文〔田地書入〕 当所為屋 八左衛門宛 安政二年二月	一通 一〇五
菅田作蔵金子借用証文 菅沼八左衛門宛 嘉永三 年八月二十八日	一通 一〇三	藤七金子借用証文〔畑地書入〕 小川組菅沼八左 衛門宛 安政三年一月	一通 一〇六
小川組友右衛門金子借用証文〔畑地書入〕 当組 菅沼八左衛門宛 嘉永三年二月	一通 一〇三	小川勘吉金子借用証文〔畑地書入〕 当組菅沼八 左衛門宛 安政三年二月	一通 一〇七
小川組松四郎金子借用証文〔畑地書入〕 当組菅 沼八左衛門宛 嘉永三年二月	一通 一〇四	出沢村長重金子当借証文 小川菅沼八左衛門宛 安政五年二月	一通 一〇〇

乘本幸右衛門借用金年賦証文〔畑地書入〕 小川  
 菅沼八左衛門宛 安政五年十二月 一通 一〇三  
 長篠村陽兵衛金子借用証文〔鵜飼船株共書入〕  
 小川菅沼八左衛門宛 安政六年十一月 一通 一〇三  
 山吉田村新戸惣左衛門金子借用証文 小川為屋  
 治郎八宛 安政七年閏三月 一通 一〇三  
 村方入用金借用証文〔田地書入〕 大平組五人組  
 小平治・作藏・組頭卯兵衛連印 小川村菅沼八左衛  
 門宛 文久三年十二月 一通 一〇六  
 乘本村久間組茂右衛門金子借用証文〔畑地書入〕  
 小川菅沼八左衛門宛 万延元年十二月 一通 一〇四  
 遠州的場村万吉商物仕入金借用証文〔種粕百枚  
 書入〕 三州小川為屋八左衛門出店宛 元治元年一  
 〇月 一通 一〇七  
 本郷市兵衛金子借用証文〔なぎのくぼ山上木書  
 入〕 小河組為屋治郎八宛 慶応二年一〇月 一通 一〇六  
 岡村栄作去々丑年借用之殘金済方ニ付差入一札  
 為屋出店宛 慶応三年九月 一通 一〇六  
 長篠村婦志屋源十郎白焰焔荷物代金借用証文  
 〔有合之瀬戸物品々引当〕 小川為屋見世棟二宛  
 慶応三年二月二十六日 一通 一〇六  
 白焰代金滞ニ付加判立合借用更改証文 長篠村  
 西婦志屋源十・引受くわしや重助・字平 小川為屋  
 見世棟二宛 慶応三年七月 一通 一〇六  
 乘本村倉平組順作金子借用証文 小川組八左衛  
 門宛 慶応三年十二月 一通 一〇三  
 設楽郡奈根村仁吉金子借用証文〔畑地書入〕 乘  
 本村八左衛門手代衆中宛 慶応四年八月 一通 一〇四  
 乘本村倉平組政五郎金子借用証文〔畑地書入〕  
 小川組八左衛門宛 明治元年十二月 一通 一〇五

奈根太兵衛金子借用証文〔持山杉木四尺以上貳百  
 本書入〕 小川八左衛門宛 明治元年十二月 一通 一〇六  
 源治郎金子借用証文〔畑地書入〕 小川為屋出店  
 宛 明治二年三月 一通 一〇七  
 借用金年季約定証文雛形〔田地書入〕 書入田地  
 作徳諸掛り差引書共 為屋次郎八宛 明治二年一  
 月 一通 一〇六  
 井代村幸平茶代金滞ニ付借用金書替証文 小川  
 村為屋出店治郎八宛 明治三年四月 一通 一〇九  
 市川村長左衛門金子借用証文〔田地書入〕 小川  
 為屋店八左衛門宛 明治四年二月 一通 一〇五  
 有海村鉄吉金子借用証文 小川八左衛門宛 明治  
 四年三月 一通 一〇五  
 栗衣組藥師堂徹道金子借用証文〔米三俵引当〕  
 小川組本家若旦那宛 明治四年十二月 一通 一〇三  
 大平和助金子借用証文〔米手金〕 小川為屋店宛  
 明治四年十二月 一通 一〇三  
 有海村金作金子借用証文〔田地書入〕 小川八左  
 衛門宛 明治四年十二月 一通 一〇四  
 栗衣組吉左衛門金子借用証文〔米手金〕 小川組  
 菅沼八左衛門宛 明治五年三月 一通 一〇五  
 市川村長左衛門金子借用証書〔林老枚書入〕 小  
 川村菅沼八左衛門宛 明治六年十一月 一通 一〇六  
 市川村長左衛門金子借用証書〔林老枚書入〕 小  
 川村為屋八左衛門宛 明治七年一〇月 一通 一〇七  
 市川村長左衛門金子借用証書〔林老枚書入〕 小  
 川為屋八左衛門宛 明治七年十一月 一通 一〇六  
 長篠村森下半兵衛借用金証書 乘本村菅沼八左衛  
 門宛 戊辰十一月〔明治七年々〕 一通 一〇五

市川荒川長左衛門借用金証書〔林老枚書入〕 小川菅沼八左衛門宛 明治八年二月一日	一通	一〇六二	山吉田柿本太郎右衛門茶手金借用証文 小川八左衛門宛 申二月十七日	一通	一〇八四
八名郡乗本村大平組金原平作借用金証書 同人山代金内訳書添 乗本村小川菅沼耕一宛 明治一年二月一日〇日	一通	一〇六三	山吉田田中太郎左衛門茶手金借用証文 小川村八左衛門宛 酉一〇月二十五日	一通	一〇八五
次郎八金子借用証文 小河八左衛門宛 申二月	一通	一〇六四	栗代村仙左衛門・乙八・用之助借用講金滞ニ付差出一札 小川為屋八左衛門宛 戊四月	一通	一〇八六
おみを・善六金子借用証文 為屋内お定宛 戌二月	一通	一〇六五	前芝権兵衛借用金請取仮証 小川菅沼八左衛門宛 戌九月二十七日	一通	一〇八九
大草新八茶手金借用証文 八左衛門宛 辰二月二十八日	一通	一〇六六	○ 乗本村八左衛門宛恩借金証文雛形	一通	一〇六三
赤坂源四良金子借用覚〔古筆手鑑質入〕 小川八左衛門宛 未六月一八日	一通	一〇六九	○ 内金六平口上之覚〔茶拾老本分ニ而借用金利息分勘定可被下旨〕 為屋八左衛門代中宛 申二月二十八日	一通	一〇七〇
長篠村内金六平金子借用一札 小川八左衛門宛 戌二月	一通	一〇七〇	鈴木金七口上〔茶手金借用之件〕 菅沼八左衛門宛 二月一〇日	一通	一〇八六
長篠村四郎治金子借用証文 小河為屋店宛 巳一〇月	一通	一〇七一	三州栗代中屋弥三郎差入一札〔利金延引ニ付〕 小川村八左衛門代次助宛 戊四月	一通	一〇九〇
山吉田田中村太郎左衛門茶手金借用手形 小川村八左衛門宛 未二月二三日	一通	一〇七五	栗代嘉蔵口上〔借用金返済之件〕 小川次助宛 戊四月五日	一通	一〇九六
塩沢村権左衛門金子借用証文〔米手金〕 小川八左衛門宛 辰三月	一通	一〇七六	○		
正福寺借用金預り印証 日輪院 菅沼八左衛門宛 未二月	一通	一〇七九	取替金残高元利書出し 為屋八左衛門 吉川源六宛 未三月	一通	一〇九三
塩沢村平次郎金子借用証文 小川為屋八左衛門宛 亥八月二日	一通	一〇八〇	午十二月貸金元利残金算用書出し 為屋八左衛門 塩沢儀左衛門・与八宛 未大晦日	一通	一〇八七
小川彦吉金子借用証文〔薪山老力所書入〕 為屋八左衛門宛 戌二月	一通	一〇八一	丑十一月元金六百両之元利金之覚 辰三月一三日	一通	一〇八三
長篠村内金六平金子借用証文〔当年分年賦金延滞ニ付〕 乗本村小川八左衛門宛 子二月大晦日	一通	一〇八三	差引不足金書出し 為屋八左衛門 平七宛 亥九月	一通	一〇九〇

○他家宛

川路村惣兵衛金子借用証文〔田地書入〕 久兵衛宛 寛文八年二月一日	一通 二四二
小川村金十郎金子借用証文 大野奧林德右衛門宛 宝曆五年二月	一通 三〇六
小川村菅沼金十郎金子借用証文 新城上町鈴木吉左衛門宛 宝曆一〇年二月	一通 三〇七
小川菅沼金十郎借用金年賦書添証文 新城上町鉦屋吉左衛門家 宝曆一二年二月	一通 三〇八
長楽村浅右衛門金子借用手形 椎平清右衛門宛 安永六年二月	一通 八六
下平村吉右衛門金子借用証文〔茶畑・山書入〕 浅畑村長兵衛宛 天明五年二月	一通 一〇八
栗代村由右衛門一札〔江戸表借用金御引請被下二付杉頭木六百本書入〕 吉田宿佐藤新兵衛宛 天保三年一〇月	一通 五二
長篠村勘左衛門金子借用証文〔田地買古証文書入〕 当村半兵衛宛 天保八年二月	一通 一〇九
大平組小源太金子借用証文 小川組政吉宛 弘化三年七月	一通 一〇四
大平組市郎兵衛金子借用証文〔頼母子講金引当〕 同組源助宛 嘉永元年一月	一通 一〇二
吉村忠兵衛山代金借用手形 岡村孫吉宛 文久三年二月	一通 一〇三
能登瀬村野沢作左衛門金子借用証文〔杉檜立木山買証文差入〕 橋本庄三郎宛 明治七年二月	一通 一〇六

郷 貸 (↓「祠堂金」三頁)

旗本設楽氏知行所村々預り金年賦証文〔先納金ニ付畑方物成引当〕 出沢・谷下・浅木・竹広・門前・夏目六ヶ村庄屋・組頭并竹広村口入庄右衛門連署・大名主関原伊左衛門裏印 小川村八左衛門・長篠村三左衛門・同村善兵衛・同村庄右衛門宛 享保二〇年十一月	一通 七七
安部八十郎〔信伴〕要用金預り年賦証文〔知行所物成引当〕 佐津河猪大夫 小川村八左衛門宛 享元年五月二二日	一通 八五
嶋田五郎兵衛〔直方〕借用金年賦証文〔当暮賄方差支ニ付知行所物成米引当〕 松井与一右衛門・小山金左衛門・長坂岡右衛門・長瀬正太夫・大館瀬左衛門連印・嶋田五郎兵衛裏印 小川村菅沼八左衛門宛 延享元年二月	一通 八六
塩沢村田畑五年季壳渡手形 同村庄屋伊左衛門・同平七・組頭市郎兵衛・同十三郎・百姓代四郎兵衛・請人勇右衛門 乗本村之内小川八左衛門宛 宝曆一〇年二月	一通 四六
付、田畑附立帳 塩沢村伊左衛門・平七 小川八左衛門宛 宝曆一〇年二月	一冊 四七
先納年賦金質地附立帳 塩沢村百姓代・組頭・庄屋 乗本村八左衛門宛 宝曆一二年九月	一冊 二五
①上下両吉田村先納金七年賦借用証文〔年貢金引当〕 下吉田・上吉田両村庄屋・組頭・百姓代惣連印、午四月菅沼民部内磯野与右衛門・佐藤仲右衛門裏印 乗本村八左衛門宛 宝曆一一年二月	一通 二六
上下両吉田村年貢先納金借用証文〔当暮年貢金引当〕 下吉田・上吉田村庄屋・組頭連印 乗本村八左衛門宛 天明二年二月	一通 八三
〔旦那勝手向入用金之内半年金月並上納引請被下ニ付引合一札〕〔岡山吉田村収納米引当〕 菅沼伊賀守〔定候〕 内池谷美平 小川八左衛門宛 享和二年正月	一通 一〇三

八名郡乘本村為屋八左衛門願書下書〔安部撰津守様大坂為御登金調達分御滞ニ付〕安部撰津守役所宛・正藏・長兵衛・金十添翰願願書 赤坂役所宛 享和二年五月	一通	五	金子借用証文〔田地書入〕 借主有海村喜六・清井田・喜多・有海村庄屋・組頭 乘本村八左衛門宛 文化一三年一月二日	一通	五三
安部撰津守領分村々收納米引当借用金添証文案紙	一通	二七六	村方要用金借用証文 有海村喜六・清井田村庄屋金左衛門・喜多村庄屋金左衛門・有海村庄屋利右衛門連印 小川八左衛門宛 文化一三年一月二日	一通	六四
亥年分年賦金滞ニ付濟方約定証文 塩沢村組頭伊左衛門・同仁兵衛・庄屋惣兵衛 乘本村八左衛門宛 文化元年一月二日	一通	八二	八名郡乘本村八左衛門為設樂郡出沢村他五カ村掛ル貸金滞出入訴狀 伊奈玄蕃役所宛 文化一四年五月	一通	壹
為屋八左衛門願書〔石田御役所御年賦金御下渡之儀〕 菅谷為右衛門・浅井伴助・能勢勝磨宛 文化一〇年一月二日	一通	五	八名郡乘本村八左衛門為設樂直之助知行所竹広村他五カ村役人掛ル貸金滞出入ニ付赤坂御役所差越中泉御役所出訴一件御託旁々願書 乘本村八左衛門煩ニ付代召仕喜六・名主幸右衛門 赤坂役所宛 丑七月九日〔文化一四年〕	一通	五
菅谷為右衛門返書狀〔旦那勝手向差支ニ付年賦殘金延引之件〕 菅沼八左衛門宛 六月一日	一通	三	伊奈玄蕃代官所三州八名郡乘本村百姓八左衛門為設樂直之助知行所同州設樂郡出沢村庄屋平右衛門他十老人掛ル貸金滞出入一件濟口差上証文扣 出入双方 評定所宛 文化一四年一月二日	一通	毛
設樂直之助様御賄方之儀年限中臨時御入用金引請一札扣 小川為屋八左衛門 竹広村役人中宛 文化一〇年一月二八日	一通	三	設樂市左衛門知行所六カ村年賦金証文写 設樂郡出沢・谷下・浅木・夏目・門前・竹広村庄屋・組頭 乘本村八左衛門宛 文化一四年一月二日	一通	二四
設樂直之助地頭所借用金年賦返済規定覚書 出沢・谷下・浅木・夏目・門前・竹広六カ村組頭・庄屋連印・設樂直之助内滝川宗太夫裏印 小川八左衛門宛 文化一〇年一月二日	一通	五	伊奈玄蕃代官所三州八名郡乘本村百姓八左衛門為設樂直之助知行所同州設樂郡出沢村庄屋平右衛門他拾老人掛ル貸金滞出入濟口証文御届書 乘本村八左衛門・庄屋幸右衛門 赤坂役所宛 文化一五年正月	一通	三
夏目・門前・竹広村金子預り証文〔当子御年貢先納ニ付〕 三カ村組頭・庄屋連印・設樂直之助内竹広陣屋滝川宗太夫裏印 小川八左衛門宛 文化一三年五月三日	一通	八九	金子借用証文〔田地書入〕 有海村喜六・清井田村清治・岡村井北村組頭・庄屋連印 乘本村小川八左衛門宛 文政元年一月二日	一通	六八
出沢・谷下・浅木村金子預り証文〔当子御年貢先納ニ付〕 三カ村組頭・庄屋連印・設樂直之助内滝川宗太夫裏印 小川八左衛門宛 文化一三年六月三日	一通	九〇	村方要用金借用証文 清井田村岡右衛門・有海村喜六・兩村庄屋連印 小川八左衛門宛 文政元年一月二日	一通	九一
設樂直之助知行所六カ村金子預り証文〔当子御年貢先納ニ付〕 出沢・谷下・浅木・夏目・門前・竹広庄屋・組頭連印 設樂直之助内滝川宗太夫裏印 小川八左衛門宛 文化一三年六月	一通	九一			

金子借用証文〔田地書入〕 有海村喜六・清井田村清次・兩村并北村組頭・庄屋連印 乘本村小川八左衛門宛 文政二年二月	一通	九二
村方要用金借用証文 有海村喜六・清井田村清次・兩村并北村庄屋連印 小川八左衛門宛 文政二年二月	一通	九三
村方要用金借用証文 下書共 有海村喜六・清井田村仁兵衛・兩村并北村庄屋連印 乘本村小川八左衛門宛 文政三年二月	二通	九六
金子借用証文〔田地書入〕 下書共 有海村喜六・清井田村仁兵衛・兩村并北村庄屋連印 乘本村小川八左衛門宛 文政三年二月	二通	九七
設案市左衛門知行所竹広初六カ村貸付年賦金滞りニ付訴願書下書 (乘本村八左衛門) 役所宛 (文政三年カ)	一通	一〇九五
設案市左衛門内新城忠右衛門差入一札〔設案市左衛門知行所竹広村外五カ村年賦金滞一条ニ付〕写共 付、当己六カ村役人名面書 菅沼八左衛門宛 文政四年六月	四通	一〇九六
且那勝手向要用借用金返済延引ニ付約定書写 田原家中金田丈左衛門・森田文左衛門 前芝加藤六藏宛 文政四年二月一八日	一通	一〇九七
長篠村当年御年貢上納金借用証文 長篠村百姓代・組頭・庄屋総連印 取次人乘本村八左衛門宛 文政五年二月	一通	九三
鳥原・庭野・養父村先納金借用証文案紙〔松林書入〕 三カ村三役人并竜岳院檀中惣代 乘本村為屋八左衛門宛 文政八年正月	一通	九三
三河国宝飯都市田村〔間部主殿頭知行所〕当戊御年貢上納金村借証文〔田地書入〕 同村借金質入主清左衛門他四名連印 三役人奥印 取次人乘本村八左衛門宛 文政九年二月	一通	九三〇

間部主殿頭知行所三州宝飯都市田村先納金借用一札 同村借用人百姓惣代仁平次・証人組頭喜右衛門・庄屋長四郎 小川村八左衛門宛 文政一〇年一月	一通	九七
御地頭所先納金村借証文 市田村百姓代仁平次・組頭喜右衛門・庄屋長四郎 取次人小川村八左衛門宛 文政一〇年十一月	一通	九八
地頭所先納金村借証文 間部主殿頭知行所市田村借主惣代清左衛門・与頭仁平次・庄屋正平 小川村八左衛門宛 文政一三年十一月	一通	九四
*名号村杉檜林三拾六年季壳渡証文 名号村壳主惣代七右衛門・治三郎・百姓代・組頭・名主連印 小川八左衛門宛 文政一三年二月	一通	九六
地頭所御賄金借用証文 鳥原村組頭義当次・庄屋八左衛門 小川村為屋八左衛門宛 天保九年二月	一通	九三
御地頭所御年貢先納金借用証文 別紙質田畑目錄共 塩沢村・鳥原村百姓代・組頭・庄屋連印 小川八左衛門宛 天保一〇年二月	二通	九五
地頭所上納金借用証文〔田地書入〕 鳥原・塩沢兩村庄屋・百姓代・組頭連印 小川八左衛門宛 天保一一年二月	一通	九〇
塩沢・鳥原兩村年賦金御裏印証文・添証文共〔地頭所賄金借用滞ニ付〕 兩村組頭・庄屋連印 安部長次郎内佐久間兵馬奥印・安部長次郎裏印 小川菅沼八左衛門宛 弘化二年二月	二通	二三
塩沢・鳥原兩村年賦殘金無利足割濟御裏書証文〔地頭所勝手賄金借用一件〕 兩村組頭・庄屋連印・安部長次郎内佐久間兵馬奥印・安部長次郎裏印 小川菅沼八左衛門宛 弘化二年九月	一通	二三
乘本村役元金子借用証文〔上納向差支ニ付〕 名主喜平次・同正兵衛他・組頭・百姓代連印 当村八左衛門宛 弘化三年二月	一通	一〇三

安部分知 塩沢・鳥原両村扶食金借用証文 両村百姓代・組頭・庄屋連印、安部長次郎内佐久間兵馬奥印 小川菅沼八左衛門宛 弘化三年四月	一通	一〇三
御月並金通 塩沢村・鳥原村 小川菅沼八左衛門宛 嘉永二年正月一同三月	一冊	二二〇
当西之暮地頭御仕舞金村借証文〔收納米引当〕 鳥原・塩沢両村百姓代・組頭・庄屋連印 小川菅沼八左衛門宛 嘉永二年二月	一通	二〇二
鳥原・塩沢両村借用金年賦割濟証文 両村組頭・庄屋連印 菅沼八左衛門宛 嘉永五年二月	一通	二二二
先納金利足覚 鳥原村庄屋六左衛門 小川村八左衛門宛 卯二月二七日	一通	二二六
鳥原村未御年貢皆済目録・年賦金覚・御蔵米払代金差引覚付、同村庄屋原田六右衛門添状共 菅沼八左衛門宛 未二月二二日	四通	空
出沢村役元金子借用証文 百姓代孫蔵・組頭長重・庄屋源兵衛連印 小川八左衛門宛 安政五年二月	一通	二〇六
出沢村組頭長重金子借用証文 庄屋源兵衛受印 小川村菅沼八左衛門宛 安政五年一〇月	一通	二〇九
御地頭所当西御年貢先納金借用証文〔收納米引当〕 設案彈正知行所三州設案郡浅木村百姓代要助・組頭儀兵衛・庄屋半蔵連印、設案彈正内竹広陣屋滝川麟之丞奥印 同国八名郡乘本村菅沼八左衛門・同耕兵衛宛 文久元年三月二〇日	一通	二〇五
①設案彈正知行所六カ村借用金郷印証文〔年貢先納・付質地代附〕三州設案郡竹広・浅木・夏目・門前・谷下・出沢村百姓代・組頭・庄屋連印、設案彈正内竹広陣屋滝川麟之丞奥印 八名郡乘本村菅沼八左衛門・同耕兵衛宛 文久元年二月	一通	三五〇
出沢村権左衛門金貳拾兩時借寛証文 竹広陣屋滝川宇右衛門・新城久左衛門奥印 小川為屋喜三郎・同喜兵衛宛 寅四月一六日	一通	二〇三

横半半

両山吉田村御地頭所当已御年貢先納金借用証文案紙	一通	二〇三
地頭所御役人連印先納金御証文案紙 上下山吉田村庄屋・組頭・惣百姓中宛 午年	三通	二〇三
両山吉田村預り金年賦証文案紙 乘本村八左衛門宛 午年	二通	二〇四
先納金大積り勘定目録 下吉田村庄屋鈴木兵左衛門 小川村菅沼八左衛門宛 巳二月一五日	一通	二四〇
月々借用金元利算用之覚 鈴木兵左衛門 菅沼八左衛門宛 一二月五日	一通	二五〇
〔蔵出切手引当上下両吉田村先納金勘定書類〕 〔海老菅沼家御賄方積り書写〕 午二月	三通	二五七
高松三郎兵衛書状〔山吉田村林入札売一件他〕 菅沼八左衛門宛 一〇月一九日	一通	三五
村方要用金当借申入覚 当村庄屋・組頭中 八左衛門宛 辰一〇月朔日	一通	二二三
長篠村役元金拾兩預り覚 庄屋平蔵・同利平太・組頭伝右衛門 小川八左衛門宛 未二月一五日	一通	二六九
某書状〔三之丸・半原両所御切手返却之儀催促并御払米一件〕 一二月三日	一通	二五四
〇		
殿様御入用金借用証文 山吉田村組頭新右衛門・庄屋弁治 門谷町惣左衛門宛 天明二年二月	一通	二〇九
祠堂金		
長篠村医王寺奉化出世金之内預り証文〔畑地他書入〕 能登頼村預り主源八郎・請人七右衛門・平六郎 乘本村八左衛門宛 延享二年二月	一通	二二

<p>医王寺泰化出世金之内預り証文〔物成米金引当〕 鳥原村庄屋六左衛門・組頭喜右衛門・百姓代又四郎・八郎左衛門 小川村八左衛門宛 延享三年二月一日</p>	一通	三三
<p>医王寺泰化出世金之内預り証文〔物成米金引当〕 鳥原村庄屋六左衛門・組頭喜左衛門・百姓代又四郎・十左衛門 小川村八左衛門宛 延享四年正月</p>	一通	三三
<p>医王寺泰化出世金之内預り証文〔物成米金引当〕 鳥原村庄屋六左衛門・組頭喜左衛門・百姓代又四郎・十左衛門 小川村八左衛門宛 延享四年三月</p>	一通	三三
<p>鳳来寺御修覆金医王院拝借之内預り金証文〔田地書入〕 鳥原村八郎・庭野村源治、兩村庄屋加印 小川菅沼八左衛門宛 安永六年二月</p>	一通	三三
<p>祠堂金江差加金受納覚 長篠村医王寺守拙 小川菅沼八左衛門宛 文化五年二月</p>	一通	三三
<p>秋葉山御燈明料之内拝借金証文并質地証文 設楽直之助知行所三州設楽郡出沢・谷下・浅木・夏目・門谷・竹広六カ村百姓代・組頭・庄屋連署、口入人乗本村菅沼八左衛門奥印、竹広陣屋滝川栄太夫裏印 秋葉山御役寮取次山吉田満光寺宛 文化一二年二月五日</p>	二通	三六
<p>付、借金・質地証文兩通請取覚 秋葉寺役寮 乗本村八左衛門宛 亥二月</p>	一通	三七
<p>長篠村医王寺会所金子預り一札〔祠堂金江差加金ニ付〕 小川八左衛門宛 文政五年十一月二五日</p>	一通	三六
<p>長篠村医王寺会所金子預り一札〔祠堂金江差加金ニ付〕 小川八左衛門宛 文政六年十一月二五日</p>	一通	三六
<p>鳳来寺御料物金之内拝借証文 三河国宝飯郡赤坂宿拝借主正左衛門・証人喜左衛門・名主金次郎 鳳来寺藤本院役人中宛 文政一〇年二月</p>	一通	三三
<p>付、赤坂宿庄左衛門拝借金之内加入金預り証札 預り主藤本院 乗本村役人中宛 文政九年二月</p>	一通	三三

竜泉庵祠堂金預リニ付差出念書 小川組頭善吉・勇右衛門 為屋八左衛門宛 天保五年二月

鳳来寺の拝借金年賦残金五カ年年延之儀約定書案紙 三宅土佐守内元ノ坂倉安右衛門他三名・用人勝手掛真木重郎兵衛 等覚院宛 天保六年三月

大海村・横山村貸付医王寺祠堂金一件 嘉永五年二月六日―同六年九月

①加判帳 小川菅沼八左衛門 文化七―安政二年

加判帳 菅沼八左衛門 元治元―慶応元年

質屋

郡中惣代清太夫達廻状〔質屋稼方利足引上願取下之儀ニ付〕 御油宿名主中・乗本村菅沼八左衛門・池場村次兵衛・三ツ瀬村小太郎・中設楽村武八・利三郎・寄近村太三郎・別所村彦五郎宛 二月一三日

山林証文

山林証文〔林産業〕五九一六頁

小川六兵衛敷林売渡証文 小川八左衛門宛 正徳元年二月

小川孫八郎林永代売渡証文 小川村八左衛門宛 寛延二年二月

\*先年相渡候田畑地附山林改書添証文 倉平組惣代市右衛門他三名・組頭久右衛門・与平太・久左衛門 小川村八左衛門宛 宝曆九年二月



設楽郡川合村嘉二郎・武七杉木林入手經過一件  
証文写〔宝曆一〇年一〇月川合村嘉二郎杉木林二十年季壳渡并安永三年九月同人仲武七同林永代壳渡并書添証文写、寛政一一年四月出入内済ニ付本証文返却之旨書添奥書〕

四通一紙 五三

小川直吉山林壳渡証文 小川八左衛門宛 宝曆一〇年一二月

一通 五三

藏平五郎兵衛・長次郎樫木林・杉木山壳渡証文 小川八左衛門宛 宝曆一〇年一二月

一通 五三

小川組庄屋金十郎樫木立林壳渡証文 八左衛門宛 宝曆一二年四月

一通 五五

藏平組平七山林永代壳渡証文 小川八左衛門宛 明和三年一二月

一通 五五

藏平組平七杉木壳渡証文 小川八左衛門宛 明和三年一二月

一通 五五

藏平五兵衛雜木林壳渡証文 山地絵図添 小川八左衛門宛 明和八年三月

二通 五五

小川組伝七林永代壳渡証文 小川組為屋八左衛門宛 明和九年一二月〔安永元〕

一通 五五

大平組小右衛門山地壳渡証文 山地絵図添 小川組八左衛門宛 安永元年一二月

二通 五五

藏平清兵衛雜木林壳渡証文 山地絵図添 小川八左衛門宛 安永二年二月

二通 五〇

藏平次郎助雜木林壳渡証文 山地絵図添 小川八左衛門宛 安永二年二月

二通 五二

藏平与三郎雜木林壳渡証文 山地絵図添 小川八左衛門宛 安永三年二月

二通 五三

藏平平七郎杉雜木立林壳渡証文 山地絵図添 小川八左衛門宛 安永三年二月

二通 五三

藏平治平・粉源藏杉林壳渡証文 小川八左衛門宛 安永四年二月

一通 五〇

池場村庄屋惣次郎杉山三年季壳渡証文 乘本村八左衛門宛 安永四年六月

一通 五五

下吉田村慈雲寺立木入札壳渡証文案紙 乘本村八左衛門宛 安永五年九月

一通 五五

藏平組唯右衛門杉林五年季壳渡証文 小川組八左衛門宛 安永七年三月

一通 五三

藏平組五郎兵衛杉立木壳渡証文 小川八左衛門宛 安永八年一二月

一通 五七

小川源藏山年季証文〔恩借金帶ニ付雜木林拾五年季渡〕為屋八左衛門宛 安永九年一二月

一通 五九

藏平組兵藏杉林拾五年季壳渡証文 小川組八左衛門宛 天明三年一二月

一通 五〇

本郷〔乗本〕組組頭幸右衛門山地壳渡証文并古添絵図三通共 小川八左衛門宛 天明七年一二月

四通 五三

藏平源八樫木立山壳渡証文 山地絵図添 小川組八左衛門宛 天明八年一二月

二通 五三

藏平組權平杉立山壳渡証文 山地絵図添 小川組八左衛門宛 天明八年一二月

一通 五五

藏平組弥八杉木立山壳渡証文 山地絵図添 小川組為屋八左衛門宛 寛政元年六月

二通 五五

藏平組兵藏杉柴木立山壳渡証文 山地絵図添証文共 小川組八左衛門宛 寛政元年一二月

二通 五五

小川組忠次山証文〔恩借金之方江持山相渡〕小川組為屋八左衛門宛 寛政三年九月

一通 六〇

藏平組喜平立木山拾五年季壳渡証文 小川組八左衛門宛 寛政三年一二月

一通 五七

小川組兵右衛門山地壳渡手形 為屋八左衛門宛 寛政四年三月 山絵図添 小川	一通	六八
引地村新吉杉檜雜木立林壳渡証文 乘本村八左衛門宛 寛政五年二月 絵圖面添	二通	六九
田代源兵衛杉木山貳拾年季壳渡証文 小川八左衛門宛 寛政九年二月	一通	六一
藏平組五平山拾五年季壳渡手形 小川組八左衛門宛 寛政一〇年二月	一通	六二
小川組金十郎山地永代壳渡証文 為屋八左衛門宛 寛政一二年三月	一通	六三
長篠村喜左衛門林山壳渡証文 乘本村八左衛門宛 享和元年二月	一通	六四
藏平組伊左衛門山地相渡証文〔恩借金弁済之為〕 山絵図添 小川組八左衛門宛 文化二年三月	二通	六五
寺領内引地村新右衛門山林証文〔借用金引当永年季渡〕 八名郡乘本村八左衛門宛 文化二年二月	一通	六六
藏平組九平山地拾年季壳渡証文 山絵図添 小川為屋店宇平宛 文化二年二月	二通	六七
大峠村藤右衛門杉林三拾年季壳渡証文并山境添書 乘本村八左衛門宛 文化三年七月	一通	六八
小川組伝七山地永代壳渡証文 八左衛門宛 文化三年二月	一通	六九
藏平組八檜立手山壳渡証文 小川組八左衛門宛 文化五年五月	一通	七〇
藏平組弥八山地壳渡証文 山絵図添 小川組次郎八宛 文化八年八月	三通	七一
右山地買主次郎八書添壳渡証文 為屋八左衛門店衆中宛 文化八年二月		

川合村安兵衛永代山手形〔借用金弁済之為山林渡〕 乘本村八左衛門宛 文化二年一月	一通	八四
小川組弁作檜木山三年季壳渡証文 山絵図添 当組為屋八左衛門宛 文政五年二月	一通	八一
小川組弁作雜木山林壳渡証文 小川為屋八左衛門宛 文政七年一月	一通	八二
山吉田村鈴木兵左衛門山壳渡証文 小川八左衛門店衆中宛 文政七年二月	一通	八三
八名郡名越村富吉杉檜山年季壳渡証文 乘本村小川組八左衛門宛 文政一〇年一月	一通	八四
設楽郡川合村平七山永代壳渡証文 八名郡乘本村八左衛門宛 文政一〇年一月	一通	八五
小川組彦吉山地拾五年季壳渡証文 当組為屋八左衛門宛 文政一一年二月	一通	八六
*名号村杉檜林三拾六年季壳渡証文 名号村壳主惣代七右衛門・治三郎・百姓代・組頭・名主連印 小川八左衛門宛 文政一三年一月	一通	八七
名号村伊右衛門杉檜林三拾九年季壳渡証文 乘本村小川八左衛門宛 天保二年一月	一通	八八
倉平組要八山地壳渡証文 小川組八左衛門宛 天保三年三月	一通	八九
名号村安右衛門杉檜林三拾九年季壳渡証文 乘本村小川組八左衛門宛 天保三年三月	一通	九〇
細川村宇之助杉檜山四拾年季壳渡証文并恩借金年賦証文 小川八左衛門宛 天保三年一〇月	二通	九一
名号村永藏名請取之年季山壳渡ニ付壳主一色村六本松組善左衛門書添証文 乘本村小川組八左衛門宛 天保四年七月	二通	九二
付、万延元年申八月四日名号村永藏古証文返却之旨覚添書		

八名郡名号村次三郎杉檜林山三拾九年季壳渡証文 八名郡乘本村八左衛門宛 天保四年十二月	一通	七〇三	付、八名郡乘本村八左衛門取替金之下質山地 請取ニ付差出一札下書	一通	二〇九
一色村善左衛門杉林二拾六年季壳渡証文 乘本 村八左衛門宛 天保六年二月	一通	七〇五	鳥原村八左衛門杉木立山八拾年季壳渡証文下書 乘本村八左衛門宛 弘化四年二月	一通	七二
倉平組次兵衛山地壳渡証文 小川組八左衛門宛 天保七年二月	一通	七〇六	鳥原村八左衛門山地永代壳渡証文 乘本村八左 衛門宛 弘化四年二月	一通	七〇三
倉平九左衛門山地壳渡証文 小川組八左衛門宛 天保八年三月	一通	七〇七	小川組武左衛門山地壳渡証文 小川組八左衛門宛 嘉永元年二月	一通	七三三
倉平組組頭市藏山地壳渡証文 小川組八左衛門宛 天保八年二月	一通	七〇五	竹之輪常林寺世話人源六山壳渡手形(杉檜六拾 九本)付、酉十一月二十五日同人金子預り覺 小川八左衛門宛 嘉永二年一月	二通	七五
下平村仙藏杉山七拾年季壳渡証文 乘本村八左 衛門宛 天保一〇年三月	一通	七〇八	倉平角次郎山地壳渡証文 小川八左衛門宛 嘉永 二年二月	一通	七六
細川幸助杉檜山四拾五年季壳渡証文 小川八左 衛門宛 天保一〇年二月	一通	七〇九	名越喜惣次杉檜林壳渡証文 小川為屋八左衛門宛 嘉永三年二月	一通	七七
倉平組忠兵衛山地三年季壳渡証文 小川組八左 衛門宛 天保一三年二月	一通	七一	海老村彦右衛門岩下山杉檜上木三年季壳渡証文 小川為屋八左衛門宛 嘉永四年一〇月	一通	七三
小川組藤七林山壳渡証文 当組八左衛門宛 天保 一四年四月	一通	七三	倉平組与平太山地壳渡証文 小川為屋八左衛門宛 嘉永四年二月	一通	七三
倉平組政右衛門檜木林壳渡証文 小川組八左衛 門宛 弘化二年一〇月	一通	七四	竹輪村氏神社木壳渡証文 竹輪村壳主吉左衛門・ 庄屋儀右衛門 小川菅沼八左衛門宛 嘉永五年一二 月	一通	七四
倉平組直吉杉立山壳渡証文 字こふ板杉山絵図添 小川八左衛門宛 弘化二年二月	二通	七五	藏平組与平太山地壳渡証文 小川組菅沼八左衛門 宛 嘉永六年八月	一通	六六
東門谷平七杉檜山壳渡証文 小川為屋八左衛門宛 弘化三年三月	一通	七六	小川組德兵衛山地壳渡証文 当組八左衛門宛 嘉 永六年二月	一通	六九
設楽郡栗代村由右衛門山地永代壳渡証文下書 八名郡乘本村小川組八左衛門宛 弘化四年二月	一通	七六	小川組勇左衛門山畑地壳渡証文 当組菅沼八左 衛門宛 安政三年二月	一通	六九
栗代村由右衛門孫千代藏山地永代壳渡証文 八 名郡乘本村八左衛門宛 弘化四年一月	一通	七九	小川組勇右衛門檜林山壳渡証文 同組菅沼八左 衛門宛 安政三年二月	一通	七〇

乘本村幸右衛門田地并林壳渡証文 小川菅沼八左衛門宛 安政四年一二月	一通	七〇	井代村名主利三郎杉檜山壳渡証文 小川村八左衛門宛 慶応三年一二月	一通	七五
阿寺村平七杉檜木壳渡証文 小川村八左衛門宛 安政五年一二月	一通	七二	小川組金治郎山壳渡証文 当組八左衛門宛 明治元年一二月	一通	七六
小川勘吉山地永代壳渡証文 当組菅沼八左衛門宛 文久元年一二月	一通	七三	山吉田所持之松林拾年季壳渡証文 下吉田村惣百姓代安藏・組頭徳次郎・庄屋宗平 小川為屋八左衛門宛 明治四年一二月	一通	七九
山吉田兵右衛門本木壳渡証文 小川為屋八左衛門宛 文久二年四月	一通	七四	榮藏檉木山永代壳渡証文 菅沼八左衛門宛 明治四年二月	一通	八一
能登瀬清兵衛山壳渡証文 乘本村八左衛門宛 文久二年二月	一通	七五	乘本村藏平組治平山畑杉林壳渡証文 小川組八左衛門宛 明治五年二月	一通	八二
能登瀬安右衛門山壳渡証文 乘本村八左衛門宛 文久二年一二月	一通	七六	足込村竹次郎杉木壳渡証文 小川八左衛門宛 丑七月	一通	八三
小川松作杉山三カ所壳渡証文 為屋八左衛門宛 文久三年一二月	一通	七七	引地伊兵衛杉木壳渡内金請取覚 小川八左衛門宛 寅二月一〇日	一通	八四
名号村佐七杉立木壳渡証文 乘本村八左衛門宛 元治二年四月	一通	七八	黒谷村作兵衛杉檜木林壳渡約定証文 岡村山世話人孫吉・小川為屋八左衛門宛 西六月	一通	八六
高野村杉木壳渡証文 壳主高野村惣村中役人源吉 小川為屋八左衛門宛 慶応元年六月	一通	七九	大野河内屋新八郎杉檜壳渡約定書 小川為屋八左衛門代要藏宛 戌三月二七日	一通	八五
栗衣組亀吉林壳渡証文 小川菅沼八左衛門宛 慶元年九月	一通	七五	門谷桐屋善兵衛杉檜山二カ所壳渡証文 小川為屋八左衛門宛 一一月一七日	一通	七〇
上吉田村桑藏伐木林壳渡一札 小川村為屋八左衛門宛 慶元年一〇月	一通	七三	山壳渡証文案紙	二通	七一
名号村長七杉木壳渡一札 小川為屋八左衛門・名号村世話人永吉宛 慶応二年一二月	一通	七三	山年季壳渡証文案紙	二通	七三
付、名号村役人杉檜山壳渡内金請取覚 村永吉宛 明治二年八月	一通	七〇	設楽郡河合村藤吉杉檜林五年季壳渡証文 有海村喜六宛 文化一三年二月	一通	九〇
高野村喜兵衛杉山壳渡証文 小川八左衛門宛 慶応二年一二月	一通	七五	孫藏杉檜林永代壳渡証文 当村万助宛 天保九年三月	一通	七七

杉山壳渡証文差遣ニ付添書一札 信州和知野村源兵衛 三州栗代村芳右衛門・八右衛門宛 天保一年九月	一通	七〇	栗代村由右衛門孫千代藏下質山伐採之儀不始末ニ付差出一札 写共 栗本村八左衛門代人次助・藤吉宛 弘化四年一月	一通	七〇
栗代幸助杉山壳渡証文(杉粉木一八〇本) 小川榮左衛門宛 弘化二年二月	一通	七五	名号村之内御持林杉木盜伐ニ付託書一札 名越本人治助・組合利兵衛・親類嘉治郎 小川菅沼八左衛門宛 万延元年二月	一通	三〇
巢山村甚助杉山壳渡証文 大野村安五良宛 弘化四年八月	一通	七七	店 政(「家政」八遺言狀・覺書八頁)		
能登瀬生田三省杉檜壳渡証文 寺林村伊吉宛 嘉永五年七月二六日	一通	七三	出店支配人		
八名郡峯野木主政八杉木壳渡証文 引地村伊作宛 安政四年正月二日	一通	二四	為屋八左衛門申渡書(出店支配ニ付) 為屋次郎八宛 明和二年正月	一通	三七
名号藤作年季山杉檜壳渡書附 井代村役人 引地村小作宛 文久元年三月八日	一通	二三	*旧年勤続給金譲り書附扣 為屋八左衛門 為屋次郎八宛 明和二年正月	一通	三六
吉村孫三郎山代金借用証文 岡村孫吉宛 文久三年二月	一通	七六	出店支配ニ付定年書添覚書 文化七年三月	一通	六九
足込村珍平杉木山式年季壳渡証文 大川合村富士太郎宛 慶応三年三月	一通	七五	奉公人請狀		
清兵衛後家山地永代壳渡証文 次郎八宛 明治二年三月	一通	七六	奉公人請狀(「拾年季」) 栗衣奉公人喜之助・親喜十郎・兄七左衛門・請人六左衛門・組頭三左衛門 小川八左衛門宛 宝曆一三年三月	一通	七五
大野勘次郎杉檜木壳渡証文 引地伊作宛 卯正月一〇日	一通	七六	奉公人重広村平藏年季中欠落ニ而証文返戻之節 写書添覚書 文政一二年二月一六日	一通	三六
山詮証文			奉公人請狀(「老年季」) 八名郡長案村奉公人用助・請人久米右衛門他組頭・庄屋加印 栗本村八左衛門宛 天保一四年二月	一通	三六
借用金引当ニ相渡置候杉木之内頭木老本伐取一件託入内済ニ付杉木増渡証文 蔵平組与三郎・請人喜八他四名 五人組頭・組頭連印 小川組八左衛門宛 安永九年二月	一通	六六	奉公人請狀(「老年季」) 大平村奉公人千代作・親類伝藏他組合・組頭加印 小川八左衛門宛 天保一五年二月	一通	三六
名越村茂兵衛年季山杉木伐取ニ付託証文 乗本村小川組八左衛門宛 天保二年五月	一通	六七	奉公人請狀(「老年季」) 奉公人(吉作)親善助・親類善兵衛・請人新六他組頭加印 小川菅沼八左衛門宛 嘉永元年二月	一通	三〇

奉公人請狀〔老年季〕 当国設楽郡竹広村奉公人甚藏・親常吉他組頭・庄屋加印 八名郡乗本村八左衛門宛 嘉永二年二月

奉公人請狀 岡本村秀藏親甚太郎・請人佐吉・庄屋奥印 小川村菅沼八左衛門宛 慶応四年正月

奉公人請狀 三渡野村奉公主松次郎・同村請人千松・利右衛門 小川村為屋八左衛門宛 安政三年二月

八名郡乗本村八左衛門宛奉公人請狀案紙

奉公人請狀案紙

○

鍛冶屋助十郎差入一札〔内金村江出鍛冶之儀ニ付〕 菅沼八左衛門宛 文政九年二月

經營帳簿

大福帳〔万貨帳〕

大福帳 菅沼八左衛門 (宝永五年正月―正徳二年正月) 横長美 一冊 三

大福帳 菅沼八左衛門 (享保一五年正月―同一六年二月) 横長美 一冊 三

大福帳 菅沼八左衛門 寛保四年(延享改元)正月―二月 横長美 一冊 三

大福帳 菅沼八左衛門 延享三年正月―二月 横長美 一冊 三

差引帳 寛延三年二月―同四年二月 横長美 一冊 三

所々差引帳 三州小川菅沼八左衛門 文久二年 横長美 一冊 三

所々差引帳 三州小川菅沼八左衛門 文久三年 横長美 一冊 三

所々差引帳 三州小川菅沼八左衛門 文久四年 横長美 一冊 三  
小川差引帳 三州小川菅沼八左衛門 明治二年 横長美 一冊 三  
新古貸附金調書 二通 一五三

仕入荷物勘定

①子暮仕入荷物丑七月勘定帳 為屋八左衛門定久 宝曆七年 横長美 一冊 一

丑暮仕入荷物秋勘定帳 為屋八左衛門定久 宝曆八年 横長美 一冊 六

①卯暮仕入荷物辰秋勘定帳 菅沼八左衛門 宝曆一〇年七月 付、宝曆拾老年巳九月辰仕入荷物巳年商差引 横長美 一冊 二

①明和式酉暮仕入荷物勘定帳 三劬八名郡小川邑為屋八左衛門 明和三年五月 横長美 一冊 二

①丑暮仕入荷物勘定帳 三劬八名郡乗本村小川菅沼八左衛門 明和七年七月 横長美 一冊 三

卯暮仕入荷物勘定帳 三州八名郡乗本村小川邑菅沼八左衛門 明和九年八月 横長美 一冊 三

①巳暮仕入荷物勘定帳 三州八名郡乗本邑小川菅沼八左衛門 安永三年七月 横長美 一冊 三

①午暮仕入荷物勘定帳 三州八名郡乗本村小川邑菅沼八左衛門 安永四年七月 横長美 一冊 三

未暮仕入荷物勘定帳 小川邑菅沼八左衛門 安永五年五月 横長美 一冊 六

申暮仕入荷物仕上勘定帳 為屋八左衛門 安永六年七月 横長美 一冊 六

子暮仕入荷物仕上勘定帳 菅沼八左衛門 天明元年五月 横長美 一冊 六

丑暮仕入荷物仕上勘定帳 年五月	菅沼八左衛門	天明二	横長美	一冊	九	①丑仕入荷物勘定仕上帳 年正月	菅沼八左衛門	文化一五	横長美	一冊	五
①申暮仕入荷物仕上勘定牒 政元年三月	菅沼八左衛門定基	寛	横長美	一冊	三	寅仕入荷物勘定仕上帳 正月	菅沼八左衛門	文政二年	横長美	一冊	九
①酉暮仕入荷物仕上勘定帳 年七月	菅沼八左衛門	寛政二	横長美	一冊	四	辰仕入荷物勘定仕上帳 正月	菅沼八左衛門	文政四年	横長美	一冊	一〇
①戌仕入荷物勘定帳	菅沼八左衛門	寛政三年三月	横長美	一冊	四	未仕入荷物勘定仕上帳 正月	菅沼八左衛門	文政七年	横長美	一冊	一〇
子仕入荷物勘定帳	菅沼八左衛門	寛政五年二月	横長美	一冊	三	申仕入荷物勘定仕上帳 正月	菅沼八左衛門	文政八年	横長美	一冊	一〇
丑仕入荷物勘定牒	菅沼八左衛門	寛政六年二月	横長美	一冊	三	西仕入荷物勘定仕上帳 正月	菅沼八左衛門	文政九年	横長美	一冊	一〇
①辰仕入荷物勘定仕上帳 二月	菅沼八左衛門	寛政九年	横長美	一冊	四	①辰仕入荷物勘定仕上帳 正月	菅沼八左衛門	天保四年	横長美	一冊	五
①午仕入荷物勘定仕上帳 年正月	菅沼八左衛門	寛政一一	横長美	一冊	四	①酉仕入荷物勘定仕上帳 正月	菅沼八左衛門	天保九年	横長美	一冊	五
未仕入荷物勘定仕上帳 年正月	菅沼八左衛門	寛政一二	横長美	一冊	四	巳仕入荷物勘定仕上帳	弘化三年二月	横長美	一冊	一〇	
①子仕入荷物勘定仕上帳 正月	菅沼八左衛門	文化二年	横長美	一冊	四	申仕入荷物勘定仕上帳	嘉永二年正月	横長美	一冊	一〇	
①丑仕入荷物勘定仕上帳 正月	菅沼八左衛門	文化三年	横長美	一冊	五	①戌仕入荷物勘定仕上帳 正月	嘉永四年二月	横長美	一冊	五	
①寅仕入荷物勘定仕上帳 正月	菅沼八左衛門	文化四年	横長美	一冊	五	亥仕入荷物勘定仕上帳	嘉永五年二月	横長美	一冊	一〇	
暮仕上勘定											
①寛保三年亥節季寛							菅沼八左衛門	横長美	一冊	26	一七
寛延式巳暮仕上勘定							菅沼八左衛門定久	横長美	一冊	一〇	一七
(宝暦元未極月勘定仕上帳)							(宝暦二年正月)	横長美	一冊	一〇	一八
茶勘定差引寛							宝暦六年	横長美	一冊	一〇	一九
午暮商売勘定帳							未(宝暦一三年)正月一日	横長美	一冊	一〇	二〇

①明和五子極月仕上勘定帳 (明和六年)二月二七日	菅沼八左衛門定久 丑	橫長美	一冊 5	二四	①享和三癸亥暮勘定仕上帳 (享和四年)正月	菅沼八左衛門(正藏・ 豐吉)子	橫長美	一冊 7	三〇
①明和六丑仕上勘定帳 沼八左衛門定久 寅(明和七年)正月晦日	三務八名郡栗本村小川組菅 沼八左衛門定久 辰(明 和九年)正月二五日	橫長美	一冊 6	二五	文化元甲子暮勘定仕上帳	菅沼八左衛門(正藏・ 豐吉)	橫長美	一冊	二九
①明和八卯仕上勘定帳	菅沼八左衛門定久 辰(明 和九年)正月二五日	橫長美	一冊 6	二六	①文化四丁卯暮勘定仕上帳 (文化五年)正月二〇日	菅沼八左衛門 辰(文 化五年)	橫長美	一冊 7	三
安永五申仕上勘定帳 永六年二月一日	菅沼八左衛門定基 酉(安 永六年)二月一日	橫長美	一冊	二二	①文化九壬申暮勘定仕上帳 (文化一〇年正月二〇日)	菅沼八左衛門定年(文 化一〇年正月二〇日)	橫長美	一冊 7	三
①安永七戌仕上勘定帳 永八年二月朔日	菅沼八左衛門定基 亥(安 永八年)二月朔日	橫長美	一冊 6	二七	文化十一甲戌暮勘定仕上帳	菅沼八左衛門定年	橫長美	一冊	三〇
天明四辰暮仕上勘定帳 (天明五年)正月二六日	菅沼八左衛門定基 巳	橫長美	一冊	二三	文化十三丙子暮勘定仕上帳	菅沼八左衛門定年	橫長美	一冊	三三
天明八申暮勘定仕上帳 (天明九年)正月二二日	菅沼八左衛門定基 酉	橫長美	一冊	二三	文政元戊寅暮勘定仕上帳 (文政二年)正月一五日	菅沼八左衛門定年 卯	橫長美	一冊	三三
寛政元酉暮勘定仕上帳 (寛政二年)正月二一日	菅沼八左衛門定基 戌	橫長美	一冊	二四	①文政貳巳卯暮勘定仕上帳 (文政三年)二月三日	菅沼八左衛門定年 辰	橫長美	一冊 7	三
寛政二戌暮勘定仕上帳 (寛政三年)正月一二日	菅沼八左衛門定基 亥	橫長美	一冊	二五	文政三庚辰暮勘定仕上帳 (文政四年)正月一八日	菅沼八左衛門定年 巳	橫長美	一冊	二三
寛政三亥暮勘定仕上帳 (寛政四年)正月一六日	菅沼八左衛門定基 子	橫長美	一冊	二六	①文政六癸未暮勘定仕上帳 (文政七年)正月二五日	菅沼八左衛門定年 申	橫長美	一冊 7	三
①寛政七卯暮勘定仕上帳 寛政八年正月二一日	菅沼八左衛門(正藏定系 筆)	橫長美	一冊 6	二六	①文政七甲申暮勘定仕上帳 (文政八年)正月一六日	菅沼八左衛門定年 酉	橫長美	一冊 7	三
①寛政九巳暮勘定仕上帳 寛政一〇年正月二八日	菅沼八左衛門(正藏定系 筆)	橫長美	一冊 6	二六	①文政九丙戌暮勘定仕上帳 (文政一〇年)正月二〇日	菅沼八左衛門定年 亥	橫長美	一冊 8	三
寛政十一己未暮勘定仕上帳 申(寛政一二年)正月晦日	菅沼八左衛門(正藏 定系筆)	橫長美	一冊	二七	①文政十丁亥暮勘定仕上帳 (文政一二年)正月一五日	菅沼八左衛門定年 子	橫長美	一冊	三八
寛政十二庚申暮勘定仕上帳 寛政一三年正月晦日	菅沼八左衛門(正藏 定系筆)	橫長美	一冊	二八	①天保貳年庚寅暮勘定仕上帳 卯(天保三年)正月二〇日	菅沼八左衛門定年	橫長美	一冊 8	三





①積送荷物仕上帳 三州小川為屋八左衛門 安政六年正月	一冊 17 亥	天明四年辰正月の七月迄仕上	橫長美	一冊 一三
①荷物積贈仕上帳 三州小川為屋八左衛門 安政六年正月	一冊 17 壬	天明四辰七月の極月迄仕上	橫長美	一冊 一七
①積送荷物仕上帳 三州小川為屋八左衛門 万延二年正月	一冊 18 亥	天明五巳正月の同七月迄仕上勘定覚 正作 天明五年七月二十五日改	橫長美	一冊 一五
①荷物積贈仕上帳 為屋八左衛門 文久三年正月	一冊 18 戌	①天明八戌申暮仕上覚 倉為本店	橫長美	一冊 一〇
①荷物積送帳ノ高 三州小川為屋八左衛門 弘化五年正月	一冊 18 巳	太賃取替并残荷物覚 為屋庄作 天明八年二月	橫長美	一冊 一五〇
①荷物積送帳ノ高 為屋八左衛門	一冊 18 巳	寛政二戌暮仕上帳 為屋本店	橫長美	一冊 一七
○		本店仕上勘定帳 菅沼定基 寛政二年八月一文化七年	橫長美	一冊 一六
①并船勘定仕上帳 文政五年一二月	一冊 18 巳	寛政三亥七月残荷物改 為屋本店	橫長美	一冊 一六
米仕上帳		①寛政六寅盆前仕上帳 本店	橫長美	一冊 一〇
子米酒仕上帳 元治二年	一冊 一三	①寛政六寅暮仕上帳 本店 寛政七年正月	橫長美	一冊 一五
①丑米仕上帳 三州小川為屋八左衛門 慶応二年正月	一冊 19 亥	①寛政七乙卯盆前仕上帳	橫長美	一冊 一三
①卯の米仕上帳 参州小川為屋八左衛門 慶応四年正月	一冊 19 巳	①寛政九丁巳暮仕上帳 本店分 巳一二月晦日	橫長美	一冊 一四
本店勘定		享和元辛酉盆前仕上帳 本店分 酉七月一三日	橫長美	一冊 一〇
正朔木場仕上帳 安永六年一二月一文化五年一二月	一冊 二〇 半	文化元甲子盆前仕上帳 本店分 子七月	橫長美	一冊 一八
①安永七戌暮仕上覚 付、天明六年迄盆暮仕上覚 菅沼正作定久、支配人喜三郎・義兵衛 安永八年正月二八日	一冊 10 亥	文化二乙丑盆後仕上帳 本店 丑大晦日	橫長美	一冊 一八
亥年木場上り 茂兵衛・喜三郎 安永八年一二月大晦日	一冊 一七	文化三丙寅盆前仕上帳 本店分 寅七月一三日	橫長美	一冊 一三
天明元丑極月仕上帳 庄作	一冊 一三	①文化四丁卯盆後仕上 卯大晦日	橫長美	一冊 一五
		西盆前仕上覚 三州小川問屋	橫長美	一冊 一四
		西盆前掛取かへ・駄賃取替・残荷物覚	橫長美	一冊 一五

嘉永四亥十二月店揚 木店	橫長美	一冊	一六	年內勘定仕上帳 三州小川為屋出店 天明二年一二月	橫長美	一冊	一五
①嘉永五壬子年店揚帳 問屋支配人治兵衛	橫長美	一冊	一八	年內勘定仕上帳 三州小川為屋出店支配喜六 天	橫長美	一冊	一七
①嘉永六癸丑年店揚帳 問屋支配人治兵衛	橫長美	一冊	一八	年內勘定仕上帳 三州小川為屋出店支配喜六 天	橫長美	一冊	一八
①安政四巳年店揚帳 問屋支配人治兵衛	橫長美	一冊	一八	年內勘定仕上帳 三州小川為屋出店支配喜六 天	橫長美	一冊	一九
①文久元年酉年店揚帳 支配人治兵衛	橫長美	一冊	一八	年內勘定仕上帳 為屋出店支配喜六 寬政元年二月	橫長美	一冊	二〇
①明治三年年店揚帳 羽根支配人佐十郎	橫長美	一冊	一八	年內勘定仕上帳 三州小川為屋出店支配平兵衛	橫長美	一冊	二一
申の年店揚取調扣 支配人佐十・七藏 明治五年一月	橫長美	一冊	一七	年內勘定仕上帳 三州小川為屋出店仁平・喜六 寬政九年一二月	橫長美	一冊	二二
①午年店揚調書 支配人松井直太郎 明治一六年三月二十四日改	橫長美	一冊	一九	年內勘定仕上帳 三州小川為屋出店仁平 寬政一〇年一二月	橫長美	一冊	二三
○				年內勘定仕上帳 三州小川為屋出店金藏・丈助・喜六立合 享和元年一二月	橫長美	一冊	二四
(亥子丑三カ年勘定帳) (木店カ)	橫長美	一冊	一六	年內勘定仕上帳 三州小川為屋出店權平・宇兵衛 文化三年一二月	橫長美	一冊	二五
出店勘定仕上				年內勘定仕上帳 三州小川為屋出店支配權司・宇兵衛 文化五年一二月	橫長美	一冊	二六
年內勘定仕上帳 三陽小川為屋出店 宝曆一〇年一二月	橫長美	一冊	二三	年內勘定仕上帳 三陽小川為屋出店 支配人宇兵衛 文化六年一二月	橫長美	一冊	二七
安永二年癸巳極月勘定仕上帳 三陽小川為屋出店支配人次郎八	橫長美	一冊	二三	年內勘定仕上帳 三州小川為屋出店支配宇兵衛 文化八年一二月	橫長美	一冊	二八
①午暮勘定仕上帳 小川為屋出店支配人次郎八 安永三年一二月	橫長美	一冊	一〇	年內勘定仕上帳 三州小川為屋出店支配人宇兵衛 文化九年一二月	橫長美	一冊	二九
年內勘定仕上帳 三州小川為屋出店支配人次郎八 安永四年一二月	橫長美	一冊	二三	年內勘定仕上帳 三州小川為屋出店支配宇兵衛 文化一一年一二月	橫長美	一冊	三〇
年內勘定仕上帳 三州小川為屋出店 安永九年一二月	橫長美	一冊	二三				
年內勘定仕上帳 三州小川為屋出店 天明元年一二月	橫長美	一冊	二三				

①年内勘定仕上帳 文化二年二月晦日 三州小川為屋出店支配人宇兵衛	一冊 13 瓦	年内勘定仕上帳 三州小川為屋出店支配人喜兵衛 天保一三年二月晦日	一冊 一七
①年内勘定仕上帳 文化一四年二月晦日 三州小川為屋出店支配宇兵衛	一冊 13 瓦	①年内勘定仕上帳 三州小川為屋出店支配人喜兵衛 弘化元年二月晦日	一冊 15 叁
年内勘定仕上帳 文政二年二月晦日 三州小川為屋出店支配宇兵衛	一冊 一六	年内勘定仕上帳 為屋出店支配人喜兵衛 弘化三年二月晦日	一冊 一六
年内勘定仕上帳 文政四年二月晦日 三州小川為屋出店支配宇兵衛	一冊 一六	年内勘定仕上帳 三州小川為屋出店支配人喜兵衛 嘉永二年二月晦日	一冊 一六
年内勘定仕上帳 文政六年二月晦日 三州小川為屋出店支配宇兵衛	一冊 一五	①年内勘定仕上帳 三州小川為屋出店支配人藤助 安政元年二月晦日	一冊 16 叁
年内勘定仕上帳 文政一〇年二月晦日 三州小川為屋出店 文政一〇年	一冊 一五	年内勘定仕上帳 三州小川為屋出店支配人藤助 安政二年二月晦日	一冊 一六
①年内勘定仕上帳 文政一二年二月晦日 三州小川為屋出店支配市兵衛	一冊 14 六	年内勘定仕上帳 三州小川為屋出店支配人藤助 安政六年二月晦日	一冊 一三
年内勘定仕上帳 天保二年二月晦日 三州小川為屋出店支配市兵衛	一冊 一五	年内勘定仕上帳 三州小川為屋出店 文久三年二月晦日	一冊 一三
年内勘定仕上帳 天保七年二月晦日 三州小川為屋出店 天保七年二月	一冊 一五	①年内勘定仕上帳 三州小川為屋出店 元治元年二月晦日	一冊 16 叁
年内勘定仕上帳 三州小河為屋出店支配人半兵衛 ・利兵衛 天保八年二月晦日	一冊 一五	年内勘定仕上帳 三州小川為屋出店 明治元年二月晦日	一冊 一六
年内勘定仕上帳 三州小川為屋出店支配人半兵衛 ・利兵衛 天保一〇年二月晦日	一冊 一五	年内勘定仕上帳 三州小川為屋出店 明治三年二月晦日	一冊 一五
①年内勘定仕上帳 三州小川為屋出店木兵衛・利兵衛 天保一二年二月晦日	一冊 14 六	〇	
①年内勘定仕上帳 三州小川為屋出店支配人喜兵衛 天保一二年二月晦日	一冊 15 叁	かし方滯書出 為屋出店 文化二年二月晦日 市兵衛不埒出金方扣 為屋 天保六年二月晦日	一冊 一六 一冊 一五

長篠村為屋仕上勘定

①天明三年卯暮仕上勘定帳	長篠村為屋太市	横長美	一冊 17	六
已暮仕上勘定帳	長篠村為屋太市	天明五年	一冊	一七
未暮仕上勘定帳	長篠村為屋太市	天明七年一二	一冊	一六
申暮仕上帳	長篠村望月太市	天明八年	一冊	一六
酉暮仕上勘定帳	長篠村望月喜左衛門	寛政元年	一冊	一七

茶取引 (「經營帳簿」四五一四八頁)

寛政度書上

①秋摘下茶売買直段明細帳 (下書)	三州八名郡栗本村為屋八左衛門、百姓代・組頭・庄屋加印	山田茂左衛門役所宛	寛政二年五月	半	一冊 20	二
①秋摘下茶元直段売揚書上帳扣	三務八名郡栗本村商人八左衛門、百姓代・組頭・庄屋加印	山田茂左衛門役所宛	寛政二年五月	半	一冊 20	三

前芝茶問屋

①鵜飼船積送り茶荷物請払支配引請一札	三州前芝湊茶問屋権兵衛・弥吉・善左衛門、同村請人百姓惣代七藏他二名・組頭・庄屋連印	同国山吉田村源兵衛・市郎右衛門・権左衛門、栗本村八左衛門、大野村徳左衛門・吉右衛門・徳右衛門・治兵衛・仁兵衛宛	明和二年九月	一通 27	一七
茶売付諸掛り并取替分書付	前芝加藤弥吉	菅沼八左衛門宛	未七月 (安永四年)	一通	二九
茶売付書	前芝山田善左衛門	小川菅沼八左衛門宛	未九月七日 (安永四年)	一通	三三

茶売仕切	前芝茶問屋三軒 (石原権兵衛・加藤弥吉・山内善左衛門) 組合仕切印	小川菅沼八左衛門宛	未九月七日 (安永四年)	一通	二五
残茶寛 (在庫分)	加藤六藏	菅沼八左衛門宛	未一〇月一日 (安永四年)	一通	三三
米買付書	前芝六藏	小川菅沼八左衛門宛	未一〇月一日 (安永四年)	一通	三四
茶代内金渡シ覚	前芝善左衛門	小川八左衛門宛	未一〇月一日 (安永四年)	一通	三三
茶売仕切	前芝茶問屋三軒組合仕切印	小川菅沼八左衛門宛	未一〇月二九日 (安永四年)	一通	二六
茶内金差引目録	前芝善左衛門	小川八左衛門・喜兵衛宛	未一〇月七日 (安永四年)	一通	二九
茶売付書	前芝山内善左衛門	小川菅沼八左衛門宛	未一〇月二五日 (安永四年)	一通	三〇
茶売付代金渡目録	前芝山田善左衛門	為屋半平宛	未一〇月二五日 (安永四年)	一通	二三
茶売付書	前芝善左衛門	小川菅沼八左衛門宛	未一〇月二二日 (安永四年)	一通	二六
茶売仕切	前芝茶問屋三軒組合仕切印	小川菅沼八左衛門宛	未一〇月一六日 (安永四年)	一通	二七
茶売付書	前芝善左衛門	小川菅沼八左衛門宛	未一〇月二二日 (安永四年)	一通	三三
茶売仕切	前芝茶問屋三軒組合仕切印	小川菅沼八左衛門宛	未一〇月二二日 (安永四年)	一通	二九
茶売仕切	前芝茶問屋三軒組合仕切印	小川菅沼八左衛門宛	未一〇月二六日 (安永四年)	一通	二九
茶売付書	前芝善左衛門	小川八左衛門宛	未一〇月二七日 (安永四年)	一通	三三

茶壳付代金渡目録 前芝山内善左衛門 小川菅沼八左衛門宛 未閏一二月五日(安永四年)	一通 二八三
古茶壳附書 前芝善左衛門 小川八左衛門宛 未閏一二月五日(安永四年)	一通 二七
茶壳附書 前芝山内善左衛門 小川菅沼八左衛門宛 未閏一二月八日(安永四年)	一通 二六三
菅沼正作内用書狀 六藏(前芝加藤氏)宛	一通 二七〇
茶壳仕切 前芝茶問屋三軒組合仕切印 前芝善左衛門添狀共 小川菅沼八左衛門宛 未閏一二月一四日(安永四年)	一通 二〇〇
茶壳付代金渡目録 前芝山内善左衛門 小川菅沼八左衛門宛 未閏一二月一四日(安永四年)	一通 二八四
茶壳仕切 山内善左衛門 菅沼八左衛門宛 閏一二月一四日(安永四年)	一通 二〇一
茶壳仕切 前芝茶問屋三軒組合仕切印 小川菅沼八左衛門宛 未閏一二月一四日(安永四年)	一通 二〇三
小川菅沼八左衛門商用書狀 前芝山内善左衛門宛 閏月一四日(安永四年一二月カ)	一通 二五
茶壳附書 前芝山内善左衛門 小川菅沼八左衛門宛 未閏一二月一七日(安永四年)	一通 二六
茶壳仕切 山内善左衛門 小川菅沼八左衛門宛 未閏一二月一九日(安永四年)	一通 二〇三
茶壳附代金渡目録 前芝山内善左衛門 小川菅沼八左衛門宛 未閏一二月一九日(安永四年)	一通 二八五
仕切金之内預り金之覺 加藤吉藏 菅沼八左衛門宛 未閏一二月一九日(安永四年)	一通 二六四
前芝茶問屋中商用書狀 小河村菅沼八左衛門宛 閏一二月二二日(安永四年)	一通 二七

茶壳附書 山内善左衛門 小河菅沼八左衛門宛 未閏一二月二七日(安永四年)	一通 二六
茶壳仕切 前芝茶問屋三軒組合仕切印 小川菅沼八左衛門宛 閏一二月二七日(安永四年)	一通 二〇四
古茶壳附書 前芝山内善左衛門 小川菅沼八左衛門宛 未閏一二月二八日(安永四年)	一通 二六九
茶壳附代金渡目録 山内善左衛門 小川菅沼八左衛門宛 未閏一二月二八日(安永四年)	一通 二八
古茶仕切覺 前芝茶問屋善左衛門 小川八左衛門宛 申正月二日(安永五年カ)	一通 二二六
茶壳仕切 前芝茶問屋三軒組合仕切印 小川菅沼八左衛門宛 申正月二日(安永五年カ)	一通 二〇五
茶代金仕切目録 前芝山内善左衛門 小河菅沼八左衛門宛 申正月二日(安永五年カ)	一通 二五三
茶壳仕切 前芝茶問屋三軒組合仕切印 山吉田豊田市郎右衛門宛 申正月二日(安永五年カ)	一通 二〇六
茶壳附書 前芝山内善左衛門 小川菅沼八左衛門宛 申二月五日(安永五年カ)	一通 二七
茶壳仕切 前芝茶問屋三軒組合仕切印 小川菅沼八左衛門宛 申二月一三日(安永五年カ)	一通 二〇七
茶壳附代金渡目録 前芝山内善左衛門 小川菅沼八左衛門宛 申二月一三日(安永五年カ)	一通 二七
茶壳仕切 前芝茶問屋三軒組合仕切印 小川菅沼八左衛門宛 申三月一五日(安永五年カ)	一通 二〇六
茶壳仕切 前芝茶問屋三軒組合仕切印 小川菅沼八左衛門宛 申三月一五日(安永五年カ)	一通 二〇九
茶壳附代金渡目録 前芝山内善左衛門 小川菅沼八左衛門宛 申三月一五日(安永五年カ)	一通 二八

茶壳仕切 前芝茶問屋三軒組合仕切印 小川菅沼八左衛門宛 申三月二三日 (安永五年カ)	一通 三三〇
茶壳附書 前芝山内善左衛門 小川菅沼八左衛門宛 申三月二三日 (安永五年カ)	一通 二七三
茶壳附代金渡目録 前芝山内善左衛門 小川菅沼八左衛門宛 申三月二三日 (安永五年カ)	一通 二八九
茶壳仕切 前芝茶問屋三軒組合仕切印 小川菅沼八左衛門宛 申三月晦日 (安永五年カ)	一通 三三一
茶壳仕切 前芝茶問屋三軒組合仕切印 小川菅沼八左衛門宛 申四月二三日 (安永五年カ)	一通 三三三
茶壳仕切 前芝茶問屋三軒組合仕切印 小川菅沼八左衛門宛 申四月二九日 (安永五年カ)	一通 三三三
茶壳附書 前芝善左衛門 小川菅沼八左衛門宛 申五月二〇日 (安永五年カ)	一通 二九三
茶壳仕切 (虫損開封不能) 申五月二九日 (安永五年カ)	一通 三三四
茶壳附書 山内善左衛門 小川菅沼八左衛門宛 申六月八日 (安永五年カ)	一通 二七三
茶壳附代金渡目録 前芝山内善左衛門 小川菅沼八左衛門・半平宛 申六月一七日 (安永五年カ)	一通 二九〇
茶壳仕切 前芝茶問屋三軒組合仕切印 小川菅沼八左衛門宛 申六月一八日 (安永五年カ)	一通 三三五
茶壳仕切 前芝茶問屋三軒組合仕切印 小川菅沼八左衛門宛 申七月一二日 (安永五年カ)	一通 三三六
茶壳附書 前芝山内善左衛門 小川菅沼八左衛門宛 申八月一八日 (安永五年カ)	一通 二七四
茶壳附并注文書 前芝山内善左衛門 菅沼八左衛門宛 申八月二〇日 (安永五年カ)	一通 二七五

跡茶壳附書 前芝善左衛門 小川八左衛門宛 申八月二〇日 (安永五年カ) 一通 二七六  
茶壳附代金渡目録 前芝山内善左衛門 小川菅沼正藏宛 申八月二七日 (安永五年カ) 一通 二九二  
茶壳附算用書断簡 二通 二八二

○

新戸新右衛門へ渡シ金扣帳 小川村菅沼八左衛門定好 (享保二二年正月一・元文四年三月) 横美半 一冊 八四

子年茶買々勘定書 新戸新右衛門 菅沼八左衛門宛 丑三月九日 一通 二三六

買入茶壳附月々算用覚 (菅沼氏) 申二月一・同六月 四通 二九四

未秋仕入茶申五月改勘定 申五月二〇日 一通 二五六

甚平方受取茶預り覚 喜平次 小川為八郎宛 一〇月七日 一通 二八〇

丑年月々出金之覚 寅十一月一・三日改 一通 二二三

○

①車廻状〔商人茶買占ニ付来廿二日寺林村大日堂ニ而寄合之儀〕 寺林村外三拾老ケ村 一通 三二五

回漕業 (↓「経営帳簿」四八・一五〇頁)

羽根問屋

\*①宇川村喜八郎訴願書控 (舟荷物置場ニ付庄屋金十郎と出入一件) 伊奈弥左衛門宛 万治元年一二月二八日 一通 二七三

\*①仕出手形〔宇川村喜八と金十郎舟場出入ニ付相談取極〕長篠村無押以下七名連印 宇川村喜八宛 万治二年四月二二日

①はね問屋替定書扣（但、本書は舟持中連印の上開  
星六左衛門へ渡置旨書添有り） 宝曆四年六月

①明和六丑六月羽根普請帳 三嘉八名郡乗本村小川組為屋八左衛門定久（明和六年六月―安永八年七月）

\*①万治元年極月廿八日宇川村喜八郎訴願書写 安永四年乙未秋為屋正作定久子孫之為書写

\*安永五申秋永代寛 正作（明和六―天明二年）

\*正朔木場仕上帳（安永六年二月―文化五年二月）

\*今般讓受田畑之内畑地老ケ所相渡証文〔為荷物請弘会所并荷藏用地〕乗本村小川組重左衛門・組頭証人次郎八 同組庄作宛 安永九年十二月

①東上御運上 船上下運送 其外売買諸掛帳 為屋八左衛門定基（安永八年正月―天明五年六月）

①文化三丙寅盆前盆後庭賃正ミ仕上 下書共 三州小川邑問屋正作扣

①問屋・船持中出入内済証文〔羽根問屋之儀向十カ年貸渡ニ付取扱人加判為取替一札〕 船持重藏他六名并取扱人六組組頭・百姓代・庄屋、東上村組頭・庄屋連印 八左衛門宛 八左衛門方、船持連中宛一札扣共 文化五年二月

①羽根問屋支配手当金借用証文 船持惣代平八・兵右衛門・善六 八左衛門宛 文化五年二月

①荷物庭銭定〔庭銭増額之儀申入〕 小川組船持重藏・文藏・宗次郎・次郎八・平八・嘉平次、船持組頭・善六・兵左衛門、世話人喜平次、大野・井代・巢山・細川四カ村荷主衆中宛 文化九年二月

大野荷主中書状 小川・内金問屋中宛 申一二月二九日

鵜飼船売買・貸渡

小川藤八郎鵜飼舟名代借用証文〔五年季〕 小川八左衛門宛 寛延三年十二月

①金十郎船名代老艘売渡証文 八左衛門宛 宝曆九年二月

①小川組長藏鵜飼通船老艘売渡証文 名代共 同組八左衛門宛 安永元年二月

①小川組重左衛門鵜飼船売渡証文 名代共 八左衛門宛 安永二年二月

本郷幸右衛門鵜飼通船売渡証文 小河八左衛門宛 天明七年二月

陽兵衛鵜飼船預リ寛 佐兵衛宛 文久二年二月

船仲間規定

①乗本吉藏・小川伝助舟積作法違背ニ付立合人連判差入手形 小川・乗本・久間舟仲間衆宛 延宝六年二月八日

①延宝六年正月廿六日荷物船積作法吟味ニ付舟仲間連判手形継添御証文 青木勘兵衛・近藤与左衛門 金十郎他一〇名船持衆中宛 延宝九年八月二日

④延宝九年酉八月二日御公儀様、被仰付候舟手形之写 青木勘兵衛・近藤与左衛門 舟仲間衆中宛

①乗本村舟持共連判状〔荷物船積輪番取極ニ付〕 金十郎他一〇名 延宝九年八月晦日



①内金村。請取荷物催促遣手形 乗本村船持共金十郎他一〇名 延宝九年八月晦日	一通 27 二九	①鵜飼通船掟一札 (長篠・乗本兩村役人并船持荷物請取渡世之者申合) 文化一三年九月	一通 35 三九
①新古名代都合拾五艘舟仲間相談取極証文 弥七郎・金十郎・平八郎・茂左衛門・八左衛門・二郎七・四郎右衛門連印	一通 27 二四	①鵜飼通船掟一札 三州設案郡長篠村荷物請取所 伝右衛門他二名・同国八名郡乗本村同断八左衛門扣正作・同村船持十左衛門他一〇名・長篠村船持佐五七他五名・有海村船持喜六連印、上記船持付之舟人六三名請連印 文化一四年正月	一通 28 二五
①鵜飼舟掟証文 乗本村舟持金十郎他七名・長篠村舟持善兵衛他四名連印 両村舟持付舟人三九名請連印 延宝四年一〇月	一通 27 一四	連割 (判力) 金沢之寛 子二月二九日	一通 二三
①鵜飼船船持相談一札 (新古名代都合拾艘取極舟持連判証文) 乗本村舟持金十郎他六名連印、同村組頭・百姓代・庄屋奥印 寛延三年三月	一通 27 一三	船 人 (前項「船仲間規定」)	
①鵜飼通船掟一札 三州設案郡長篠村荷物請取所 伝右衛門・半左衛門代助左衛門・李左衛門・同国八名郡乗本村同断八左衛門代慎吉他 両村船持一五名・名主連印 両村舟人五五名請連印 安永二年八月	一通 28 一五	①乗本村八左衛門長屋住居之舟人善藏儀取逃後立 船持問屋六左衛門・船持善六他六名・組頭・庄屋連印 明和四年閏九月一五日	一通 27 一四
付、年内船造作并通船諸入用積書 林半左衛門添状共	二通 二〇〇	濃州長樂村出生船人平七病死ニ付当村地内ニ葬之儀引請人願出一札下書 乗本村小川弥作 組頭・庄屋衆中宛	一通 二四
①乗本・長篠兩村船持惣連判破船之節合力定書 合力金請取人長篠村庄次郎并証人・庄屋奥書連印 両村船持連中宛 安永四年八月	一通 28 一五	積荷・運賃出入	
乗本村鵜飼舟持共廻章 (近年材木川下シ狼ニ相成候ニ付当村後場へ御付彼成度旨) 内金佐七他八カ村二八名所々荷主方宛 閏二月一〇日 (安永四年カ)	一通 二五	滯仕切金仕渡約定証文 吉田川岸問屋半左衛門仲半右衛門・請人半七郎他三名・組頭連印 小川村金十郎・八左衛門・伝兵衛・弥七郎宛 享保九年正月二九日	一通 二七
①乗本・有海・長篠三カ村船持連印定書申渡ニ付 船乘連印請書 船持衆中宛 寛政四年三月	一通 28 一四	森本善兵衛・林惣兵衛 (長篠村名主) 連署書状 (乗本・長篠兩村鵜飼船荷物積之儀川切と罷成候一件内談申入) 菅沼八左衛門宛 三月二日 (延享三年)	一通 二六
①下荷積合規定二箇条惣舟人連印請書案 寛政八年八月	一通 35 二六	大野村荷主連中書状 (船積遲延ニ付督促之件) 菅沼平八郎宛 三月二五日 (延享三年)	一通 二五
①鵜飼通船掟書 十左衛門・兵右衛門・平八・正藏・八左衛門・十藏・秀助・次郎八・善六・惣次郎連印 文化三年六月	一通 28 一五	①八名郡名号村甚兵衛茶并六分板荷物滞一件願書 八名郡乗本村荷物請取問屋八左衛門・同断六左衛門・鵜飼舟持代次郎七・同舟人惣代半兵衛・組頭・名主加印 宝曆七年一〇月	一通 35 二六

①名号村甚兵衛江掛ル茶井六分板荷物滯出入願書  
八名郡乘本村荷物請松問屋八左衛門・六左衛門・  
船持惣代次郎七・舟人惣代半七・組頭・名主加印  
中泉役所宛 宝曆七年十一月

一通 27 一五

乗本村八左衛門名号村甚兵衛江掛ル板荷物滯出  
入一件和談内済扱為取替証文 名号村甚兵衛他証  
人・与頭・名主・中泉村扱人連印 八左衛門・名主  
・組頭・舟持惣代衆中宛 宝曆七年十一月

一通 二五五

①新城町ニ而五品荷物不殘請松売買出願之儀差障  
願書 遠州中泉役所宛 宝曆八年十一月

一通 35 二〇

川合・名号・名越・柿平・能登頼・井代・巢山  
・安寺・大野九カ村荷主三四名連印書狀〔運賃  
引下之儀申入〕 内金・小川問屋中、船持中宛 卯四  
月一二日（明和八年）

一通 一七

鳳来寺領ふんたり山御松材荷物通船差障一件御  
吟味願書 三州八名郡乘本村願人八左衛門、庄屋十  
左衛門奥印 岩松直右衛門赤坂役所宛 安永四年四  
月

二通 二〇三

①鳳来寺領ふんたり山御松材木通船滯出入一条願  
書下書 三州八名郡乘本村願人八左衛門、庄屋奥印  
岩松直右衛門赤坂役所宛 安永四年四月

一通 35 二九

①設案郡川路村与右衛門目安裏書写〔横山村六三  
郎請負鳳来寺領ふんたり山材薪出入一件〕 川路村五  
郎左衛門奥印 未五月一七日赤坂役所裏書 安永四  
年五月

一通 35 二七

船寄会廻狀〔運賃談合一件〕 小川庄作 船持・  
問屋衆中宛 閏七月（安永七年カ）

一通 二九

①積合荷物運賃過上錢之訳御尋ニ付口上書〔大野  
村他奥筋村々荷主出訴一件〕 乗本村八左衛門病氣ニ  
付伯父正藏・別家喜六・差添人藤藏・百姓代・組頭  
・名主連印 赤坂役所宛 文化四年十一月

一通 28 一七

①積合荷物運賃過上錢出入一件扱内済為取替証文  
訴訟方八名郡大野村德左衛門以下、井代・細川・  
巢山四カ村荷主式拾四人・差添大野村名主、相手方  
同郡乗本村八左衛門・喜六・藤藏・同村名主并立合  
人吉田河岸問屋・前芝村問屋・赤坂宿取扱人名主、  
郷宿連印 文化四年十一月

一通 28 二六

東上分一番所（「水運」八三頁）

①明和七寅五月増御運上御免願書 新城町・長篠  
村・乗本村・大野村役人 真野宛 明和七年五月

一通 28 一六〇

乗本村八左衛門書狀下書〔明和七寅年川路村与右  
衛門請負松板東上増運上一件出願之節〕 新城庄屋升  
屋金左衛門宛

一通 一五〇

①乗本村八左衛門訴狀〔東上村御番所分一請負人  
与右衛門不法一件〕 岩松直右衛門赤坂役所宛 安永四  
年三月

一通 28 一五

①乗本・長篠両村役人・船持願書下書〔東上村御  
番所分一請負年季切替ニ付〕 安永四年五月

一通 28 一五

①東上・細川兩御番所分一請負之儀願書写〔當時  
請負人与右衛門取計方不法ニ付〕 一色宮内地頭所三  
州設案郡長篠村・岩松直右衛門代官所三州八名郡乘  
本村兩村船持・船人・筏乗惣代・百姓代・名主 奉  
行所宛 安永六年五月

一通 28 一七

去丑正月六極月迄長篠・乗本兩村諸山荷物御運  
上金積書上 八名郡乗本村八左衛門 内藤為藏宛  
天明二年一〇月

一通 一九

①天明元年丑年東上御番所江上納御運上之覚 乗本  
村為屋庄作 大草太郎左衛門手代源馬左源太宛 天  
明二年一〇月

一通 28 一六

①文化度以降白木運送荷物取扱高増減之儀東上分  
一御番所御取調之由ニ付内報書写 渥美郡吉  
田船町廻船問屋新兵衛 八名郡乗本村積問屋為屋八  
左衛門宛 嘉永四年六月

一通 28 一七

①文化度以降吉田川通川下ヶ荷物増減之儀東上分一御番所々御尋之由ニ付内報書写 乗本村八左衛門宛 嘉永七年六月		一通 28 二四(一)
①東上御番所分一御運上請負・御直取立両様之儀存寄御尋答書扣 当代官所設築郡横山村吉田川通西川筋木師亮人惣代弁蔵・同郡澁川村同断伐田屋宗兵衛・同郡川合村東川筋木師亮人惣代庄之助・同郡井代村東川筋木師亮人惣代孫太郎・同郡乗本村筏問屋善六・同村木師亮人惣代八左衛門 岡崎兼三郎東上御番所宛 嘉永五年三月		一通 28 一三
当寅年分年賦金請取覚 東上彈右衛門 小川耕兵衛宛 寅一二月二日		一通 二七
船荷手形		
①船荷手形〔柿粉九拾箇〕 乗本村菅沼八左衛門・舟人源蔵 東上御分一番所宛 申六月二九日	一通 35 二六	
①船荷手形〔柿粉百箇〕 乗本村菅沼八左衛門・舟人彦左衛門 申六月二八日	一通 35 二三	
①船荷手形〔柿粉九拾五箇〕 乗本村菅沼八左衛門・舟人源蔵 申七月三日	一通 35 二三	
回漕店		
①運賃河岸帳 三州八名郡乗本村菅沼耕一本店 明治五年	一冊 30 一八	横長半
①豊川荷物上下運賃并手数料定 乗本村小川回漕店菅沼耕一・久間同野沢昭三郎・日吉村通運会社原平右衛門・同多々内重蔵 明治一七年二月五日	一通 30 一三	
①渥美郡豊橋・宝飯郡下地村と八名郡大野村間運送荷物諸掛り定 繼立人回漕店八名郡乗本村爲菅沼耕一・同南設築郡長條村(月)望月喜平次・同村④筒井小太郎 (明治)	一冊 30 一八(一)	半
①渥美郡豊橋・宝飯郡下地村と八名郡大野村間運送荷物諸掛り定 繼立人回漕店日吉村(平)原茂平・同村(田)多々内重蔵 (明治)	一冊 30 一八(一)	半
①豊川筋荷物繼立賃額協定ニ付規約書 八名郡乗本村回漕店菅沼耕一・伊藤長蔵 同郡日吉村同広瀬孫三郎・多々内重蔵・原茂平・南設築郡長條村同望月喜平次・筒井長次郎・筒井小太郎連印 明治二二年一月五日		一通 31 一五
①自明治三十拾九年八月定期決算帳 八名郡乗本村八拾番九二運送合資会社業務担当社員菅沼耕一・同望月喜平次 明治三十三年九月		一冊 31 一六
一 鍛田分水事件		
①規約書〔八名・南設築両郡運搬業・荷主商議ヲ以水利之便請願ニ付〕 南設築郡新城村運搬業鈴木光三郎以下、同郡川路・有海・長條・富沢・横川・野田・石田村、八名郡日吉・乗本・一鍛田村運搬業船持・材木商等二三名連印 明治二〇年六月八日		一通 30 一四
①豊川支分水抗議書類〔八名郡一鍛田村疏水工事ヨリ生スル豊川筋舟筏差障ニ付〕 (豊川沿岸運送舟筏營業者) 明治二一―二二年		二通 30 一五
①豊川分水工事之儀ニ付水量実測願・一鍛田用水利害概況合綴 南設築郡有志惣代新城町横山万次郎・同西村榮三郎・八名郡乗本村菅沼耕一・大野村下山与平次 愛知県知事代理宛 明治二二年二月		一冊 30 一七
①委任状写〔八名郡一鍛田村疏水工事ニ付豊川筋舟筏營業者便益維持之訴願部理總代人取極之件〕 (愛知県八名・北設築・南設築・宝飯・渥美五郡村々船稼人) 明治二二年三月		一冊 30 一六
①疏水工事許可取消及工事差止之急訴 愛知県八名・南設築・北設築・宝飯・渥美五郡一六三六名惣代八名郡大野村下山与平次・乗本村菅沼耕一・横山万次郎・西村榮三郎代言人増島六一郎・野口本之助・鈴木貫之 名古屋控訴院長大塚正男宛 明治二二年五月三十一日		一通 31 一五

①鑑定書〔渥美郡牟呂村新開之為之一 飯田村疏水分水  
工事ニ対スル豊川沿岸住民ノ抗議ノ正当性ニ関スル〕  
増島法律事務所 明治二十一年四月

一通 31 一八

①豊川保護約定書〔一 飯田分水事件諸入費分担ニ関スル件〕  
南設楽郡川路村三名・同郡富沢村二名・八名郡  
日吉村六名（総代人宛） 明治二十一年一〇月

一通 31 一五

林 産 業

〔「山林証文」三九一四四頁・「菅沼正兵衛家」六八一六九頁〕

伐出・川下ケ

三州設楽郡神田村御林伐出請負願書 三州八名  
郡乗本村請負人善六・同国設楽郡長篠村同半左衛門  
二河役所宛 安永六年九月

一通 二〇四

山吉田社木仕入調 問屋喜右衛門・為屋耕兵衛扣  
嘉永六年一二月

横長美

一冊 二〇五

大樹寺御普請御用材御伐出ニ付御林地元村役  
人奥印念証 林伊太郎代官所三州加茂郡大ヶ藏連村  
百姓代・組頭・名主連印 御用御取扱人中宛 安政  
三年一〇月

一通 二〇七

大樹寺御普請御用材御伐出ニ付御林地元村役人  
奥印念証 三州加茂郡月原村百姓代・組頭・名主連  
印 御用御取扱人中宛 安政三年一二月

一通 二〇八

大樹寺御普請御用材川下ケニ付差上一札 御用  
材納人乗本村正兵衛 東上番所宛 安政四年二月九  
日

一通 二〇九

大樹寺御普請御用材川下ケニ付差上一札扣〔御  
用材納人正兵衛分〕 乗本村喜三郎 東上番所宛 已  
二月一〇日（安政四年カ）

一通 二一〇

大樹寺御普請御用材伐出ニ付残枝木等御払買請  
直段之儀願書 林伊太郎代官所三州加茂郡月原村  
百姓代・組頭・名主 御林御伐出掛役人中宛 安政  
四年二月

一通 三二

大樹寺御普請御用材御伐出ニ付残り枝木御払買  
請之儀御林地元村御免願書下書 林伊太郎代官  
所三州加茂郡大ヶ藏連村百姓代・組頭・名主 御林  
御伐出役人中宛 安政四年閏五月

一通 三三

立木廻し附記 乗本村菅沼耕一 明治二八年二月  
一九日

横長半

一冊 三三

流 木

埴之上村山本平七・向川原村中村七右衛門書状  
〔流木之儀橋尾村掛合一件〕 菅沼正作宛 一〇月  
九日

一通 三六

東上村役人願書下書〔東上村百姓弥吉儀吉田川通  
流木拾取候不始末一件御手限之御沙汰被仰付度旨〕  
東上番所宛 安政二年八月

一通 二〇六

加茂村・鵜飼嶋村・江村流木一件書類 桂園  
明治三年九月一 同四年二月

半

一冊 二〇四

板 材 買 付

能登瀬村兵七郎材木手附金借用証文 菅沼八左  
衛門代渡辺伝兵衛宛 延享三年四月

一通 八〇

能登瀬村兵七松杉材木・板壳渡約定書 小川八  
左衛門宛 延享三年一二月

一通 一五八

山荷物仕入金無利足取替之覚（定久筆）（安  
永三年）

一通 一五七

奈根貞助板・杉木壳渡証文 小林村作左衛門代人  
兼吉宛 文久三年八月

一通 七六六

下平林治郎材木壳渡証文 付、大材小材明細書  
共 小川為屋八左衛門宛 六月二六日

一通 三三

材仕出シ賃約定証文 寸山長右衛門・請人長七郎・大野口入喜兵衛 小川村八左衛門宛 丑一二月二七日

竹輪山村送り覚 三州八名郡塩沢村儀兵衛 小川八左衛門宛 卯二月一〇日

栗代村由右衛門引合之粉仕出請合一札 布河村永左衛門 川合村藤吉・小川八左衛門宛 八月

炭会所

口数附出シ覚 元治二年四月

繩俵山行覚 炭会所 慶応元年九月一二月

白米代金書出し 吉川豊田角次 御用炭会所宛 慶応元年一二月

黄柳・細川・川合三カ村御林山御用炭仕出諸入用書出

炭木入札帳 為本店 大正一四年九月二八日

仕切状ほか

為替金手形〔一色丹後守様御下シ金〕 三州小川菅沼八左衛門 江戸深川木場大坂屋庄之助宛 嘉永五年七月

御荷物仕切状 江戸京橋白魚屋敷近江屋喜助 菅沼耕兵衛宛 安政五年九月

為替手形〔菅沼新八郎様御下シ金〕 三州小川菅沼八左衛門 江戸本八丁堀三河屋八三郎宛 安政六年一〇月一七日

為替手形案紙〔東上御番所丸山瀬兵衛様御下シ金〕

一通 三八

一通 一五八

一通 六五

横長半

一冊 三四

横長半

一冊 三五

横長美

一冊 三六

半

一冊 三九

横長半

一冊 三三

一通 二三

一通 一八

一通 二六

一通 二七

炭荷物仕切 江戸深川蛤町式丁目大坂屋庄之助 為屋耕兵衛宛 慶応三年六月八日

横長美

一冊 一〇

米仕切状 霊岸島新川岩附屋忠兵衛 菅沼耕兵衛宛 卯九月

一通 一四

炭仕切覚 岩槻屋忠兵衛（霊岸島新川） 菅沼耕兵衛宛 卯一〇月二九日

一通 三三

炭荷物仕切 江戸本八丁堀式丁目大坂屋庄三郎 菅沼耕兵衛宛 慶応三年一二月二日

横長美

一冊 一九

岩炭積送り状 名古屋伝馬町御薬園役所野間権左之助宛（慶応四年カ）

一通 二五

御荷物（材木）仕切書 江戸深川大和町近江屋喜助 菅沼八左衛門宛 明治五年六月

横長美

一冊 一三

御荷物仕切書 江戸深川木場近江屋喜介 為屋八左衛門宛 明治六年九月

一冊 一五

船積送り板材受取書 吾 為正店宛 二月一九日

一通 一五七

辛 灰

灰木四年季壳渡約定一札 善兵衛（村名未詳）武七郎宛 宝暦六年正月一五日

一通 六九

①東田内村・萩平村入会之灰山一年季壳渡証文 両村組頭・庄屋連印 次三郎其外衆中宛 宝暦六年十一月

一通 二六

①於江戸表大坂屋長次郎辛灰売会所出願ニ付障之有無尋答書 真野宗十郎代官所三務八名郡大野村大和屋五兵衛・乗本村為屋八左衛門 御見分役人中宛 申一一月一一日（明和元年）

一通 三一

①江戸本銀町大坂屋長次郎代伊勢屋源兵衛儀、遠州・三州辛灰売場会所支配出願ニ付障之有無再御札ニ付申上書 三州八名郡大野村大和屋五兵衛・乗本村為屋八左衛門 役人宛 申一一月（明和元年）

一通 三一

①辛灰壳渡添証文〔前金五拾兩請取ニ付辛灰渡シ方約定〕川合村請負人半左衛門・同支配人善吉・能登瀬村口入証人左次兵衛 乗本村八左衛門宛 明和元年十一月一九日 一通 31 三〇三

①御荷物引請証文〔辛灰積送り荷物ニ付江戸灰屋仲間連判請合証文〕江戸本八町堀三丁目大坂屋新助他一七名 三州大野村荷主方戸村五兵衛・下山太左衛門・戸山治兵衛・溝口仁兵衛・菅沼八左衛門・花田利三郎・林久七・中根清治宛 明和三年六月三日 一通 31 二〇四

川合・神田両山冥加金五年季請負願書 三州八名郡能登瀬村作左衛門・同郡井代村利三郎 岩松直右衛門役所宛 明和九年一〇月 一通 三〇二

灰山五年季壳渡証文〔尾欠〕

酒 造

酒造高書上

酒造御改書上帳 三州八名郡乗本村八左衛門・名主・組頭・百姓代加判 赤坂役所宛 寛政二年一月 一冊 一四三

酒造御改書上帳 八名郡乗本村酒造主八左衛門・百姓代・組頭・庄屋加印 赤坂役所宛 寛政七年一月 一冊 一四三

天明八年一二月鳳来寺領門谷村源内々書上之三分一酒造高御届書下書 八名郡乗本村酒造人八左衛門・百姓代・組頭・庄屋加印 小野田三郎右衛門赤坂役所宛 享和元年三月 二通 一六〇

付、酒造三分一造米高并酒桶諸道具書上之写 酒造人源内・組頭長兵衛・庄屋勇助 等覚院・一乗院・庄田与三兵衛宛 天明八年一二月 一通 一三七

酒造半石造書上帳下書 三州八名郡乗本村酒造人八左衛門・組頭・名主加印 小野田三郎右衛門手代久保寺清七宛 享和二年九月 一通 一四四

三州宝飯郡・設楽郡・八名郡村々酒造米高半石造之儀ニ付請証文御扣之写 三州八名郡乗本村酒造人八左衛門・組頭・名主加印 小野田三郎右衛門手代久保寺清七宛 享和二年九月 一通 一四五

酒造米石数書上 八名郡乗本村酒造人八左衛門・百姓代・組頭・庄屋加印 小笠原信助赤坂役所宛 天保一〇年七月 一通 一四六

三分二酒造米高書上下書 三河国八名郡何村酒造人名主徳左衛門 半 一冊 一四七

鳳来寺御神酒

①鳳来寺御神酒酒造之儀尋答書 三河国八名郡乗本村酒造稼人百姓八左衛門・百姓代・組頭・庄屋加印 赤坂役所宛 天保一四年六月 一通 三五

御神酒米受取覚 小川菅沼八左衛門 鳳来寺松高院役人中宛 嘉永元年二月 一通 三七

御神酒米請取覚 菅沼八左衛門・同正蔵 松高院役人中宛 亥一二月 一通 三七

御神酒米請取覚 菅沼八左衛門・同正蔵 松高院役人中宛 丑一二月 一通 三七

①松高院役人書状〔小川御神酒御用一条〕 浅畑村只吉宛 四月一五日 一通 34 〇

借 入

元禄貳年巳十一月取替金指引濟ニ付返リ手形 新城庄太夫 小川八左衛門宛 午八月一八日〔元禄三年々〕 一通 一四三

小川八左衛門金子借用手形 新城上町六左衛門宛 元禄四年一二月二三日 一通 一四〇

林半左衛門方江用立金之内半金御差加ニ付長篠村先納金証文質入覚証文扣 乗本村為屋八左衛門・同正作 大橋徳左衛門宛 安永四年十二月	一通	八三
① 乗本村菅沼八左衛門・同正作恩借金証文 大野大橋徳右衛門宛 天明三年一〇月	一通	三五
① 乗本村菅沼八左衛門・同正作恩借金証文 大野大橋徳右衛門宛 天明三年二月	一通	三五
① 乗本村八左衛門・正作金子借用手形 大野徳左衛門宛 天明三年一月	一通	三七
① 乗本村菅沼八左衛門・同正作恩借金証文 大野大橋徳右衛門宛 天明三年一月	一通	三五
小川菅沼八左衛門金子借用証文〔半原御切手并杉山書入〕 新城鈴木吉左衛門宛 天保八年一月	一通	六
新昌寺祠堂金預リ証文 乗本村八左衛門 新昌寺祠堂金会所宛 嘉永六年一月	一通	六三
小川為屋八左衛門金子預リ証文 新城鉄屋吉藏宛 安政二年一月	一通	六三
小川菅沼八左衛門金子借用証文〔杉林式カ所書入〕 新城鉄屋吉右衛門証印 新城鈴木吉左衛門宛 安政二年一月	一通	六四
乗本菅沼八左衛門金子借用証文〔赤坂御役所御入用ニ付〕 口入鉄屋友藏・俵屋平六加印・林伊太郎手附丸山瀬兵衛奥印 鉦屋七右衛門・俵屋彦兵衛宛 安政三年三月一日	一通	六六
小川菅沼八左衛門金子預リ証文 阿寺平七宛 安政三年二月	一通	六七
乗本村菅沼八左衛門金子預リ証文〔杉林沓ヶ所書入〕 東上村彈右衛門宛 安政五年二月	一通	六八
乗本村菅沼八左衛門金子借用証文 東上浅若彈右衛門宛 安政六年四月二日	一通	六九

小川菅沼八左衛門金子預リ証文〔杉山沓ヶ所書入〕 吉田曲尺手町十右衛門宛 元治元年二月	一通	六四
乗本村八左衛門畑地拾年季壳渡証文 親類耕兵衛・証人喜三郎・長篠村三役人加印 長篠源右衛門宛 慶応三年正月	一通	三〇〇
乗本村八左衛門畑地三年季壳渡証文 親類耕兵衛・証人喜三郎・長篠村三役人加印 長篠村喜和屋宛 慶応三年正月	一通	三〇一
元済金請取覚 三州新城鈴木吉左衛門・又助 小川為屋忠助宛 西一〇月一五日	一通	二二九
○ 惠済倉押借引当質地証文 八名郡乗本村押借人菅沼八左衛門・証人組頭兵右衛門・名主耕兵衛 今川要作赤坂役所宛	一冊	二九七
④ 乗本村菅沼八左衛門押借金証文 証人名主耕兵衛・赤坂宿証人郡中惣代清太夫加印 坂田芳助宛 未四月	一通	三四
頼母子・信心講		
頼母子講		
頼母子金預リ証文〔医王寺預リ分共〕 小川村為屋八左衛門 吉川村金竜院宛 明和元年閏一二月晦日	一通	二四二
落札講金預リ一札扣〔鵜飼通船五艘書入〕 小川預主市兵衛〔三州為屋出店〕 吉田船町政吉取次返金講連中宛 天保五年十二月	一通	二四六
長寿講金預リ証文〔田地・杉木書入〕 金預リ主市郎兵衛・請人・与頭・名主加印 長寿講連中宛 天保一五年十二月	一通	二四七

相統講金預り証文〔杉林老ヶ所書入〕預り主小川八左衛門・証人周助 黒瀬葛村忠右衛門講惣連中宛 弘化四年一月

一通 二四六

角次郎取立之頼母子講金借用割済証文 布川本人榮左衛門・請人角次郎・庄左衛門 小川村八左衛門宛 嘉永二年二月

一通 二四九

講金落札証文 落札主鍛冶町甚助 裝束講世話人中宛 文久三年九月

一通 二五三

永統講仕様帳 長篠村講主嘉三郎 元治二年三月

美

一冊 三三三

丈右衛門助成頼母子講帳 元治元年二月一明治五年正月

美

一冊 三三六

講掛金請取書 栗代村伊左衛門会所 布川榮左衛門・小川八左衛門宛 子二月八日

一通 三三八

有親講殘金借用証文 新城赤合勘右衛門 小川菅沼八左衛門宛 子二月一八日

一通 三三七

利八取立榮統講金預り証文案紙

一通 二五五

川路村重左衛門取立家統講金預り証文案紙

一通 二五五

東上村弥兵衛大黒講金預り証文案紙

一通 三三〇

### 半原陣屋大黒講

大黒講戻り金之儀年賦金引合約定書下書 書添覚書共 三州小川預主為屋八左衛門・証人正蔵 福山四郎兵衛宛 文化五年一〇月

二通 二五五

乗本村八左衛門大黒講金預り証文 半原陣屋大黒講連中宛 文政一一年一月

一通 二四三

小川為屋八左衛門大黒講金預証文 半原陣屋大黒講連中宛 文政一三年一月一八日

一通 二四三

大黒講申拾老会目掛戻金請取書 半原陣屋 小川八左衛門宛 嘉永元年一月一六日

一通 二四四

当西満会大黒講掛戻金請取書 半原陣屋大黒講世話人 小川菅沼八左衛門宛 嘉永二年一月一六日 例年之被下金御断申上書〔今般御企之御講多分加入出来兼ニ付〕八左衛門 半原陣屋高橋忠右衛門・青木重兵衛宛 西五月

一通 二四四

一通 二七

### 寺社講

正福寺修覆講金落札預り証文 八名郡乗本村預り主八左衛門・長篠村組合請人・組頭・名主加印 長篠村正福寺修覆講連中宛 安永三年三月

一通 三七

満光寺頼母子落札金預り証文 山吉田村満光寺頼母子会所惣代貞庵 小川為屋八左衛門宛 文政五年二月二四日

一通 九六

満光寺頼母子落札金渡シ覚 満光寺頼母子会所 小川八左衛門宛 午二月二四日

一通 二四九

秋葉山信心講金預り証文案紙 嘉永二年三月

一通 二五五

助成講仕法帳 松高院勘定所 嘉永五年

美

一冊 三三九

信心講落闔金預り証文 有海村預り主百姓代平吉、組頭・庄屋加印 秋葉山御役寮信心講連中宛 安政二年三月一五日

一通 二五七

信心講落闔金預り証文案紙 秋葉山御役寮信心講連中宛

一通 二五八

豊川社信心講仕法帳 講元妙嚴寺・世話人惣檀中 安政三年九月

美

一冊 三三〇

当午落札ニ付講金預り証文〔杉林老ヶ所書入〕小川預り主菅沼八左衛門・証人喜三郎 松高院御講連中宛 安政六年十二月

一通 二五〇

衆衆講仕様帳 鳳來寺講主不動院・日輪院・一乘院・増道院・般若院・世話人鈴木元貞 安政七年二月

美

一冊 三三



寿榮講午落札金勘定書 医王院会所 小川菅沼八  
左衛門宛 午一二月 一通 一五五

起立講金預り証文 小川八左衛門 松高院役人中  
宛 文久元年一二月 一通 三五

岩本院再建助成講仕様帳 講主岩本院、講請般若  
院・増道院 慶応三年二月 一冊 三五

岩本院再建助成講仕様帳 講主岩本院、講請般若  
院・増道院、世話人小川菅沼正兵衛・門谷町丸山喜  
兵衛 慶応三年三月 一冊 三五

④子掛金受納書 三州豊川社妙嚴寺会所 あらゐ六  
郎右衛門宛 子二月二四日 一通 34 〇七

他村出入扱

下吉田村名主給分請取覚 下書共 下吉田村九郎  
右衛門・乗本村只右衛門 乗本村八左衛門宛 明和  
九年九月 二通 三五

塩沢村百姓公太郎村八分一件村内和解ニ付御吟  
味下々願書 御領分中宇利村慈光寺・岩松直右衛門  
代官所川路村勝榮寺 半原役所宛 安政三年一〇月 一通 三七

三州設楽郡奈良村百姓源兵衛他武人、同村百姓  
忠左衛門他九人江掛ル畑山出入一件濟口為取替  
証文写 相手方忠左衛門他九名 名主・組頭・百姓  
代、扱人遠州豊田郡浦川村東作代儀八・同断郷宿伊  
兵衛・忠兵衛 訴訟人源兵衛宛 文化七年十一月 一通 三五

有海村伊兵衛跡式相統ニ係ル田地請戻出入一件  
願書下書(訴訟人大草太郎左衛門代官所三州設楽郡  
川路村八右衛門・松平鉄之助知行所同郡有海村太郎  
左衛門・市左衛門、相手方鳳来寺領同郡下平村長右  
衛門・有海村庄屋与次兵衛) 一通 究

書 狀

江府来狀 (安部左京用人差出  
江戸閣書同封)

松井喜右衛門内密書狀(御地御代官不宜評判云々)  
三月二五日・二七日(寛政元年カ)

平野三右衛門・松井喜右衛門・藤野全右衛門連  
署書狀(臨時金才寛依頼之件) 菅沼八左衛門宛  
閏六月六日(寛政元年カ)

松井喜右衛門書狀 菅沼正作宛 六月一三日(寛  
政元年)

付、同封書付六通

1 四月十一日京都所司代松平和泉守老中・若  
年寄太田備中守京都所司代被仰付、同十二  
日伊達陸奥守領内連年凶作ニ付賜諭示他

2 四月十一日御医師浅井休徵他・同十二日御  
勘定福島又四郎他揚座敷入之御沙汰

3 四月廿六日井伊玄蕃頭・掃部頭と改名、御  
張紙米金請取日限

4 濃州勢州川々御普請成就ニ付御手伝大名褒  
賜

5 五月廿五日小普請紫田勘左衛門他博奕不行  
跡旗本処罰

6 六月二日勘定吟味役大林与兵衛他私曲勘定  
所役人処罰之事

松井喜右衛門書狀(暑中見舞・同人娘病死・東海  
道筋大火ニ而川留・六月十五日四谷・同十六日馬喰  
町式丁目出火之模様等) 菅沼正作宛 閏六月三日  
(寛政元年)

松井喜右衛門書狀 正作宛 閏六月六日(寛政元年)

付、同封書付二通

1 六月十四日御勘定遠藤兵大夫御代官被仰付、同十五日太田備中守京都江御暇ニ付御目見賜物之事、同十七日大御番頭朽木信濃守御役御免他

2 六月晦日御代官大草太郎左衛門并 同人手代共御預ケ被申渡

松井喜右衛門返礼狀 菅沼正作宛 八月一〇日(寛政元年)

付、同封書付四通

1 閏六月七日小普請組前嶋寅之助揚屋入其他連座人一条

2 閏六月十三日博奕旗本遠流其他連座人一条

3 閏六月十二日・同十五日・同十八日・同十九日甲府勤番支配・新番頭・長崎奉行其他御役替之事

4 七月十一日宗猪三郎朝鮮信使来聘延滞之取計ニ付褒賜品之事、同十二日津田内匠頭父子二丸御貸附金不正ニ付逼塞、同日御医師浅井休徵死罪其他連座人之事

平野三右衛門・松井喜右衛門連署書狀〔今般旦那左京御本丸勤被仰付云々〕 菅沼八左衛門宛 四月五日(寛政二年)

三月廿三日淑姫山王社宮參之帰途一橋邸御立寄一件、同廿八日長崎奉行水野若狹守御勘定奉行格被仰付〔松井喜右衛門報知書〕 (寛政二年)

寛政三亥年六月十一日於吹上上覽相撲勝負附(同前)

三通 一五九

五通 一五〇

一通 一五一

一通 一五二

一冊 一四九

吉田追テ風由緒并谷風江許之写 寛政三亥年六月十一日於吹上上覽相撲興行之節書写 細川越中守家来吉田善左衛門 (同前)

十月十六日鳥居丹波守老年眼病ニ付上使御免勤之事御用捨之事、同月松平越中守殿々遠国火事場御用捨之事、同月十三日御代官大岡源右衛門・佐藤友五郎江褒賜銀之事他 (寛政三年) (同前)

十月廿八日他田筑後守於御役宅小普請只木甚兵衛他七名遠島被申渡一件書付 (寛政三年) (同前)

十月廿九日賭博ニ付寄合天野山城守減知通塞、十一月朔日御藏奉行伊東六郎兵衛御加増、田沼竜助(意明)初御目見之事 (寛政三年) (同前)

松井喜右衛門書狀〔十一月三日小普請小笠原数馬窮追不行跡ニ而遠島被申渡之事報知〕 一一月二〇日(寛政三年)

正月十八日町奉行他遠国奉行等御役替、同廿七日御目付中川勘三郎関東筋川々御普請御用掛被仰付、同日御張紙出候直段之事 寛政四年 (松井喜右衛門報知書)

正月廿六日御疊奉行小野繁右衛門役向不束ニ付小普請入被仰付之事 寛政四年 (同前)

正月廿五日小普請安田翁助父子死罪并連座人之事 (寛政四年) (同前)

万石以下之面々御省略中供連減少之旨御書付写 二月三日(寛政四年) (同前)

松井喜右衛門書狀〔夫殺し遠州日比沢村久蔵妻ヒ多於鈴森処刑一件其他〕 菅沼八左衛門宛 七月二日

一通 一五三

一通 一五四

一通 一五五

一通 一五六

一通 一五七

一通 一五八

一通 一五九

一通 一六〇

一通 一六一

一通 一六二

田氏罪案抄写〔天明七年田沼主殿頭殿江申渡ス  
武拾四条書付之内〕（松井喜右衛門報知書）

江戸御救米金人数書并落首 (同前)

○尽し〔松平定信風刺戯文〕（同前）

八歌仙（落首）（同前）

やくはらい・ちよんかれ・落首〔棄捐令に際しての風刺〕(同前)

乃の字見立〔京三条弁慶石町帶屋長右衛門書写〕  
(同前)

能番組見立風刺戯文（同前）

その他

豐田新右衛門書狀  
菅沼八左衛門（定好）宛  
四月二十七日

塩沢村清左衛門書状 小川菅沼八左衛門宛 一二  
月二日

茂原段次書狀 乘本八左衛門宛 一〇月二八日

西村嘉吉書狀 隱居・八左衛門宛 二月一〇日

森弥次左衛門書狀  
菅沼八左衛門宛  
五月一六日

久保某（長篠村久保屋<sup>カ</sup>）書状 菅沼八左衛門宛  
四月一〇日

菅沼半兵衛内玉置五郎兵衛・岩本与左衛門書狀  
〔路用金惠贈被下ニ付謝辭〕 菅沼八左衛門宛 慶応  
四年二月二八日

丹沢与三兵衛書狀〔旦那次男養子縁組支度金半金借用之礼〕 菅沼八左衛門宛 八月七日

岩石礼書狀〔同人永住寺隨身之儀周旋被下ニ付〕  
菅沼八左衛門宛 一〇月二日

聞書ほか

子正月中於柳營諸御沙汰書写

横長半

一冊 五〇〇

桜田門外<sup>二</sup>而水戸浪士井伊侯殺害一件聞書

一通四〇一

於桜田門外井伊掃部頭様被切殺候一件次第書

一通四〇一

## O

御即位之式次第

一通  
一四九九

楠子金剛山城居間壁書

一通四〇三

伝授覚「花火之製法力」

一通 一五八

## 0

江戸表御供目付勤役中勤方日記（三河田原藩家  
中）天保一〇年四月二日—同一三年七月二日

半

一冊  
三九九

分 家・親 類

菅沼正藏家

仕上勘定帳 菅沼正藏 天明四年—文化三年	横長美	一冊	二五
田畑名寄高反別改帳 庄藏分 正作定久 天明五年九月(文政五年三月迄書繼)	横長美大	一冊	二五
* 正藏分田畑名寄 定基 天明五年九月	半	一冊	二五
別宅ニ付田畑譲り証文下書 八名郡乗本村議主正作・八左衛門証人宗八、設樂郡長篠村組頭多市・庄屋半左衛門証印 乗本村正藏宛 天明七年八月		一通	二五
長篠村権左衛門畑地七年季壳渡証文 乗本村小川庄藏宛 天明五年二月		一通	二六
長篠村善兵衛田畑三年季壳渡証文 乗本村正藏宛 寛政二年—二月		一通	二六
長篠村三左衛門畑地三年季壳渡証文 乗本村正藏宛 寛政三年—二月		一通	二六
藏平組丹藏堅木山壳渡証文 小川組庄藏宛 寛政九年七月		一通	二六
小川組要七畑地林壳渡証文 為屋正藏宛 寛政二年四月		一通	二六
藏平組丹藏田地壳渡証文〔杉苗植置候荒田永代壳渡、絵図添〕 小川組正藏宛 文化八年七月		二通	二五

小川組次郎八畑地壳渡証文 為屋正藏宛 文化九年二月		一通	二九
長篠村地田畑壳渡証文 乗本村議主正作・正藏・同所証人善六、長篠村証人・組頭・庄屋加印 乗本村八左衛門宛 寛政五年四月		一通	二六
時借金滞ニ付小川組長兵衛が買畑地十年季差入繼証文 乗本村渡主正藏 同所八左衛門宛 申一二月(文化九年カ)	繼一通	二二	二二
別家正藏借財為引当居屋敷地・居宅・酒藏・酒造諸道具共御預ケニ付差出一札 別家正藏、親類伝右衛門・喜左衛門・正兵衛奥印 本家宛 天保九年二月	一通	二二	二二
借財相嵩相統難出来ニ付引当居屋敷・居宅・酒藏差出一札 別家正藏、親類伝右衛門・喜左衛門・覺藏奥印 本家宛 天保九年二月	一通	二二	二二
正藏杉檜立木山壳渡証文 村八左衛門宛 弘化二年九月	一通	二七	二七
杉檜木立山地五拾年季壳渡証文 為屋八左衛門宛 弘化四年五月	一通	二六	二六
正藏山壳渡証文 当組八左衛門宛 嘉永三年四月	一通	二六	二六
小川組正藏山地壳渡証文 絵図面添 当組八左衛門宛 嘉永三年九月	二通	二七	二七
小川正藏畑地壳渡証文 当組八左衛門宛 嘉永五年二月	一通	二六	二六
小川正藏畑地壳渡証文 当組八左衛門宛 嘉永五年二月	一通	二六	二六
小川正藏田地壳渡証文 当組八左衛門宛 嘉永五年二月	一通	二六	二六

乘本村正藏酒造仕入金借用証文 東上村浅若丹助宛 寛政一〇年一二月	一通	三二	蔵平組丹蔵山地五年季壳渡証文 小川組集助宛 寛政二年一二月	一通	三〇七
小川正藏金子借用証文〔長篠村内金扣田畑書入〕 石田村万吉宛 天保一三年五月	一通	三三	当組正兵衛金子借用証文〔鵜飼船株書入〕 為屋集助宛 弘化四年一二月	一通	二〇七
小川正藏金子借用証文〔畑地書入〕 日田本郷利平宛 弘化二年五月	一通	三五	小川組周助林山畑壳渡証文并代金請取覚 同組為屋八左衛門〔御本家〕宛 天保五年一二月	三通	七三
小川正藏金子借用証文〔畑地書入〕 名越村治助、取次同村利八宛 弘化二年九月	一通	三六	周助金子借用ニ付榎木山拾三年季質入一札 菅沼八左衛門宛 慶応三年一二月	一通	二〇四
小川正藏金子借用証文〔畑地書入〕 本郷組喜右衛門宛 嘉永元年一二月	一通	三七	周助書入畑拾年季壳渡ニ付約定証文 八左衛門宛 明治二年二月二三日	一通	六〇
小川正藏畑地壳渡証文 乘本喜右衛門宛 嘉永五年二月	一通	六五	周助木柄立山拾年季壳渡証文 治郎八宛 明治二年三月	一通	七九
正藏金子借用一札〔杉立木山書入〕 幸右衛門宛 午九月二二日	一通	一四七	菅沼正兵衛家 ↓〔林麿〕一九五		
小川正藏金子借用証文〔畑地買証文差入〕 真弓熊之助宛 寅九月	一通	六四	熊野山上木三拾年季壳渡証文預り念書 小川正兵衛 蔵平典平太宛 天保一五年八月	一通	七四
菅沼周助家			太左衛門杉木二拾五年季壳渡証文 庄兵衛宛 嘉永元年一〇月	一通	七三
長篠村三左衛門畑地并林三年季壳渡証文 乘本村周助宛 寛政三年一二月	一通	五五	忠蔵榎木山拾年季壳渡証文 正兵衛宛 嘉永二年一〇月	一通	七四
蔵平組忠蔵山地三年季壳渡証文 小川組集助宛 寛政四年二月	一通	五七	市川組利平金子借用証文〔杉木立ニカ所書入〕 小川庄三郎・庄兵衛宛 嘉永五年一二月	一通	二〇六
蔵平組清重郎山地三年季壳渡証文 小川組集助宛 寛政四年一二月	一通	五八	かど屋利右衛門山代金請取手形 小川庄兵衛宛 安政三年九月	一通	七五
倉平組久右衛門山地三年季壳渡証文 小川組周助宛 寛政一〇年一二月	一通	五九	宮崎栗木野村杉櫨立木壳渡証文 年寄惣代直蔵・世話人小左衛門 為屋庄兵衛宛 安政三年一〇月	一通	七六

大野村持杉・檜山立木壳渡証文 八名郡大野村小前惣代・百姓代・組頭・名主連印 乗本村菅沼正兵衛宛 安政四年正月	一通	三六	乗本村正兵衛拜借金証文〔鵜飼船書入〕 鳳來寺役所宛 元治元年二月	一通	二九
石田村寺山・檜木壳渡証文 〔大重寺御普請御用材〕 石田村役人惣代左太二郎 小川菅沼庄兵衛宛 安政四年二月	一通	三六	衆衆講六会目落札金受取覚 乗本村正兵衛 衆衆講世話方門谷村役人中宛 元治元年二月一八日	一通	三三
槻大木代金前借証文〔矢作・吉田両御橋御用材〕 御用材取扱人為屋正兵衛宛 安政五年四月	一通	二五	衆衆講当丑七会目落札ニ付講金預り証文〔鵜飼船四艘書入〕 乗本村小川預り主正兵衛、証人親類周助・組頭喜三郎・名主耕兵衛加印 衆衆講連中宛 慶応元年二月	一通	二九
御本丸御造営ニ付御用材御林山伐出并御買上御用請負願書 乗本村願人正兵衛・名主耕兵衛 赤坂役所宛 安政六年二月	一通	三三	小川村正兵衛金子当借証文 下地村万屋直助宛 慶応三年一〇月	一通	三三
滯金返済引当之家作諸道具等一式焼失ニ付差入一札 横浜本町四丁目宮嶋屋勝太郎元本店親類代土屋健助・藤吉 為屋正兵衛宛 文久元年十一月	一通	二六	去ル丑暮之証文焼亡ニ付拜借金書替証文〔畑地并水車書入〕 乗本村小川拜借人正兵衛、証人親類耕兵衛・池場村同断治兵衛加印 鳳來寺岩本院役人中宛 慶応三年十一月	一通	三三
* 正兵衛金子借用証文〔鵜飼船株書入〕 為屋集助宛 弘化四年二月	一通	二〇七	乗本村小川正兵衛金子借用証文 新城新町鉄屋吉蔵宛 慶応三年二月二六日	一通	三〇四
乗本村正兵衛拜借金滯濟方ニ付歎願書 鳳來寺御影堂御料物支配所役人中宛 安政三年正月	一通	二六五	乗本村正兵衛金札拜借証文〔国益之品々開業ニ付〕 三河県役所宛 明治元年二月	一通	三〇五
乗本村正兵衛鳳來寺祠堂金拜借証文〔畑地書入〕 池場村治兵衛・乗本村耕兵衛・同村菅沼八左衛門証印 鳳來寺岩本院役人中宛 安政六年十一月	一通	二六〇	乗本村正兵衛相統講金預り証文〔杉林老カ所書入〕 川合村会所市郎兵衛・御連中宛 明治三年三月	一通	二三三
小川組正兵衛金子借用証文 能登瀬村鈴木元貞宛 万延元年二月	一通	二九二	借用金証文預り之上代人江内金相渡ニ付差入念書 川嶋村寺田佐兵衛 乗本村菅沼正兵衛宛 已一〇月一五日	一通	二〇九
蓮光院様之拜借金滯ニ付年賦濟方添証文 乗本村拜借人正兵衛 鳳來寺法華院役人中宛 文久二年二月	一通	二九三	前芝湊加藤六蔵江横浜本町四丁目家屋敷七年季讓渡一件書類 讓主菅沼正兵衛・証人親類菅沼八左衛門 (明治五年)	一綴	二三八
乗本村小川組正兵衛金子借用証文 能登瀬村鈴木元貞宛 文久三年十一月	一通	二九三	① 新城町錢屋吉蔵・角屋十蔵・小川為屋正兵衛連署廻章〔錢相場切上并講事一件御見舞出金一条〕 塩沢・鳥原・庭野・一鍛田・中・中市場・新城・新町・川路・有海村船持衆中宛 卯一〇月八日	一通	三五

<p>①鵜飼船御検印札御下渡願書〔認可指令済〕 第十四大区一小区八名郡乗本村農菅沼正兵衛、副戸長浅井喜三郎・戸長豊田成章奥印 愛知県令鷲尾隆聚宛 明治七年一月</p>	<p>①第十八区八名郡大野村生糸并真綿等營業届 下山厩三郎・新井宗三郎・久保仙右衛門・下山与平次・下山与兵衛 生糸取締菅沼正兵衛宛 明治九年一月三十一日</p>
<p>①商法并国益方願書扣 八名郡乗本村正兵衛 三河県役所宛 明治元年一〇月</p>	<p>①製糸伝習免状〔下等小学第五級〕 水沼製糸所夜学校 工女上羽勇宛 明治九年五月二日</p>
<p>①産物盛業建白 第十四大区一小区三州八名郡乗本村養蚕世話役菅沼正兵衛 愛知県令鷲尾隆聚宛 明治七年八月</p>	<p>①製糸伝習免状〔第十一等、第九等〕 研業社製糸所 菅沼知巳宛 明治一三年一月・同一四年一月</p>
<p>①豊川水防ニ付建白書 乗本村養蚕世話役菅沼正兵衛 愛知県令鷲尾隆聚宛 明治七年九月</p>	<p>①信州飯田座光寺市場並木伊平書状〔養蚕師引合一条返信〕 為屋正兵衛宛 五月一九日</p>
<p>①第十四大区一小区八名郡乗本村生繭届 戸長柿原喜平治 養蚕世話役中宛 明治七年六月</p>	<p>①吉川村作尾某書状〔蚕御鑑札出願延期一条〕 小川村菅沼庄兵衛宛 九月一七日</p>
<p>①明治八年蚕種御免許印紙凡積取調書附 愛知県下三河国八名郡乗本村蚕種世話役菅沼正兵衛組内副惣代三輪清兵衛宛 明治七年八月</p>	<p>①豊橋中橋寄寓菅沼正禄書状扣〔御衣祭系献納願奥書依頼の件〕 八名郡役所鈴木平五郎宛 明治一六年八月二〇日</p>
<p>①物産見込書 養蚕世話役副社長菅沼正兵衛 十四大区正副区長宛 明治八年正月</p>	<p>①乗本村菅沼耕兵衛書状〔本籍送付依頼の件〕 名古屋入江町式丁目一七番地菅沼正録宛 一二月六日</p>
<p>①組合結社願・結立願書・組合定款・申合規則 愛知県管下三河国宝飯郡・渥美郡・八名郡・渥美郡豊川組 (菅沼扣) 明治八年四月一五月</p>	<p>○</p>
<p>①諸願届届綴込 豊川組頭取菅沼 明治八年四月一 同九年二月</p>	<p>①孫兵衛離縁状 おひで宛 安政五年正月</p>
<p>①来書物綴込 豊川組 (菅沼扣) 明治八年七月一 同九年二月</p>	<p>付、遠州都筑村孫兵衛親類孫重・市左衛門添口上書 三州小川村菅沼正兵衛宛</p>
<p>①蚕種製造人取調届書 八名郡能登瀬村・西川村養蚕世話役宛 明治八年九月</p>	<p>奉公人請状〔老年季〕案紙 江村奉公人佐助・組頭・親類 小川村為屋正兵衛宛 安政六年二月</p>
<p>明治八年分諸入費各戸割附帳・各戸差引明瞭簿 合冊 豊川組 菅沼扣 明治九年七月</p>	<p>乗本村正兵衛抱職人炭焼桂助身柄引請一札 双瀬村本人桂助、組合受人正吉・権助・権兵衛、海老村荷問屋正兵衛 能登瀬村磯八宛 明治三年二月</p>

菅沼耕兵衛家

日記

\*留書并日記 松園菅沼定敬 安政六年

江府土井權左衛門書伏(菅沼耕兵衛稚草出願周旋一件) 三務乘本村菅沼耕兵衛宛 寅三月晦日(慶応二年カ)  
付、御油問屋状送り添状并 四月三日付土井氏宛返書状下書他

他村出入扱

大野村簾助并源兵衛御吟味一件入用金割賦規定ニ付差出一札 大野村源兵衛・簾助、兩人親類・組合、村中小前惣代・三役人連印 赤坂宿作左衛門・巢山村名主伊兵衛・井代村名主三左衛門・下平村名主五兵衛・乘本村名主耕兵衛宛 安政四年一〇月

大野村簾助一件入用取調帳 扱人作左衛門・伊兵衛・耕兵衛・三右衛門・五兵衛 安政四年一〇月  
有海村平兵衛等村役元不法不実之簾々小前中口書 小川耕兵衛宛

三州設楽郡有海村組頭作兵衛并小前一同出訴一件心得違之段歟願書写 地頭所出役千葉左門宛 安政五年八月

有海村太右衛門・六平知行所所弘被仰付一件御出役諸入用出金之儀請書 有海村太藏・六右衛門兩人親類・組合連印 役人・立合衆中宛 安政五年八月(明治元年一月亨)

八名郡一色村初十カ村小前騒立一件和熟ニ付差出一札 八名郡一色・巢山・細川・六郎貝津・下平・大野・井代・能登瀬・名越・名号村小前惣代連印、上記一〇カ村名主奥印 乘本村名主耕兵衛・名号村後見太郎左衛門宛 明治二年一二月

半 一冊 一五

四通 三七

三通 三六

横長半 一冊 三六

一通 三六

一通 三六

半 一冊 三三

一通 三五

酒造取締役

①三河県御支配酒造株高名前帳 酒造取締役乘本村耕兵衛扣 (明治二年カ)

急廻章(今般酒造御改伊束雅五郎様御廻村ニ付) 酒造取締耕兵衛・同添役八郎左衛門 下細谷村・高塚村・石神村・古田村・畠村酒造稼人中宛 已五月七日

④勤中苗字御免并手当金下賜之御書付写 三河県八名郡乘本村酒造肝煎人菅沼耕兵衛宛 明治二年六月・同九月

二通一紙 34 元

八名郡副郡長勤役中書類

○村役人届書

八名郡塩沢村庄屋取極届書 元半原県管下・元静岡県管下村役人 額田県郡長宛 明治五年二月

一通 三六

黒田村庄屋・組頭役届書 黒田村古役黒田惣三郎小川村菅沼耕兵衛宛 明治五年三月

一通 三七

八名郡半原村庄屋役書上 郡長宛 明治五年三月四日

一通 三八

八名郡下宇利村庄屋役新任願書 庄屋浅見滝助・井上源十郎 八名郡長宛 明治五年三月

一通 三九

八名郡八反ヶ谷村村長・組頭人撰届書 庄屋井口九良次・山本五一郎 額田県庁宛 壬申(明治五年)二月

一通 三〇

八名郡多利野村役人新任願書 古役田中太治兵衛・同組頭豊田藤藏他一四名連印 額田県役所郡長宛 明治五年二月

一通 三一

下平村名主・組頭入札届 下平村小前中 小川村耕兵衛宛 二月二十五日

一通 三三



草高書上

草高取調帳 二月	八名郡小畑村 額田県庁宛 明治五年	美	一冊	三三
草高書上帳 年二月	八名郡一畝田村 額田県庁宛 明治五年	美	一冊	三七
草高書上帳 二月	八名郡中山村 額田県庁宛 明治五年	美	一冊	三七
草高書上帳 二月	八名郡馬越村 額田県庁宛 明治五年	美	一冊	三七
草高御届書 二月	八名郡西川村 額田県庁宛 明治五年	美	一冊	三七
草高御届帳 二月	八名郡成沢村 額田県庁宛 明治五年	美	一冊	三〇
草高御届帳 二月	八名郡和田村 (宛書欠) 明治五年	美	一冊	三二
草高御届帳 年二月	八名郡上吉田村 額田県庁宛 明治五年	美	一冊	三三
草高御届 月	八名郡平野村 額田県庁宛 明治五年二	美	一冊	三三
草高御届 月	八名郡萩平村 額田県庁宛 明治五年二	美	一冊	三四
草高書上帳 二月	八名郡長彦村 額田県庁宛 明治五年	美	一冊	三五
草高御届 月	八名郡入文村 額田県庁宛 明治五年二	美	一冊	三六
草高取調帳 二月	八名郡庭野村 額田県庁宛 明治五年	美	一冊	三七

草高御届 八名郡中野田新田 額田県庁宛 明治五年二月 美 一冊 三八

草高御届 八名郡長楽村 額田県庁宛 明治五年二月 美 一冊 三九

八名郡黒田村除地・見取場高書上 庄屋黒田惣三郎 小川村菅沼耕兵衛宛 明治五年三月 美 一冊 一五二

(第十四大区) 老小区戸籍番号姓名帳 菅沼和八名郡長入用明細書 元郡長八名郡乗本村菅沼耕兵衛 大区長宛 明治五年九月一九日 半 一冊 三〇

①設楽郡第八大区第三小区一覽表 大区長青木三省 一冊 23 二

乘本村

支配

御触写・名主廻状

①会田伊右衛門御廻状名主写触〔熊野勸化錢未申  
兩年分取集之儀〕 名主金十郎 酉三月六日〔享保  
一四年カ〕

一通 三〇

婚礼之節石打杯停止之旨御触写其他役向廻状  
名主菅沼金十郎 寅六月〔享保一四年〕

一通 一三四

公儀御触廻状写〔古金銀引替之儀并河州菅田八  
幡宮勸化一条〕 午二月一同三月〔元文三年〕

二通 一三七

御郡代様御直被仰渡之覚書 寛政一〇年九月〔天  
保一四年九月一三日写〕

一冊 一三八

取金多分ニ付小判・老分判吹直之儀并米直段下  
直ニ付諸色直段引下ヶ商売可致旨御触廻状写  
赤坂役所 〔文政二年六月一同八月〕

一通 一三九

古金銀引替差出方之儀ニ付増歩御手当町触写  
町年寄会所 一一月〔天保一四年カ〕

一通 一三〇

赤坂御役所御触書写〔風俗取締〕付、村会所順  
達添状 小川組以下六組宛 戌一二月

一通 一三一

○

正徳三年癸巳四月廿三日諸国御料所諸百姓江被  
仰渡候御書付〔尾欠〕 菅沼八左衛門定好筆写

一冊 一三三

①御定法書 元文六年正月〔明和四亥五月菅沼八左衛  
門定久筆写〕

一冊 21 欠

代官所御用状

中嶋貞藏先触村継差添状 内藤為藏 赤坂村他四  
カ村名主中宛 正月朔日

一通 一四三

中泉御役所御召封請取書 名号村名主伝右衛門  
乗本村金重郎宛 丑一一月四日

一通 一五二

村明細

乗本村

①参川国八名郡乗本村指出 乗本村庄屋金十郎 代  
官宛 元禄一六年七月

一冊 21 欠

川上猪三郎代官所三河国八名郡乗本村明細帳下  
書〔幕末〕

半

一冊 一三三

①村差出明細帳写 八名郡乗本村百姓代喜右衛門・  
与頭重平・同喜平次・名主宗平・同耕兵衛 赤坂役  
所宛 明治二年九月

一冊 21 〇〇

○

乗本村御検地年号高反別書上帳 羽倉外記赤坂  
役所宛 文政五年三月

美

一冊 一三四

田畑質入直段并種粃麦收納米金御尋ニ付書上下  
書 三州八名郡乗本村名主平八・正藏、組頭清八・  
喜右衛門、百姓代源右衛門 赤坂役所宛 文政六年  
正月

一通 一三五

他村分

①三川国設楽郡長篠村明細帳 一色数馬内代官三須  
五右衛門宛 元禄一五年八月

一冊 22 〇一

①三州設楽郡川尻村指出帳 多羅尾平藏・日高太郎  
左衛門宛 宝永七年

一冊 22 〇一

①三河国設案郡川尻村郷指出帳 享保一二年四月 ①差出シ牒 八名郡中野田新田庄屋甚右衛門 代官宛 享保一四年七月	一冊 22 〇三	①三河国設案郡川尻村郷指出帳 享保一二年四月 ①差出シ牒 八名郡中野田新田庄屋甚右衛門 代官宛 享保一四年七月	一冊 22 〇三
①三州設案郡川路村差出帳 庄屋五郎左衛門・組頭 吉兵衛・惣右衛門 山田治右衛門宛 享保一八年五 月	一冊 22 〇五	①三州設案郡川路村差出帳 庄屋五郎左衛門・組頭 吉兵衛・惣右衛門 山田治右衛門宛 享保一八年五 月	一冊 22 〇五
①三河国設案郡川尻村郷指出帳 庄屋八郎兵衛・与 頭次郎左衛門・百姓代左右衛門 享保一八年六月	一冊 22 〇四	①三河国設案郡川尻村郷指出帳 庄屋八郎兵衛・与 頭次郎左衛門・百姓代左右衛門 享保一八年六月	一冊 22 〇四
①天野助次郎御代官所三河国設案郡川尻村村指出 帳 庄屋七郎右衛門・与頭七郎兵衛・儀右衛門・百 姓代次郎右衛門 延享三年二月	一冊 22 〇六	①天野助次郎御代官所三河国設案郡川尻村村指出 帳 庄屋七郎右衛門・与頭七郎兵衛・儀右衛門・百 姓代次郎右衛門 延享三年二月	一冊 22 〇六
①村指出シ明細帳 三河国設案郡川尻村名主文吉・ 組頭庄左衛門・百姓代太平 大草太郎左衛門赤坂役 所宛 天明七年四月	一冊 22 〇七	①村指出シ明細帳 三河国設案郡川尻村名主文吉・ 組頭庄左衛門・百姓代太平 大草太郎左衛門赤坂役 所宛 天明七年四月	一冊 22 〇七
村 政			
村役人			
①庄屋役相統願書〔庄屋十郎左衛門跡役粉亀三郎江 被仰付度旨〕 八名郡乗本村組頭八左衛門他組頭六名 ・平百姓一・三名連印 天野助次郎役所宛 寛保三 年八月	一通 24 二三	①庄屋役相統願書〔庄屋十郎左衛門跡役粉亀三郎江 被仰付度旨〕 八名郡乗本村組頭八左衛門他組頭六名 ・平百姓一・三名連印 天野助次郎役所宛 寛保三 年八月	一通 24 二三
①今度小川組組頭跡役御引請被下ニ付五人組限一 札 小川組五人組頭半七郎以下七名連印 同組八左 衛門宛 明和八年二月	一通 二三六	①今度小川組組頭跡役御引請被下ニ付五人組限一 札 小川組五人組頭半七郎以下七名連印 同組八左 衛門宛 明和八年二月	一通 二三六
①今度小川組組頭跡役御引請被下ニ付五人組限一 札 五人組頭平三郎以下五名連印 同組八左衛門宛 明和八年二月	一通 二三七	①今度小川組組頭跡役御引請被下ニ付五人組限一 札 五人組頭平三郎以下五名連印 同組八左衛門宛 明和八年二月	一通 二三七
①今度小川組組頭跡役御引請被下ニ付五人組切一 札 小川組五人組頭治郎八以下七名連印 同組八左 衛門宛 明和八年二月	一通 二三六	①今度小川組組頭跡役御引請被下ニ付五人組切一 札 小川組五人組頭治郎八以下七名連印 同組八左 衛門宛 明和八年二月	一通 二三六
五人組			
①御仕置五人組帳〔会田伊右衛門前書、惣百姓請印〕 享保一四年三月	一冊 20 〇三	①御仕置五人組帳〔会田伊右衛門前書、惣百姓請印〕 享保一四年三月	一冊 20 〇三
①三川国八名郡乗本村御仕置書申渡候五人組帳 〔大草太郎左衛門前書、請文言のみ〕 天明二年三月	一冊 20 〇四	①三川国八名郡乗本村御仕置書申渡候五人組帳 〔大草太郎左衛門前書、請文言のみ〕 天明二年三月	一冊 20 〇四
①御仕置書申渡候五人組帳〔前書のみ〕 八左衛門 控 天明五年三月	一冊 20 〇五	①御仕置書申渡候五人組帳〔前書のみ〕 八左衛門 控 天明五年三月	一冊 20 〇五
①五人組御請一札〔博突賭之勝負御法度之儀〕 小川 組茂左衛門組之内平八郎他五名 組頭衆中宛 延享 二年十一月	一通 35 二九	①五人組御請一札〔博突賭之勝負御法度之儀〕 小川 組茂左衛門組之内平八郎他五名 組頭衆中宛 延享 二年十一月	一通 35 二九
①五人組合一札〔新規組合被仰付ニ付〕 五人組改長 十・惣十郎・与平次・藤十 組頭八左衛門宛 明和 八年八月	一通 35 二〇	①五人組合一札〔新規組合被仰付ニ付〕 五人組改長 十・惣十郎・与平次・藤十 組頭八左衛門宛 明和 八年八月	一通 35 二〇

五人組合一札〔新規ニ五人組合被仰付ニ付〕五人組改長十他三名 組頭八左衛門宛 明和八年八月

一通 一三三

○

①五人組帳 設楽郡作手組 文久四年三月

一冊 21 六

①五人組帳 三州八名郡多利野村 三河県役所宛 明治二年三月

一冊 21 七

村 法

博奕賭之諸勝負御法度之趣御請一札 小川組安兵衛他三七名連印 組頭八左衛門・茂左衛門宛 享保一六年一〇月

一通 一三三

博奕停止之御請書調印之儀并火之用心夜番・稲刈ニ付村中申渡書写 名主金十郎 寅九月二一日(享保)九年

一通 一三五

賭諸勝負嚴重御吟味ニ付御請一札 案紙共八兵衛他三五名連印 乘本村庄屋・組頭中宛 享保二〇年一二月

二通 一三六

①小川組中連判一札〔今度日光御用木并檜御材木川出ニ付盜木等不埒之義無之旨〕 茂左衛門・八左衛門宛 延享元年七月

一通 35 二九二

①乘本村惣百姓連判一札〔川筋式拾五カ村一列徒党之荷担人御吟味ニ付〕 善六以下二〇一名連印 庄屋・組頭衆中宛 天明五年三月

一通 28 一六三

御林木村方一組切取締帳 五人組二四組連判 名主半平・要助・助太夫宛 嘉永五年一月

横長美大

一冊 一四八五

三州吉川村於柳藏宅博奕一件御仕置被仰渡請書下書 当代官所三州八名郡吉川村善右衛門他四名・同乘本村庄藏他一名・松平伊豆守領分同郡西川村米吉・安部長次郎知行所同郡鳥原村勇松他三名、上記各村名主・組頭 小笠原信助役所宛 (年次欠)

一通 一三三

組分願

①小川・市川兩組小前惣代願書下書〔乘本村他四組と組別之儀〕 戊午(幕末)

一通 35 三元

藏平組惣代願書下書〔小川・市川兩組組別出願之節、右兩組並組入之儀〕

一通 35 二四

分 散

はね伝十郎家財改覚 八左衛門 辰正月

一通 一五二

市兵衛借財廉訳書 莊六 酉三月

一通 一五九

村 内 出 入

御年貢金其他村方諸勘定ニ付七組小前一同騒立一件村役元尋答書〔首欠〕 八名郡乘本村百姓代幸右衛門・組頭喜十病氣ニ付俸政太郎・組頭七兵衛・同伝右衛門・同茂右衛門・同五兵衛・同勇右衛門・名主吉十・同正藏 赤坂役所宛 天保七年三月

一通 一三五

市郎兵衛差出一札〔同人御吟味中入牢之處願下ケ被下ニ付改心之上隠居之旨〕 親類嘉助・米次・政平・組合惣十加印 天保一三年五月

一通 一四五

乘本村百姓浅藏父市郎兵衛儀多年村役人相手取出入一件ニ付村方難渋願書案 三州八名郡乘本村小前惣代四名・村役人惣代組頭五名・名主正兵衛中泉役所宛 寅八月(天保一三年カ)

一通 三九

栗衣組市郎兵衛一件雜用割合金取立方ニ付口上書 乘本村役人 郡中代庄左衛門宛 天保一三年一〇月

一通 一四四

村役元出訴被致候市郎兵衛儀此度隠居仕候ニ付跡式相統願差上一札 白子村利吉・黒田村仙吉・本郷組源助・市川組利平・宮脇友右衛門・惣右衛門・大平組宇兵衛・大平組役人中并組合中宛 嘉永五年二月

一通 一四六

大平組市郎兵衛一件荷担人一同連印差上詫書  
大平組組頭加印 正兵衛・久兵衛・庄三郎・九左衛門・喜右衛門宛 嘉永六年正月

一通 一四九

乗本村百姓浅藏父市郎兵衛不法之始末廉々申上書下書 三州八名郡乗本村長左衛門他七名 中泉役所宛 嘉永七年四月

一通 一〇三

乗本村百姓浅藏父市郎兵衛・百姓源助の同村名主正兵衛他拾老人相手取出訴一件返答書下書 三州八名郡乗本村百姓長左衛門・宇兵衛 小前二六人惣代喜右衛門・弥兵衛・組合忠藏・庄三郎・名主正兵衛、差添組頭喜平次 中泉役所宛

一通 一〇三

乗本村百姓市郎兵衛・源助の名主正兵衛他三拾老人江掛ル訴状奥印并差添之儀断之儀願書 三州八名郡乗本村組頭喜平治・名主後見八左衛門 寅四月（嘉永七年）

一通 一四七

大平組市郎兵衛組合詫入差出一札下書 百姓代・組頭・名主宛 嘉永七年九月

一通 一四〇

乗本村百姓市郎兵衛跡式相統御慈悲願下書 八名郡乗本村百姓市郎兵衛親類惣代市川組利平養子忠次郎

一通 一四六

詫一札

筆吉心得違之儀ニ付差出一札 地類七兵衛・親類与右衛門加印 御村中・役人宛 嘉永四年三月

一通 一三三

栗衣組治郎兵衛田畑闕所上納殘金ニ付異論申立一件詫入一札 本人忠藏・五人組平三郎・組合衆藏・小川引受人藤助・組頭代人松五郎 小川組正兵衛（先名主）宛 万延元年七月

一通 一四四

行路病人村継送り

奥州名取郡諏訪村百姓門太郎倅寛太郎儀諸国仏参途中三州大野村ニ而発病ニ付村継送り手続一件

四通一紙 一四八

戸口

家数人数書上

①安永式巳の拾七ヶ年分家数人別ノ帳 三河国八名郡寛政元西迄 郡乗本村彦三郎 山田茂左衛門手代原与惣太・秦和吉宛 寛政元年八月

一通 二二九

②増減差引帳 三河国八名郡乗本村 赤坂役所宛 弘化二年三月

一通 二二〇

乗本村高家数人数取調書上之扣 巳年

横長半 仮一通 二三六

引越

高野村入作百姓藤左衛門儀乗本村小川江引越居住ニ付差入手形案紙 本人藤左衛門・長三郎・庄屋長左衛門 乗本村庄屋金十・組頭衆中宛 貞享三年四月

一通 二三七

此度大平組の栗衣組江引戻リ隠居ニ付起請一札 本人小源太・舎弟忠次郎 菅沼八左衛門宛 安政五年正月

一通 二三三

送籍

松兵衛江係ル寺送り手形 勢州山田中嶋町西岸寺運管 三州小川藏泉寺宛 天明元年八月

一通 二三六

寺送り一札（山吉田村俊平妹律儀乗本村大介江縁組ニ付）三州八名郡山吉田村菅沼直七郎知行所高德寺 長篠村医王寺宛

一通 二三九

村送り手形案紙 林伊太郎代官所三河国八名郡乗本村名主中宛

一通 二三二

○

吉田新町忠右衛門娘とみ遠方江縁付ニ付旦那寺  
一札 吉田神宮寺 前芝村弥吉宛 宝曆一〇年一二  
月

一通 二三四

飯村助藏娘ちのニ係ル宗旨送り一札 三州渥美  
郡飯村願主助藏・同村庄屋猪三郎 吉田曲尺手町年  
寄中宛 慶応二年三月

一通 二三〇

①人別送り証書下付願〔田原藩支配所三河国渥美郡  
水川村百姓五郎左衛門弟十歳豊橋宿江出稼ニ付〕百  
姓代・組頭・庄屋 豊橋役所宛 明治四年七月

一通 三三五

欠落人

欠落人兩名百八十日行衛不相知旨御届書下書  
三州八名郡乗本村欠落人兵作親兵藏・同伊兵衛母煩  
ニ付親類 赤坂役所宛 安政三年九月二八日

一通 二三三

兵役

①第十四大区一小区八名郡乗本村免役連名簿 菅  
沼八左衛門 明治六年一一月

一冊 二四

○

設楽郡長篠村左合善三郎弟兼五郎儀無籍者ニ付  
戸籍編入願 設楽郡長篠村左合善三郎 八名郡乗本  
村菅沼正兵衛宛 明治七年一一月

一通 三三七

中村熊藏儀橋本さよ方養嗣子縁組ニ付約束書  
八名郡乗本村橋本さよ・渥美郡豊橋村中村熊藏兄中  
村重久・証人橋本さよ組合惣代橋本和三郎・橋本善  
六・伊藤七藏・立合口入人菅沼耕一 明治一九年三  
月

一通 二三六

改名願

戸主改名願人扣 (明治)

一通 二三二

土地・山林

検地・地改

①鵜川村高付 慶長一〇年一一月

一通 三三二

①付、慶長拾年霜月高書付覚 (正作定久)

一通 三三七

三州八名郡乗本村新田畑検地帳(写) 鈴木八右  
衛門内青木勘兵衛・白井助右衛門 寛文九年七月(寛  
政七年写)

半

一冊 一四六

三州八名郡乗本村新田畑検地帳(写) 鈴木八右  
衛門内青木勘兵衛・白井助右衛門 寛文九年七月

半

一冊 一四九

三州八名郡乗本村本田畑帳(写) 鈴木八右衛門  
内近藤与左衛門・青木勘兵衛 寛文一〇年一〇月

半

一冊 一四〇

三州八名郡乗本村戊辰新田畑検地帳(写) 近藤与  
左衛門・青木勘兵衛・近藤儀右衛門・青木十郎兵衛  
寛文一〇年一〇月 二冊之内(小川・藏平・栗衣  
組分)

半

一冊 一四三

三州八名郡乗本村戊辰新田畑検地帳(写) (寛文  
一〇年一〇月力) 二冊之内(乗本・久間・卒川・大  
平組分)

半

一冊 一四三

三州八名郡乗本村卯辰新田畑御検地帳(写) 国領  
半兵衛内向坂治五右衛門・片岡丈右衛門 乗本村庄  
屋・組頭・惣百姓中宛 (貞享四年八月)

半

一冊 一四四

三州八名郡乗本村之内小川分卯辰新田畑御検地本  
帳写 (貞享四年八月) 享保一三年二月菅沼八左衛  
門等

半

一冊 一四三

本田畑畝歩帳 安永五年六月改

横長半

一冊 一四五

畑方地並帳(写) 乗本村小川組 文政八年九月

半

一冊 一四一

畑方地並帳(写) 乗本村小川組 文政八年九月  
(尾欠)

半

一冊 一四三

卯辰新田畑帳 四冊之内三番

半

一冊 一四四

○

\*乗本村御検地年号高反別書上帳 三州八名郡乗本村名主正蔵、組頭七兵衛・清八・喜右衛門、百姓代久兵衛・源右衛門 羽倉外記赤坂役所宛 文政五年三月

美 一冊 一三四

高反別取調

当村組帳面高外組へ拔高扣 三州八名郡乗本村之内小川組 享保一三年二月

半 一冊 一三六

外組へ当村へ入高帳 乗本村小川組 享保一三年二月

半 一冊 一三七

本免并取下場組々高仕訳帳 八名郡乗本村名主正兵衛扣 天保一四年九月

横長半 一冊 一四三

屋敷反別取調帳 小川組

横長半 一冊 一四六

名寄

名寄帳 三州八名郡乗本村小川分 宝永八年三月

横長美 一冊 一四五

田畑名寄帳 首欠

美 一冊 一四七

荒損地・起返地

本・新・卯新去卯田畑荒地地下帳 小川組 宝曆一〇年二月

横長半 一冊 一四六

本・新・卯卯損地田畑書上帳扣 小川組 明和二年二月

横長半 一冊 一四九

高反別荒地起返帳 三州八名郡乗本村庄屋庄作・彦三郎・善六・次郎八・幸右衛門、百姓代四郎五郎赤坂役所宛 天明元年一二月

美 一冊 一四〇

隠田

市郎兵衛扣地之内隠田一条詫一札 案紙共 本人市郎兵衛、請人惣十・龜吉 組頭・百姓代・五人組頭中宛 文化二年八月

二通 一四三

林改

林改牒 与頭八左衛門 安永六年八月

横長美 一冊 一三七

加判帳

(田畑売買加判帳) 断簡 享和元年九月―文化元年九月

横長美 一冊 一四〇

田畑売買加判帳 小川組組頭清八・平八 文化一二年一〇月―文政五年二月

横長美 一冊 一四二

(田畑売買加判帳) 文政五年三月―天保六年一二月

横長美 一冊 一四三

田畑売買加判帳 小川組組頭扣 天保七年一二月―同一三年七月

横長美 一冊 一四三

地租改正

地券調方御伺書 朱筆指令済

半 一冊 一四八

諸県ヨリ相窺候廉々租税寮御指令書拔 地券掛 三月一〇日

半 一冊 一四九

年貢

小川分

戊之小川本年貢書留 (寛文一〇年カ)

一通 一五三

①未歳御成箇割付状 小川村金十郎 小川村組頭・五人組・惣百姓中宛 延宝七年一二月一三日

一通 一五六

小川村未御年貢金請取状 (人別割付金錢調印書) 延宝七年一二月一五日

一通 一五〇

小川金十郎分未御年貢割付状 延宝七年一二月一五日

一通 一五九

未御年貢金請取書(取替分カ) 金十郎 小川村三郎左衛門宛 延宝七年二月二〇日	一通 三六九	当午之割付御年貢金請取状 金十郎 小川組惣百姓中宛 正徳四年二月	一通 三六九
①小川村子之御成箇免割状 小川村惣百姓立合調印 貞享元年二月二三日	一通 26 三五	当未之割付御年貢金請取状 金十郎 小川組惣百姓中宛 正徳五年二月	一通 三六〇
小川郷申御年貢割付状 惣百姓立合調印 (元禄五年カ)	一通 三五四	当子之割付御年貢金請取状 金十郎 小川組惣百姓中宛 享保五年二月	一通 三六三
当已御割付御年貢金請取状 金十郎 小川組頭衆中宛 元禄一四年二月	一通 三五四	丑御年貢かり直段ニ而請取帳 小川組 享保六年二月一五日	一冊 三六一
当午御割付御年貢金請取状 小川組頭・百姓中宛 元禄一五年二月	一通 三六六	刁ノ御年貢かり直段請取 小川組 享保七年二月九日	一冊 三六三
元禄十六年御免享(御取箇享)	一通 三六七	当寅之割付御年貢金請取状 金十郎 小川組惣百姓中宛 享保七年二月	一通 三六四
小川村未御成ケ割付帳 (尾欠) 組頭番市十郎 元禄一六年二月	一冊 三六八	当卯之割付御年貢金請取状 金十郎 小川組惣百姓中宛 享保八年二月	一通 三六五
申御年貢割付帳 小川村組頭番左五右衛門 宝永元年二月	一冊 三六一	去卯御年貢金請取状 金十郎 小川組惣百姓中宛 享保九年二月	一通 三六六
申之割付御年貢金請取状下書 宝永元年二月	一通 三六三	当辰之割付御年貢金請取状 金十郎 小川組惣百姓中宛 享保九年二月	一通 三六七
酉御年貢割付帳 小川組頭松兵衛 宝永二年一月	一冊 三六三	①未之御年貢割付帳 乘本村小河組組頭八左衛門 享保一二年二月	一冊 26 三六
丑御年貢割付帳 小川分 宝永六年二月	一冊 三六四	①小川組当申割付之御年貢金請取状 名主金十郎 惣百姓中宛 享保一三年二月	一通 35 六五
当丑之割付御年貢金請取状 金十郎 小川組頭・惣百姓中宛 宝永六年二月一日	一通 三六五	御年貢割帳 乘本村之内小川組 組頭茂左衛門 享保一三年二月	一冊 三六六
寅御年貢割付帳 小川組頭茂左衛門 宝永七年二月	一冊 三六六	酉之御年貢飯直段請取帳 乘本村内小川組組頭八左衛門 享保一四年二月	一冊 三六九
当卯之割付御年貢金請取状 金十郎 小川組頭・惣百姓中宛 正徳元年二月二〇日	一通 三六七	酉之御年貢割付帳 乘本村之内小川組組頭八左衛門 享保一四年二月	一冊 三七〇
午御年貢割付帳 小川組頭茂左衛門 正徳四年一月 (尾欠)	一冊 三六八		



①当西御年貢金皆済状 名主金十郎 小川組組頭・惣百姓中宛 享保一四年十二月	一通 三五九	卯ノ御年貢割付帳 <small>（元文三年巳ノ八月本直段割付之旨注書有り）</small> 当番組頭八左衛門 享保二〇年	横長半	一冊 三七七
①戌御年貢初納金組別割付書 付、御年貢納日限殿守之旨御代官触廻状写添廻状 名主金十郎 九月二三日（享保一五年）	一通 三五七	辰御年貢仮直段取立帳 小川組 元文元年十二月	横長半	一冊 三七六
①小川組当戌御年貢金皆済状 名主金十郎 組頭・惣百姓中宛 享保一五年十二月	一通 三五七	巳御年貢割付帳 元文二年十二月	横長半	一冊 三七九
御年貢仮直段取立帳 小川組組頭八左衛門 享保一六年十二月	一冊 一三七	午御年貢割付帳 小川組組頭茂左衛門 元文三年十二月	横長半	一冊 三六〇
①小川組亥御年貢金皆済状 名主金十郎 小川組組頭・惣百姓中宛 享保一六年十二月	一通 三五五	午御年貢取立帳 小川組組頭茂左衛門 元文三年十二月	横長半	一冊 三六一
成年田方御年貢返り割当帳 乗本村之内小河組組頭茂左衛門 享保一七年三月八日	一冊 一三七	午御年貢本直段勘定差引帳 午年番茂左衛門 元文三年二月同四年九月	横長半	一冊 三六三
亥御年貢引方割当覚 乗本村之内小川組 享保一七年二月二〇日	一冊 一三七	去午御年貢米方返り割当帳 小河組 元文四年四月	横長半	一冊 三六三
①小川組当子御年貢金皆済状 名主金十郎 惣百姓中宛 享保一七年十二月	一通 三五六	戌御年貢大積リニ而取立帳 組頭茂左衛門 寛保二年十二月	横長半	一冊 三六四
丑御年貢請取帳 小川組組頭菅沼八左衛門 享保一八年一〇月一同一月	一冊 一三七	丑御年貢割付状 小川組分 明和六年十一月	横長半	一通 一三五
寅御年貢割付帳 小川組組頭茂左衛門 享保一九年年十二月	一冊 一三五	寅御年貢割付状 小川組分 明和七年十一月	横長半	一通 一三六
①当丑御年貢金請取状 乗本村名主金十郎 小川組組頭・惣百姓中宛 享保一八年十二月	一通 三五三	寅御年貢割附取立帳 付、当田方引割返帳 乗本村小川組 明和七年十二月	横長半	二冊 一三七
寅御年貢仮直段取立帳 小川組組頭茂左衛門 享保一九年十二月	一冊 一三五	卯御年貢割附状 小川組分 明和八年十二月	横長半	一通 一三八
①当寅御年貢割付状 庄屋金十郎 小川惣百姓中宛 享保一九年十二月	一通 三五四	辰御年貢割付状 付、御年貢金・夫錢算用書付并伊勢秋葉代参入用割付書 小川組分 明和九年十二月	横長半	三通 一三九
①小川組当卯御年貢割付状 庄屋金十郎 小川惣百姓中宛 享保二〇年十二月	一通 三五四	辰御年貢割附取立帳 乗本村小川組組頭八左衛門 安永元年	横長半	一冊 一三〇
		巳御年貢割付状 小川組分 安永二年十二月	横長半	一通 一三一
		安永二已御年貢割附取立帳 小川組組頭八左衛門	横長美大	一冊 一三三

未御年貢請取通 庄屋重左衛門 小川組組頭・百姓 中宛 安永四年一月	一通 三九三
未御年貢割付狀 付、石代直段書付 小川組分 安永四年十二月	二通 三九四
安永四未御年貢割付帳 三州八名郡乗本村小川組 組頭為屋八左衛門 横長美大	一冊 三九五
申御年貢請取通 庄屋重左衛門 小川組組頭・百姓 中宛 安永五年一月	一通 三九六
小川分丑ノ御成箇割付狀(斷箇)	一通 一四〇六
小川組分丑御年貢割付狀案紙	一通 一四〇七
小川組分寅御年貢割付狀案紙	一通 一四〇八
小川組分巳御年貢割付狀案紙	一通 一四〇九
①小川組分午御年貢割付狀案紙	一通 三三六
①小川組分未御年貢割付狀案紙	一通 三三七
小川組分御年貢割付狀案紙(首欠)	一通 一四一〇
○	
午御年貢割付 平四郎分	一通 一四二三
午御年貢割付 弥右衛門後家分	一通 一四二三
午御年貢割付 徳兵衛分	一通 一四二四
午割付算用覚 午一二月二日 付、十一月廿六日付十左衛門庄屋高引米之儀 引合書	三通 一四二一
乗本村	
酉御年貢割附帳 乗本村庄屋重左衛門 安永六年 一月	一冊 三三七
赤峯御年貢取立帳 乗本村庄屋重左衛門 安永六 年一月	一冊 三三六
赤峯御年貢本取之覚	横長半 一冊 一四六
天明式寅御年貢割附取立帳 大草太郎左衛門支配 所三川国八名郡乗本村庄屋・組頭・百姓代立会 天 明二年十一月二十四日 横長美大	一冊 三九九
①天明三卯御年貢割付取立帳 大草太郎左衛門支配 所三川国八名郡乗本村庄屋・組頭・百姓代 天明三 年十一月二日 横長半	一冊 二六
安永六四年迄御取下并本免入仕分帳 八名郡乗本 文化元子年迄御取下并本免入仕分帳 八名郡乗本 村 赤坂役所宛 文化二年十二月 半	一冊 一四〇
文政七年申御年貢割付狀写 三河国八名郡乗本村	一通 一四一
①此度荒地并取下場御見分ニ付増米御請書下書 八名郡乗本村 卯六月(天保一四年)	一通 三六
①林畑成取下分御聞濟願書下書〔此度荒地起返御吟 味ニ付〕三州八名郡乗本村百姓代喜平次、組頭政右 衛門・宇兵衛、名主正兵衛 代官山上藤一郎赤坂役 所宛 天保一四年七月	三通 三六〇
戌水損田畑御取箇割渡帳 三河国八名郡乗本七郷 名主正兵衛 嘉永三年十二月 横長半	一冊 一四三
当亥御年貢取立下帳 乗本村名主耕兵衛 文久三 年十二月八日 横長半	一冊 一四三
当丑御年貢取立下帳 乗本村名主喜右衛門・耕兵 衛 慶応元年十一月九日 横長半	一冊 一四四
当卯御年貢取立下帳 乗本村名主耕兵衛 慶応三 年十二月 横長半	一冊 一四五
未御年貢割付狀写 乗本村名主・組頭・惣百姓宛 明治四年一〇月 半	一冊 一四七

助郷

①高掛リ三役書上 第十四大区八名郡小一区乗本村戸長菅沼八左衛門 井関愛知県権令宛 (明治六年カ)

一通 28二六(三)

願書

定免年季明ニ付跡請増米之儀願書 八名郡乗本村庄屋・組頭・百姓代連印 岩松直右衛門役所宛 明和九年二月

一通 一四八

当午年田方違作ニ付御定免金納直段所相場ニ被仰付度願書下書 三州八名郡乗本村庄屋・組頭・百姓代 役所宛

一通 一四九

夫錢・村入用

夫錢割

夫錢割日記 小川村組分 組頭八左衛門 享保一〇年正月一二月

横長半

一冊 一四〇

未之年夫錢割帳 小川組頭八左衛門 享保一二年一二月

横長半

一冊 一四二

丑之年夫錢割集日記并村入用弘方差引日記 小川村組八左衛門 享保一八年六月一九月

横長半

一冊 一四三

申ノ年夫錢割付帳 小川組組頭茂左衛門・八左衛門 元文五年一二月

横長半

一冊 一四三

①七月極月四日迄之諸雜用金小川組分高割廻状写 重郎左衛門 午一二月四日

横長美

一通 35二七四

五月十日鈴木丹波様御通之節人馬賃錢算用之覚 一二月二九日

横長半

一通 一四五

①東海道新居宿附屬助郷村々之内八名・設楽兩郡村々惣代難波願書 安部富之丞知行三州八名郡塩沢村・島原村 菅沼直七郎知行同郡下吉田・上吉田村・竹輪村 松平加賀右衛門元知行設楽郡有海村・一色丹後守知行同郡長篠村 御料同郡横山村・滝川村 八名郡乗本村・吉川村・多利野村名主・組頭・百姓代 大河内刑部大輔役所宛 明治元年一二月

美

一冊 27二五

①遠州浜松宿江助郷御指村ニ相成言上留帳 長篠村役人扣 万延二年二月六日

美

一冊 27二三

①東海道浜松宿代助郷村々御請書写 長篠村扣道中奉行宛 文久元年一〇月

美

一冊 27二三

①新居宿附屬八名郡島原村人馬繼立減シ方歟願書写 百姓代清五郎・組頭赤藏・名主慶治郎 足助役所宛 明治三年三月

一通 一四五

村入用

①三劾八名郡乗本村申正月迄村小入用帳 乗本村惣百姓連印 岩松直右衛門役所宛 同役所奥書証印 安永六年正月

横長半

一冊 24二四

①三州八名郡乗本村西正月迄十二月迄村小入用帳 乗本村惣百姓連印 岩松直右衛門役所宛 同役所奥書証印 安永七年正月

横長半

一冊 24二五

天明式寅正月迄十二月迄村小入用帳 (反故) 天明三年正月

横長美

一冊 一四四

来巳春役御普請入用帳 天保三年九月

横長美

一冊 一四五

桑名勘定諸入用美濃屋弥七仕出帳之写 天保一〇年四月

横長半

一冊 一四六

貯石御見分諸入用書出し 小川為屋八左衛門・為屋出店ほか 村役人中宛 慶応二年八月二一日―二三日 四通 二七四

丑年御年貢諸入用帳 横長半 飯一冊 一四七

①小川分返り御年貢諸役金之内村入用分差引覧 一通 三五三

○ 川路村八右衛門・幸吉金子借用証文 有海村伊兵衛請印 乘本村小川組組頭・百姓中宛 明和九年九月 一通 一四三

借用金之控覧帳 栗衣組 嘉永七年正月 半 一冊 一四三

拝借金

金↓「菅沼正兵衛家」六九頁 拝借金銘々差引下帳 乘本村名主耕兵衛控 安政二年 横長半 一冊 二九五

御手限御貸附金拝借証文 八名郡乘本村拝借人耕兵衛・正兵衛他、百姓代・組頭・名主・郡中惣代赤坂宿清太夫連署 赤坂役所宛 安政五年 半 一冊 二九六

林産業

業↓「山林証文」三九―四四頁・「菅沼正兵衛家」六八―六九頁 ①吉田川通東西両縁其外村々材木白木類売人性名録 耕兵衛扣 嘉永七年七月 横長半 一冊 三一六

①東川筋小川組材木師白木師并下地其他問屋性名帳 源六・七兵衛 乘本組元人惣代乘本耕兵衛・大野茂左衛門・井代孫太郎・川合庄之助宛 耕兵衛扣 嘉永七年七月 横長半 一冊 三一六

海老村権兵衛託入一札「農間稼白木商」付不束一件」同村親類藤助加印 山の講連中宛 慶応四年四月 一通 三七

①第十四大区八名郡小一区乘本村新束数大積取調書上 戸長菅沼八左衛門 副区長宛 明治六年三月 一通 二八二

○ 吉五郎・庄七入山金受取覧 宇連村役人 大川村庄兵衛宛 二三四

水運

①長篠村彦右衛門差出一札「向後鶴飼通船之障二相成候材木管流之儀仕間敷旨」証人文六郎・五人組徳兵衛・組頭平左衛門加印、庄屋半左衛門奥印 乘本村・長篠村名主中宛 安永二年七月 一通 二七〇

①乘本・長篠兩村役乗連印手形「今般役乗仲間立会頭分相定規定申合付」兩村役乗頭藤助・同断孫兵衛以下五一名連印 乘本・長篠村名主・組頭衆中宛 安永四年正月 一通 二八

乘本・長篠兩村役乗連印手形下書（首欠）長篠・乘本兩村名主・組頭中宛 安永四年正月 一通 一四六

①役場御運上御吟味口書并絵図扣 三州八名郡乘本村庄屋正作・組頭八左衛門・百姓代久兵衛 岩松直右衛門二川役所宛 安永七年五月 一通 二八

①吉田川通東川筋筏手形主印鑑改ニ付御届書 乘本村名主耕兵衛 東上番所宛 安政二年一〇月 一通 二五

①第十四大区八名郡小一区乘本村鶴飼船・川船数取調書上 戸長菅沼八左衛門 井関愛知県権令宛 明治六年三月 一通 二八

①八名郡乘本村御役場迄諸木川下シ向寄之村々書付 一通 三五三

用水

①養父用水井堰絵図

貯穀・夫食

夫食御拝借取立帳 茂左衛門 元文三年二月九日 横長半 一冊 一四七

乗本村貯穀米仕替買継一件年賦詰替願書〔新穀買付約定先近藤登之助様蔵出滞ニ付〕庄屋正蔵・長兵衛・善六・幸右衛門・八左衛門 役所宛 文化元年五月 一通 一四六

赤坂田穀代金仕訳扣 八名郡乗本村庄屋正蔵 文政二年九月 半 一冊 一四六

村方貯穀明細帳 三州 小川菅沼八左衛門定年 文政四年二月一日 同一年 横長半 一冊 一四〇

飢人救助之為別冊出穀之儀御届書下書 八名郡乗本村百姓代久兵衛・組頭友右衛門・名主正蔵 赤坂役所宛 弘化二年八月 二通 一四二

頼母子講

七村掛合頼母子仕様帳 弘化二年一月 半 一冊 三六

鉄炮証文

三州八名郡乗本村鉄炮証文帳 名主正兵衛・同喜右衛門・組頭八左衛門他九名連署 赤坂役所宛 嘉永四年正月 一冊 一四六

社 寺

氏 神

\*安永九年庚子八月四日氏神御遷宮諸事扣

天明元丑極月村方兩禰宜為取替証文 庄屋正作・彦三郎・次郎八・幸右衛門・助右衛門・六左衛門・安兵衛・百姓代四郎五郎 禰宜七郎左衛門宛 一通 一四七

神職料取極之覚 庄屋正作・彦三郎・次郎八・幸右衛門・助左衛門・六左衛門 脇禰宜九右衛門宛 天明元年十二月 一通 一四三

寺 院

蔵平組蔵泉寺修覆金預リ証文 蔵平組五人組頭五名・与頭三名連印 乗本七組庄屋・組頭衆中宛 天明二年十二月 一通 三六

長篠村役人惣代詫一札〔医王寺後住出願之際檀中惣代調印不調法之段内済ニ付〕長篠村庄屋半蔵・組頭惣代金左衛門・磯右衛門連印 乗本村役中宛 嘉永二年十一月 一通 七

設楽郡下田村御師吉大夫故障申立一件済口詫書 受取ニ付差出一札 御師平野治部大夫 小川村菅沼庄兵衛宛 七月二五日 一通 一四六

## 三河国八名郡乗本村菅沼家文書目録解題

文書の伝来と現存状況

乗本村の沿革と菅沼家の小川村定住の経緯

乗本村の概要

支配の変遷 前期の乗本村 新田検地と村高の推移 中期の持高構成と住民

菅沼家について

菅沼家の回漕業 菅沼家の土地集積と経営内容 幕末・明治期の菅沼家

菅沼家文書の分類と配列

### 文書の伝来と現存状況

本目録に収録した「三河国八名郡乗本村菅沼家文書」は、家伝によれば、戦国期に西三河の国人衆として武士団を形成した菅沼氏（土岐支流）の一族で、長篠城主であった長篠菅沼氏の末裔で、天正元年（一五七三）に長篠から移住し、五代定正の正保元年（一六四四）に、従来吉田（現豊橋市）から土合（現新城市内）までであった豊川の舟運を乗本村まで溯行開発し、回漕業を営むことによって同地域の発展に貢献したことで知られる旧家に伝来した文書・記録類である。当館への同家文書の収蔵は昭和三二年度に名古屋市内の古書店を通して行なわれ、文書記号32Eとして、総点数一六七九点が架蔵されている。

この他、菅沼家文書は現在、豊橋市美術博物館（豊橋市今橋町三）に約五〇〇点（故近藤恒次のコレクション橋良文庫の一部）と、愛知大学総合郷土史研究所（豊橋市町畑町）に七八点が収蔵されている。今回、本目録の印行に当って昨五八年三月、両機関のご許可を得、その一部をマイクロ・フィルムに収録し、A5版に紙焼して製本し、本目録に収載した。予算と撮影上の制約から美術博物館所蔵分は二八〇点、愛知大学所蔵分は一二点の収録に止まり、当館所蔵史料の欠を完全に補い得たわけではないが、前期の乗本村の動静に関する史料や、鵜飼船による豊川舟運関係の史料など、菅沼家文書の構成に不可欠な貴重な史料を多く含んでおり、当館所蔵史料分と共に利用者の閲覧に供し得る便宜を得たことは、両機関のご理解・ご協力の賜物と深謝申し上げる。

なお、今回本目録印行のことを聞及ばれた本文書原蔵家のご当主菅沼恵一郎氏（鳳来町乗本長筋38・39合併地）から、今年正月にお手許に残されていた「正作木場仕上帳」ほか三点のご寄贈を頂いたので、文書記号58A、史料番号二〇〇一―二〇〇四として本目録に収載した。ご高志のほど厚く御礼を申し上げる次第である。

### 乗本村の沿革と菅沼家の小川村定住の経緯

（以下、引用史料のうち、史料館所蔵分は「」を付した史料番号のみを記し、豊橋市美術博物館所蔵分には「美博本〔F〇〇〕」とフィルム史料番号を示してある。）

菅沼家の居村である乗本村は、愛知県の東端、静岡県境に接した八名郡（町村合併の進行により昭和三十一年消滅、現在南設楽郡鳳来町乗本）の山間部にあり、豊橋市内で三河湾に注ぐ豊川（旧吉田川）が、上流で寒狭川（北設楽郡設楽町の寒狭山に発する本谷川を最上流とする）と、鳳来町の北部山地から発する宇連川（一名三輪川）とが合流する牛ヶ淵の左岸に位置し、右岸の旧設楽郡長篠村（現鳳来町長篠）と対峙する。

この宇連川左岸の山間地帯には、数条の支流とともに狭い平坦部がつくられ、そこに古くから集落が形成されたとみられる。江戸時代の乗本村は菅沼家が居所とした小川のほか、乗本（本郷）・蔵平・大平・久間・市川・栗衣くりぎぬの七組から構成されていた。もっとも近世初頭には栗

衣を欠き、小川は宇川（鵜川）・市川は卒川と呼ばれ、六組はそれぞれ村を称しつつ、行政上乗本村として纏められていた。集落形成の時期などは詳らかでない。『八名郡誌』は、三河国建置の際の七郷（和名類聚抄）のうちの服部郷を、のちの乗本・大野・山吉田周辺の地域に擬しているが、断定は困難である。その後鎌倉期前後に宇利庄・小野田庄の存在が知られ、郡司としては大伴氏の系譜をひく伴氏一族が勢力を張っていたとされる。戦国期になると各地に土豪が現われて小規模ながら武士団を結成し始めたという。就中、長篠の菅沼氏・作手の奥平氏・田峰の菅沼氏が山家三方と呼ばれる国人衆に成長してきたが、同地方は南からの今川氏、西からの松平・織田氏、北方からの武田氏などの勢力の接点となって争奪がくり返されたから、彼らはそれらの圧力の下に次々と従属を替え、家の保持に努めなければならなかった。

菅沼家の先祖が拠ったとされる長篠城は、永正五年（一五〇八）今川氏親の部将菅沼元成が築き、五代がここに拠ったとあるから、当時は今川氏の被官であったとみられる。永禄三年（一五六〇）桶狭間の戦で今川義元が敗死すると、長篠城は徳川（松平）氏に従ったが、元亀二年（一五七二）離反して武田氏に服したため、天正元年（一五七三）七月、家康は長篠を攻め、同九月落城、家康の部将松平景忠が城番となつたという。菅沼氏の同族で野田菅沼の系統をひき、のち三河国新城の領主となつた旗本菅沼家（七千石）の「家譜」（新城市教育委員会編『新城市誌資料Ⅹ』）には、天正元年の家康による長篠城攻略の模様を次のように伝えている。

一三州長篠城菅沼新九郎正貞代々居処也、信玄逝去事世上有其沙汰依之勝頼為要害室賀入道小泉等為加勢被籠

一天正元年七月廿日家康公催軍兵攻長篠城以火矢射之故城中焼亡城兵亦太拒之家康公引軍久間中山築附城酒井左衛門尉忠次松平上野介庸忠菅沼新八郎定盈籠置

当時の長篠城主は新九郎正貞とあり、七月二〇日の攻撃で城中焼亡とあるが、城兵の抵抗も強く、家康は一旦軍勢をひき、久間に城を築き酒井忠次等を居らしめたという。この久間を乗本七郷のうちの久間とすれば、長篠城をめぐる攻防の渦中に乗本村も捲き込まれていたことになる。

乗本村菅沼家の初代三郎左衛門定昌は、この長篠城主新九郎正貞の従兄弟に当ると伝えられ、長篠落城の年、宇川の庄官矢頭七郎兵衛の招きによって同地に卜居し、矢頭氏の江戸移住後「乗本村七村大名主」を勤めたという（「菅沼系図」<sup>美博本</sup>〔F一〕・「小川邑菅沼家記」<sup>同上</sup>〔F二〕）。



初代定昌は元和二年（一六一六）に没し、矢頭七郎兵衛の娘を妻とした嫡子七郎左衛門定常が家を嗣いだ、定常は長女に信州座光寺浪人福田嘉平次（常好）なる者を迎えて掣養子とし、別家をたててこれに名主職を譲った。これが金十郎家と呼ばれる名主家の創始である。定常はまた末子定政にも別家させて乗本六郷の氏神八王子大権現諏訪大明神若宮八幡宮を司る神主家と定めている。これらは菅沼家が移住地で早急の間に勢力を定着させていった経過を窺わせるものである（後掲「菅沼家系図」参照）。

## 乗本村の概要

### 支配の変遷

菅沼家が移住した当時の乗本村は、武田氏の勢力を排除した家康の所領に帰したものとされるが、天正一八年（一五九〇）徳川氏の関東移封後は池田氏の吉田藩領に属し、慶長五年（一六〇〇）池田氏の播州姫路移封によって再び徳川氏領、同八年開府後は幕府領となって幕末に及んだとされている。第1表は、恐らく乗本村に残された年貢免状に拠って整理されたと思われる菅沼家の七代定好と、一〇代定基の筆になる記録によって、慶長一六年以降の代官名と代官役所の変遷を示したものである（ただし、表中寛永一二―天和二年を典拠では「鈴木八右衛門」とだけあって同一人のようにみえるが、それぞれの没年によって隆次・重政・重次の三代の名を補ってある。また例えば万治四年の喜八郎訴状（美博本〔F一三六〕）の宛書人である伊奈弥左衛門の名がないように、欠落があることも予想される）。一瞥して代官の交替とともに所轄の代官所もかなり頻繁に移動していることが目につくが、安永九年（一七八〇）以降は遠州中泉代官所の出張陣屋となった三州赤坂役所に代官所元々・手代が派遣されて、管轄下の農村に対する行政を担当したと思われる。

### 前期の乗本村

乗本六郷における初期検地の時期は明らかではない。元禄一六年（一七〇三）七月の「乗本村指出帳」（美博本〔F九九〕）の記述の中に

一水帳

七冊

第1表 支配代官と代官所所在地の変遷

年次	代官名	役所所在地	出張陣屋 (同地詰元・手代)
慶長16～	彦坂九兵衛光正	三河国宝飯郡東上村	
元和5～	曾根源藏吉次	〃	
元和7～	中川勘助三清	〃	
?	安藤弥兵衛次吉	〃	
?	松平清左衛門親正	〃	
寛永12～	鈴木八右衛門隆次	三河国宝飯郡牛久保	
寛永13～	鈴木八右衛門隆政	〃	
承応1～天和2	鈴木八右衛門重政	〃	
天和3～貞享4	国領半兵衛重次	三河国宝飯郡赤坂	
貞享4～	野田三郎左衛門秀成	〃	
元禄5～	太田弥太夫重長	〃	
元禄11～	長谷川藤兵衛勝峯	遠江国山名郡袋井	
元禄16～	平岡重左衛門	〃	
宝永2～	守屋助治部	駿河国有渡郡府中	
宝永3～	能勢権兵衛	〃	
宝永6～	鈴木三郎兵衛正守	〃	
宝永7～	鈴木小右衛門正興	〃	
正徳4～	小林又左衛門正府	〃	
享保6～	岩室伊右衛門正次	三河国宝飯郡赤坂	
享保7～	小林又左衛門正府	駿河国有渡郡府中	
享保12～	会田伊右衛門資刑	〃	
享保14～	山田治右衛門邦政	〃	
享保19～	永井孫次郎尚伯	〃	
寛保2～	天野助次郎正景	三河国宝飯郡赤坂	
寛延2～	大草太郎左衛門政美	遠江国豊田郡中泉	
宝暦7～	岩出伊右衛門信之	三河国宝飯郡赤坂	
明和1～	真野惣十郎勝照	〃	
明和7～	岩松直右衛門純睦	〃	
(安永5)	?	駿河国志太郡島田	三河国渥美郡二川宿陣屋 出来
安永9	大草太郎左衛門政董	遠江国豊田郡中泉	三河国赤坂(内藤為藏)
寛政1～	山田茂左衛門至意	〃	〃(田代忠兵衛)
寛政3～	辻甚太郎守貞	〃	〃(御普請役格田郷藤藏)
寛政11～	野田松三郎政晟	遠江国豊田郡中泉	三河国赤坂
寛政12～	小野田三郎右衛門	〃	〃(小原東作)
文化1～	松下内匠	〃	〃(富永啓右衛門)
文化12～	伊奈玄蕃	〃	〃(若木純右衛門)
文政4～	羽倉外記	〃	〃
文政6～	竹垣庄藏	〃	〃(元ノ浅井門兵衛他)
文政11～	平岡彦兵衛	〃	〃(元ノ小林権六他)
天保1～	平岡清三郎	〃	〃(元ノ赤羽八郎兵衛他)
天保10～	小笠原信助	〃	〃(元ノ坂従志賀助他)
〃14～	山上藤一郎	〃	〃(元ノ山口須藏他)
嘉永1～	岡崎兼三郎	〃	〃(元ノ浅井豊助他)
安政2～	林伊太郎	〃	〃(元ノ佐藤丈助)
安政6～	今川要助	〃	〃
万延1～	川上猪太郎	〃	〃
文久3～	桜井久之助	〃	〃
元治1～	田上寛藏	〃	〃
慶応3～	大竹庫三郎	〃	〃

享保16年「万覚之日記」〔史料番号1〕天明4年「永代諸色覚」〔同2〕によったが正確度には若干疑問がある。なお  
天保10年以後は「南設楽郡誌」により補筆

是ハ名主金十郎方前々預り置申候

内

老冊 是ハ三十四年以前寛文拾戌年鈴木八右衛門様御地詰本高百五拾壹石九斗貳升六合御水帳

とみえ、寛文一〇年（一六七〇）に代官鈴木重政による本田畑の地詰が行なわれたことが知られるが、地詰の対象となった古検の年次の記載がないのである。この寛文一〇年の地詰帳は「本田畑帳」の名で、現在鳳来町乗本小川区会所に保管されている「旧乗本村文書」の中に現存する（菅沼家文書「一四三〇」はその写本）。その奥書に竿入人の近藤与左衛門・青木勘兵衛両名の署名捺印で

右は乗本六ヶ村先年々村ニ有之本帳反畝歩相違之所有之、御年貢納所仕候処不同有之由、百姓方々断ニ付今度我等共立合、本帳を以相改帳面如此ニ候、自今以後此帳面之通ニ名寄可被致者也、如件

とあって、「本帳」における名請当時と現状とに懸隔を生じたために、村民からの申告によって地詰が行なわれたとある。

さて、この地詰の際に対比された「本帳」と認められるものも「旧乗本村文書」中に現存するのであるが、年記も検地役人の署名も欠けている。記載の体裁は卒川・久間・乗本・小川・蔵平・大平の順に、田方・畠方・屋敷別に分ち、一筆ごとに字名、上中下の等級・畝歩および名請人の記載があるのみで、高・畝歩の集計がない。この「本帳」の記載を名請人別に整理し、仮りに寛文一〇年地詰の際の石盛で持高を集計してみたのが第2表である（人名の配列は持高順）。

この仮計算によって得られる村高一四九石九七八は、寛文一〇年地詰帳の石高一五一石と殆んど一致し、誤差は集計上生じたもの（畝歩以下の面積が十進法でないため、石高換算の際の端数切捨てなど）とみてよいから、寛文の地詰は土地の丈量や石盛の変更を伴わない、人別所持分の修正に止まったものであったと推測される。

問題は無年次の「本帳」の成立年代であるが、菅沼家文書中に次のような慶長一〇年霜月の年記のある「鶴川村高付」（美博本、〔F二三一〕）がある（〔口絵〕参照）。

一高拾三石叁合

賀平次

第2表 乗本村本田畑帳（本帳）による初期の持地構成（六郷村高合計 149石978）

乗 本 分	上 田 (筆数)	中 田 (同左)	下 田 (同左)	上 畑 (同左)	中 畑 (同左)	下 畑 (同左)	屋 敷 (同左)	持 高
1 九 郎 太 夫	畝 1- 0(1)	畝	畝	畝 47-15(11)	畝	畝 0-25(1)	畝 5- 0(1)	石 6.839(14)
2 太 郎 五 郎	11- 0(2)			31-20(9)	3-05(2)		5- 0(1)	6.456(14)
3 右衛門四郎	3-20(3)			27-05(8)	8-25(3)	0-15(1)		5.061(15)
4 五 平			0-20(1)	11-20(4)	9-25(4)	6-20(7)		3.994(16)
5 与 九 郎			1- 0(2)	28-20(6)	1-10(2)			3.973(10)
6 彦 太 郎	1-20(1)			22- 0(9)			6- 0(1)	3.633(11)
7 右衛門三郎	1-10(1)			21-20(9)		1-25(1)		3.168(11)
8 ぜ も ん (久間)	3-15(3)			15-10(7)	1-20(1)			2.666(11)
9 右衛門次郎			0-20(1)	18-25(9)				2.519(10)
10 右衛門五郎		1- 0(1)		9-20(4)	3-20(1)	1-25(1)		1.945(7)
11 九 郎 次 郎				11-15(4)	0-10(1)	0-10(1)		1.560(6)
12 存 賀	1-20(1)				12- 0(2)			1.553(3)
13 衛 門 三 郎		1- 0(1)		5- 0(1)			5- 0(1)	1.220(3)
14 衛 門 次 郎		0-20(1)		6- 0(1)				0.620(2)
15 衛 門 四 郎							6- 0(1)	0.540(1)
16 多 い け ん					4- 0(2)			0.440(2)
17 源 六 郎				2-25(1)				0.372(1)
18 松 若				3- 0(1)				0.390(1)
19 右 衛 門 作				2-25(1)				0.368(1)
20 左衛門四郎				1-10(1)				0.173(1)
21 左衛門五郎					1- 0(1)			0.110(1)
計	23-25(12)	2-20(3)	2-10(4)	266-20(86)	45-25(19)	12- 0(12)	27- 0(15)	48.189(141)

## 卒 川 分

1 又 八 郎	16-20(4)	2-10(2)					4- 0(1)	3.134(7)
2 七 郎 三 郎	17-20(5)	1- 0(1)	1-05(2)					2.707(8)
3 又 七 郎	11-10(7)	3-20(3)					4- 0(1)	2.546(11)
4 太 郎 次 郎	8-25(4)	3-20(2)					4- 0(1)	2.196(7)
5 作 ノ 四 郎	5-10(3)	5- 0(3)	1-25(3)				4- 0(1)	2.049(10)
6 左衛門三郎		1-05(2)	5-10(5)				5- 0(1)	1.318(8)
7 次 郎 三 郎	7- 0(2)	1-15(2)						1.160(4)
8 又 四 郎	5- 0(3)	2-20(1)	0-15(1)					1.071(5)
9 作 ノ 三 郎	5-10(2)		0-10(1)					0.779(3)
10 右衛門四郎	4-20(2)							0.654(2)
11 右 門 次 郎			0-10(2)				4- 0(1)	0.553(3)
12 坊 主	0-25(1)	1- 0(1)						0.236(2)
13 作 ノ 次 郎	1- 0(1)	0-20(1)						0.221(2)
14 右衛門次郎	0-10(1)		1-20(3)					0.213(4)
15 道 西	0-25(1)		0-10(1)					0.149(2)
16 右 門 四 郎	1- 0(1)							0.140(1)
17 祐 甫			1-10(1)					0.133(1)
18 惣 寄 合				77- 0(1)				10.010(2)
計	85-25(37)	22-20(18)	12-25(19)	77-0 (1)			25- 0(6)	29.800(82)

## 小 川 分

1 喜 八 郎	敵 8-10(1)	敵	敵	敵 34-10(1)	敵 12-20(3)	敵	敵 7- 0(1)	石 7.936(15)
2 七郎左衛門	4-20(1)			4-05(2)	9- 0(2)	20-13(5)	5- 0(1)	4.677(11)
3 宗 次 郎		2- 0(1)		1-10(1)	1- 0(1)	15- 0(3)	6- 0(1)	2.664(7)
4 彦 八 郎				16-20(3)	0-25(1)	3-10(2)		2.562(6)
5 ゼ も ん				17- 0(1)				2.210(1)
6(蔵平)九郎兵衛	14- 0(1)							1.960(1)
7 竜 泉 庵				8-10(4)		4- 0(1)		1.443(5)
8 彦 次 郎	2- 0(1)			5- 0(1)		1-20(1)		1.081(3)
9 次郎左衛門						11- 0(1)		0.990(1)
10 入 道				6-20(1)				0.871(1)
11 彦 兵 衛				2-20(1)	3- 0(2)			0.681(3)
12 彦 十 郎					3- 0(1)	2-20(1)		0.570(2)
13 彦 九 郎						5- 0(1)		0.450(1)
14 又 八 郎					3-15(1)			0.385(1)
15(蔵平)次郎五郎	1- 0(1)				1- 0(1)			0.140(1)
16 忠 兵 衛			0-15(1)					0.110(1)
17(蔵平)九郎三郎			0-15(1)					0.050(1)
計	30- 0(5)	2- 0(1)	0-15(1)	96-05(24)	34- 0(12)	63-03(15)	18- 0(3)	28.729(62)

## 久 間 分

1 左衛門次郎				33-10(4)	8-05(4)	1- 0(1)	6-20(1)	6.188(10)
2 左衛門太郎			0-10(1)	21-05(6)	13- 0(3)		8- 0(1)	5.255(11)
3 四 郎 次 郎				5-20(1)	16-25(3)	5-20(4)	6- 0(1)	3.880(9)
4 右衛門次郎				7- 0(1)	3-25(4)	4-05(4)	6- 0(1)	2.486(10)
5 左衛門五郎	1-25(1)							0.257(1)
6 三 太 郎			0-20(1)					0.066(1)
計	1-25(1)		1- 0(2)	67-05(2)	41-25(14)	10-25(9)	26-20(4)	18.154(42)

## 蔵 平 分

1 九 郎 三 郎	3- 0(2)	0-25(1)	0-25(1)	27-10(7)	1- 0(2)		4- 0(1)	4.785(14)
2 九 郎 兵 衛	2- 0(1)	0-20(1)	2- 0(3)	21-05(6)	4-05(3)		6- 0(1)	4.551(15)
3 次 郎 五 郎	2-10(2)			20-20(5)	3- 0(1)			3.343(8)
4 九 郎 次 郎	0-15(1)			22-20(4)	2-05(2)			3.255(7)
5 五 郎 次 郎	6- 0(1)		0-20(1)					0.907(2)
計	13-25(7)	1-15(1)	3-15(5)	91-25(22)	10-10(8)		10- 0(2)	16.842(46)

## 大 平 分

1 五 郎 兵 衛	2-05(2)		2- 0(1)	11- 0(1)			3- 0(1)	2.324(5)
2 与 太 郎	12-05(4)		1-10(2)			4- 0(1)		2.197(7)
3 太 郎 作	6- 0(2)		0-10(1)		5- 0(1)			1.423(4)
4 太 郎 四 郎	8-25(3)							1.236(3)
5 小 ぞ う	5-05(2)							0.724(2)
6 藤 七 郎				2- 0(1)				0.260(1)
7 権 四 郎			1- 0(1)					0.100(1)
計	34-10(13)		4-20(5)	13- 0(2)	5- 0(1)	4- 0(1)	3- 0(1)	8.264(23)

一高四石九斗五升八合六勺 七郎左衛門

一高三石貳斗七升壹合 彦二郎

一高貳石九斗三升三合五勺 太郎四郎

一高三石貳斗 与八郎

惣合貳拾七石三斗六升四合一勺

田畑屋敷共ニ

慶長拾年巳ノ霜月吉日

鶺鴒村

右の史料は差出書を欠いているが、鶺鴒(宇)川村に対して村高と人別内訳とを書き下した文書である。<sup>注</sup>

注、『新城市誌』によれば開府後の三河幕領の総検地は慶長八―九年にかけて行なわれ、八名郡下の検地は林伝右衛門が管掌したとされており、現存する林伝右衛門による検地帳は慶長九年の鳥原・塩沢・下宇利・黒田村の四カ村分が紹介されている。(同書一四二―一五頁)。従って菅沼家に伝存する「慶長拾年鶺鴒村高付」は史料裏付はないが、乗本村にも実施された前年の検地の結果を伝えるものと推測されるわけであるが、断定には若干の疑問が存する。すなわち元禄一年以後一色氏領となる以前、乗本村と同一代官所支配であった隣村の長篠村の元禄一五年明細帳(美博本、F101)には、同村の本田検地を彦坂九兵衛による慶長一七、八年頃と書上げている。

これによってみると、当時の鶺鴒(小川)の名請人は僅か五人で、最高の高をもつ賀平次は上記の菅沼定常の輦養子嘉(賀)平次であり、次の七郎左衛門は隠居分家後の定常であって、菅沼両家と他三軒の名請人で構成された小聚落に過ぎなかったことが知られる。

注、定久の代に作成されたと思われる「菅沼系図」(美博本、F1)には、定常のあとを嗣いだ定房を以って「当家元祖也」と注している。また万治元年五代喜八郎常正が名主金十郎を相手取った訴状を後年書写した定久の後書にも「元祖彈正右衛門定俊・三郎左衛門定昌・七郎左衛門定常三代は当組菅沼一流之先祖也」とあって、定常までを小川組菅沼家一統の先祖と位置づけている。

一方、第2表で示した通り、無年記の「本帳」における小川分の名請人数は出作人を除いて一四人で、そのうち慶長一〇年の「高付」と共通に現われるのは七郎左衛門と彦次郎の二名だけである。この七郎左衛門は定常以後、神職家の世襲名前となったから、定常のほかに定常の

末子定政の可能性も考えられる。しかし定政が七郎左衛門と改名する前の通称彦十郎の名前が別にみえるから、やはり定常と考えた方が妥当かと思われる。そして慶長一〇年の「高付」で最大の持高をもつ定常の簀養子嘉平次の名はない。「本帳」で持高が最高の喜八郎が或いは嘉平次の次代金十郎の前名かとも思われるが確証はない。いずれにしても名請人に異同が多過ぎ、仮りに検地の際の名請登録法が異なったとしても、慶長一〇年から相当の時間の経過を推測すべきであろうと思われる。因みに後年の史料であるが、享保一四年（一七二九）の「御仕置五人組帳」<sup>〔美博本、F九三〕</sup>に、人名の肩書に草切百姓と他地からの移住民の区別が記しており、移住民の最古は一〇四年前、すなわち寛永初年のこととしている（後述参照）。これらのことから「本帳」の成立は、定常の没年である元和八年に近い元和末年と推定すべきであろう。

#### 新田検地と村高の推移

寛文一〇年に実施された地詰のほか、新開分については、寛永一八年（一六四一）から貞享四年（一六八七）の間に五回の検地が実施されている（第3表A・B）。石高からみると寛永一八・慶安元・寛文九年の打出高は僅かで、地詰と併行して実施された寛文一〇年に本高にほぼ匹敵する打出高があり、「卯改新田畑」と呼ばれる貞享四年の新検によって村高は倍増し、本新田畑の合計は五六〇石余となっている。もっとも五次にわたる新開分の高請は下畑（次いで下田）に大半が集中している。このことは石盛が本新分共に同一となっていることを考慮すべきかも知れないが、かなり劣悪な土地までも高請が強行されたことが窺われる。そして最終的な本新分合計反別の比率は田方二八・七%、畑方七一・三%と水田化率は低く、山間部農村の特色が如実に表われている。なお「本帳」には高請のなかった「栗衣」が、寛永一八年の新田帳（小川区会所保管、旧乗本村文書）に、下畑四畝一六歩・中畑三畝二二歩・下田三步の計八畝一〇歩（八筆分）、名請人五名として現われ、以後乗本村は七郷（七組）となる。

#### 中期の持高構成と住民

貞享四年を最後とする新検の結果、五六〇石余となった乗本村の持高構成を享保一四年の「御仕置五人組帳」によって整理したのが第4表である。菅沼家の二一石六合を筆頭に（名主金十郎家は一二石七八八）、一〇石以上が三戸で、それを含めた五石以上は全体の九%、最も多いのが一石未満の七三戸、次いで一石台の六二戸で両者を合せて五八%を占めているが、地借は僅か五戸で戸数の合計は二三三戸となってい

第3表A 乗本村本新田畑高反別（文政5年3月）  
〔「乗本村御検地年号高反別書上帳」〔1324〕より〕

	田 方		畑 方		田 畑 合 計		反別比率	
	反 別	石 高	反 別	石 高	反 別	石 高	田方	畑方
(1)寛文10戊10月(本)*	畝 歩 243-10	石 32.498	畝 歩 952-18	石 117.502	畝 歩 1195-28	石 150.000	20.3	79.7
(2)寛永18巳11月(新)	10-18	1.200	76-03	7.177	86-21	8.377	12.2	87.8
(3)慶安1子11月(新)	0-23	0.077	56-10	5.070	57-03	5.147	1.4	98.6
(4)寛文9酉7月(新)	216-11	23.293	137-05	12.487	353-16	35.780	61.2	38.8
(5)寛文10戌10月(新)	588-21	58.870	918-17	82.754	1507-08	141.624	39.1	60.9
(6)貞享4卯8月(新)	345-23	35.725	2025-15	182.335	2371-08	218.060	14.6	85.4
新 田 畑 (2)～(6) 合 計	1162-06	119.165	3213-20	289.823	4375-26	408.988	26.6	73.4
本 新 田 畑 (1)～(6) 合 計	1405-16	151.663	4166-08	407.325	5571-24	558.988	25.2	74.8
貞享2年8月本畑の内田成分	193-23	26.301	-193-23	-24.375	± 0	+1.926		
総 計	1599-09	177.964	** (3572-15) 3972-15	382.950	5571-24	560.914	28.7	71.3

\* 地詰  
\*\* ( )内の数字は原史料、誤記と思われる

第3表B 乗本村本新田畑等級別構成（文政5年3月）

代 官 名	竿 入 人 名	( % ) 畝 歩	田方等級別畝歩 上段 ( ) は %			畑方等級別畝歩		
			上 * (十四)	中 (十二)	下 (十)	上 (十三)	中 (十一)	下 (九)
(1)鈴木八右衛門	近藤与左衛門（地詰） 青木勘兵衛	(99.9) 畝 1195-28	(15.8) 畝 189-11	(2.4) 畝 28-25	(2.1) 畝 25-04	(60.7) 畝 725-26	(11.4) 畝 136-24	(7.5) 畝 89-28
(2) "	須田太兵衛 石原六左衛門	(100.0) 86-21		(8.1) 7-0	(4.2) 3-18		(18.9) 16-12	(68.8) 59-21
(3) "	山田次郎左衛門・林弥平次 羽田野次郎右衛門	(100.0) 57-03			(1.4) 0-23			(98.6) 56-10
(4) "	清井勘兵衛 白井助右衛門	(100.0) 353-16		(23.4) 82-25	(37.8) 133-16		(2.0) 7-03	(36.8) 130-02
(5) "	近藤与左衛門・青木勘兵衛 近藤儀右衛門 青木十郎兵衛	(100.0) 1507-08			(39.0) 588.21		(0.3) 4-04	(60.7) 914-13
(6)国領半兵衛	向坂次五右衛門 片岡丈右衛門	(100.0) 2371-08		(2.4) 57-12	(12.2) 288-11		(0.1) 2-00	(85.3) 2023-15
"	畑方田成	(99.9) 193-23	(84.3) 163-10	(10.4) 20-07	(5.2) 10-06	-163-10	-20-07	-10-06
(文政5年3月現在合計)		(99.9) 5571-24	(6.3) 352-21	(3.0) 166-02	(18.9) 1050-09	(10.2) 562-16	(2.6) 146-06	(58.9) 3263-23

\* ( ) 内の漢数字は石盛（「乗本村御検地年号高反別書上帳」〔1324〕より）



第4表 乗本村の持高構成  
(享保14年現在)

持 高	戸 数
21石余	1
19 "	1
12 "	1
8 "	2
7 "	1
6 "	8
5 "	7
4 "	12
3 "	26
2 "	34
1 "	62
1石未満	73
小 計	228
地 借	5
合 計	233

注 居村百姓の持高合計は531石  
569で、他に

石	7.113
寺々持高	10.858
奉公人	11.374
高野村へ入作	

る。元和末年と推測される「本帳」の名請人が六組で七三戸であった(第2表)のを思い起すと、その増加が耕地の拡張と並行したものであったかどうかは疑問であるが、戸数の増加は著しい。前にも触れたように「五人組帳」の記載によって各戸の由緒を集計したのが第5表である。原典は分家分を総て草切百姓として扱っているから、戸数の増加の主体は分家の創出によるものであったことが知られる。また他地からの移住のうち、寛永初年の一九戸には上記の栗衣集

落の形成に拘わるものを含むと解される。なお、草切地借・譜代は隸属農民の自立を示すものである。

第5表

草切百姓	戸 205
草切地借	4
103, 104年前(寛永3~4)	19
71年前(明暦3)	1
53年前(延宝3)	1
46年前(天和2)	1
16年前(宝永2) 譜代より	1
76年前地借(承応1)	1
計	233

享保14年「御仕置五人組帳」(美博本(F93)より)

年の春夏流行の疫病のためと説明があり、寛政元年現在「拾七ヶ年以前巳年分差引家数三十四軒、百姓貳百十一人減、川稼百姓百卅八人増」(傍点引用者)と記している。ただしこの川舟筏渡世の人数は「増減差引除」と注されており、その定住性は疑わしいが、少くとも零細農民が多数存在する乗本村の再生産に、豊川舟運が大きく拘わっていたことだけは看取できると思われる。

なお、村高五六〇石となった乗本村七組の組別石高の内訳は、耕地・宅地の売買による「高拔差」によって流動的であった模様であるが、

階層分化が進行し、零細農民が過半を占める乗本村七組の当時の人口は、後年の寛政元年(一七八九)の「安永二巳が拾七ヶ年分家数人別メ帳」(美博本、「寛政元酉迄拾七ヶ年分家数人別メ帳」(F109)中に、「五七拾年以前享保元文之年中之頃迄は千三百人余御座候」と概括的な数字が挙げられている(元禄一六年「指出」「美博本、」(F99)には戸数二四六軒、内本百姓二四四軒、水呑二軒、人数一二二七人、男六三七・女五九〇人)のみであるが、試みに該「人別メ帳」に示された安永二年から寛政元年の数字を表示すると第6表となる。享保・元文頃と比較すると安永二年は三〇〇人程の減少を来しており、特に翌三年の減少は前

第6表 安永天明期の乗本村戸数・人口

年次	家数	人数	内川船筏渡世人数
安永 2	251	1,005	100
3	212	835	82
4	210	832	88
5	212	851	108
6	212	855	112
7	214	858	116
8	216	888	148
9	216	896	161
10	215	893	165
天明 2	214	890	167
3	219	910	190
4	217	922	205
5	221	918	201
6	221	925	209
7	219	954	238
8	216	945	239
寛政 1	216	932	248

「安永2已方寛政元西迄17カ年分家数人別ノ帳」(美博本 F 109) より

第7表 乗本村の組別石高  
(安永6年現在)

	石
小川組	129.242
乗本組	112.019
久間組	19.461
市川組	104.649
大平組	31.272
栗衣組	73.857
蔵平組	74.510
赤峰	15.904
計	560.914

安永6年「西御年貢割附帳」(1397)より

安永六年現在の状態を示すと第7表の通りである(七組の他にみえる赤峰は恐らく高野村入作分と思われるが、組の所属などは不明)。菅沼家が開発した河岸場の存する小川組が、本郷分の乗本組を上わ廻っているのが注目される(菅沼家の持高は安永四年現在、五八石八斗九升一合)。

ところで、極めて僅少な石高ながらも相互に離れた地に集落を形成し、それぞれ村を称していた七組から成る行政村落乗本村の運営の在り方はどのようなものであったろうか。年次未詳ではあるが幕末のものと思われる小川・市川両組の小前惣代・村役人から出された願書下書(美博本、**[F二三九]**に次のような一節がある。

(前略) 乗本村之儀、村高五百六拾石余之内七組ニ相別れ、乗本組小川組ニ当時名主百姓代兩人宛有之、其余組限組頭銘々相立置、御用向井示談之節は小川組名主宅え一同参会仕来候儀にて、市川組高百三石余、小川組高百拾石余往古御百姓相統罷在候所、両組共追々及困窮、別て去ル申年凶作後は(欠損)手余荒地出来之分、村惣作又は全弁納も有之、歎ケ敷次第ニ付起返し之儀も年々種々心懸仕候得

共、一鉢地味不宜土地にて起返し場所は別て諸作共実法悪敷候ニ付作付永続不仕、且亦乗本村之儀、組ニ寄一村之内道法寺里余も懸隔、殊ニ極山中之儀、山林秣場空地出候て手広之村方にて公私用談会合之儀、組々え前日相触候ても漸翌日昼頃ならてハ相揃不申、右故聊之用談も品ニ寄一兩日も相懸リ、其上年内臨時用向多ク、既ニ去酉年之儀は社地争論旁にて一ヶ年之内名主所え五拾度も会合仕、其余組内用談夥敷、自然と失費相懸リ農事手後ニ相成、且は年内諸雜費等相嵩候仕義ニ付、村役人も実ニ相勤リ兼、纔兩三年位にて進退仕候義故、万端行届不申候、村入用相嵩難義仕、右之次第にて作間之稼出来不仕、荒地起返し等も為仕度奉存候得共、平生之諸用向にて手後ニ相成不行届、自然と弁納多分にて借財相増、一同十方ニ暮種々勘考仕候処、一鉢一村之内七組ニ相分リ万端聊之相談ニも組々役人多人数故、却て評決手間取日数相懸リ候ニ□以村入用諸雜費も多御座候ニ付、一村之内ニは御座候へ共、申合其外不依何事外組え不相拘、私共兩組限にて取計、全外組ニ相成候へ、年内度々之会合等之愁も無之、村入用も自然と相減、且は作間稼も出来、荒地起返し等も為仕、追々村柄元形ニ立直リ候様仕度奉存候間、私共兩組は組別れニ奉願上度、願之通り御聞濟被下候様偏奉願上候、一鉢乗本村之儀往古は七村ニ相立、御廻状等都て七村にて順達仕、小川組は鶉川村、市川組は卒川村と申、字菅沼山半渡吉川村ノ地内ヲ通り黄柳村え繼立、倉平組字大久保と申候大の村え繼送り候趣申伝にて、往古之道筋も顯然と相分リ居（下略）

陳述内容に重複が多くて聊か煩わしいが、乗本村の村役人は乗本・小川の兩組に名主・百姓代の両役がそれぞれ配され、他五組には組頭を置き、諸事談合の際には小川組の名主宅へ参集する仕来りであるという。小川組が乗本七組の触元の地位を占めることは、江戸初期以来の慣例であつたが、これは菅沼家の「家記」が初代定昌を「大名主」と伝えているように、有力な同家の居住地であつたことと無関係ではないと思われる。小川組名主は村宛に下附される年貢割付を各組別にした独自の年貢割付状や皆済状を組々に交付したことが菅沼家文書によって知られる。

この願書では乗本村の各組が、組によつては道法一里も隔つた山間部に散在しているため、会合に際どり、耕作や作間稼ぎにも差支えて荒地の起返もままならず、弁納が多く、諸雜費が嵩み村役人を長期に務めることは困難であることを理由に、小川・市川兩組の他五組からの分離を訴えている。

それぞれに立地条件の異なる山間部に散在して、各自に共有林の所有を初めとする纏まりをもつ七組を一村とした行政村としての乗本村の運営には困難が多かったことを窺わせる。

明治以後の乗本村の行政区劃の変遷について触れておくと、大区小区制の採られた明治初年には一四大区一小区に属し、明治三二年町村制の施行時に周辺の多くの村々が合併した中で、乗本村は従前通り存続したが、明治三九年七月日吉村（明治九年旧塩沢・鳥原村が合併、同二二年一〇月旧吉川村も併合）と合併して舟着村となった。戦後の昭和三〇年四月舟着村は本郷・千郷・八名村の三カ村と共に一旦旧新城町と対等合併し、新城町となったが、翌三一年九月新城町の境界変更により、旧舟着村のうち乗本地区は南設楽郡鳳来町に編入され、現在に至っている。

なお、乗本村の概括的な説明として、幕末の様相を伝える明治二年九月「村差出明細帳」（美博本、〔F100〕）の全文を以下に掲げておく。

一 高五百六拾石九斗七升四合

八名郡乗本村

内 田高百七拾八石三斗貳升四合  
畑高三百八拾貳石五斗九升

一 御水帳

七冊

内 古水帳 壹冊  
新水帳 六冊

一 小物成鑑貳百五拾七文

綿 役

是は先年真綿出来仕候由ニ付年々御免状ニ御載被遊上納仕来候、尤只今ニ而は一切綿出来不仕候

一 小物成鑑五貫文

船貳拾五艘役

是は八名設楽両并遠州筋（マヤ）の出候荷物当村が新城・吉田・前芝迄船積運送仕候ニ付往古が上納仕候

一同 鑑貳貫五百文

新規船拾艘御運上

是は元治二丑年奉願上、則同年が当已迄五ヶ年季ニ而稼被仰付上納仕候

一同 鑑五百文

鉄炮五挺役

是は猪鹿防ため年々証文奉差上、上納仕候

一同 永百六拾貳文

水車御運上

稼人八左衛門  
正兵衛

是は水車貳ヶ所右兩人ニ而相稼上納仕、季明ニ付当已の寅迄拾ヶ年季ニ跡請奉願上候

一同 永百八拾五文

質屋御冥加

稼人八左衛門

是は去子の午迄七ヶ年季ニ而上納仕候

一同 永貳貫文

椎葺造御運上

稼人耕兵衛

是は八名郡細川村黄柳村設楽郡川合村横山村御林四ヶ所反別合三千九百九拾九町四反五畝拾五歩之処、雑木之内しでの木之分伐採椎葺造、去寅の午迄五ヶ年季ニ年々上納仕候

一御年貢之儀山辺之薄地悪米ニ付前々金納仕候得共、天保度田方之分米納ニ被仰付候儀も御座候

一当村御定免去丑年の当巳年迄五ヶ年季ニ而明午年御切替年ニ御座候

一御年貢銀御直段金壹両ニ付五拾四匁代ニ而金納仕候

一小物成鐳金壹両ニ付四貫文代ニ而金納ニ仕候

一御年貢未進仕候儀無御座候

一御入用御普請井堰貳ヶ所

谷下沢通り字大井  
長沢通り字大井

是は元文五申季の御入用御普請所ニ被仰付候、貳ヶ所共長九間高サ三間之石積ニ堰立申候

一百姓自普請井堰 百拾ヶ所

是は山々谷々の流出候小沢ニ而百姓自普請井堰ニ仕候

一井林

六拾三ヶ所

是は雑木堅木小立ニ而御座候、年々春秋猪鹿防垣候并百姓自普請井堰杭木敷木柴垣等ニ仕候

一入曾秣山

沓ヶ所

是は貞享度国領半兵衛様御代官所之節、隣村設楽郡長篠村と山論ニ相成、為草代米沓石三斗宛年々長篠ヲ請取之、柴草入会ニ刈取申候、右代米之儀ハ当村板橋修覆等之入用ニ仕候様被仰付候場所ニ御座候

一板橋沓ヶ所

長拾沓間  
横九尺

是は前件長篠村ヲ請取候草代米を以修覆掛替等仕候、尤掛替無間も洪水ニ而押流候節は御入用御材木被下置候儀も御座候

一名主給永五貫文

是は先規ル兩人ニ而相勤高掛ニ仕、沓人ニ永貳貫五百文ツヽニ相当申候

一美和川水源は設楽郡川合村御林ル流出、八名設楽兩郡境を流れ通り申候、川幅貳拾間程之石荒川ニ御座候、船渡歩行渡シニ而通用仕候、右川設楽郡段戸山ル流出候岩代川と当村地先字渡合と申所ニ而落合、夫ル豊川と相唱、流末ハ宝飯郡前芝ニ而海ニ落合候、川上ル当村迄五里余、川下え拾貳里程御座候

一八名郡黄柳村御林ル流出候川筋幅平均拾間程御座候間、平日歩行渡リ仕、当村地内三拾町程流レ通り美和川え落合申候、川上当村迄三里余御座候

一谷下沢八名郡竹輪村山境ル流出、当村地内廿町余流れ通り美和川と落合申候、御入用御普請所并堰此川筋ニ御座候

一長沢と申候沢当村地内ル拾町余流通リ、豊川え落合申候、御入用御普請所沓ヶ所御座候

一御筏場

是は美和川通り当村地先ニ御座候、往古ル江戸兩御丸御普請之節、奥村々御林ル御伐出ニ相成候、諸御材木此所迄管流ニ相成、同所ニ而桴ニ組立、当村之もの并隣村長篠村・有海村之ものニ而吉田・前芝え乗下ケ、夫ル御船廻しニ相成候場所ニ而御印も頂戴仕罷在候、尤売人共諸材木も同様当村ニ而桴ニ組立百姓余業ニ右三ヶ村之ものニ而川下え乗下ケ申候、手形主喜三郎と申者御分一御番所有之候節は同人ル手形差上申来候

一 川魚獵無御座候

一 堤川除一切無御座候

一作間稼、男は桴乗蒔菰繩亦是杣木挽等仕、女は布木綿山荷物駄賃稼仕候

一 当村の外え薪楮茶等少々宛売出申候、其余売物無御座候

一 田畑水損旱損之場所数多御座候

一 小作之儀本田苞反ニ付當時米六斗位、其外新田ニ至リ候而は加地子附段々高下御座候、卯新田之儀は別而猪鹿強く荒し小作付不申候

一 小作之儀本田苞反ニ付當時金三分金苞兩位、新畑は場所ニ寄加地子附段々高下御座候、卯新畑之儀小作付不申候

一 田地質入之儀、本田苞反ニ付當時金四兩より五兩位、新田は場所寄段々質入高下御座候

一 畑地質入之儀本田苞反ニ付當時金貳兩貳分より三兩位、新畑は場所寄段々質入高下御座候

一 本田苞反ニ付粃八升程蒔付申候、苞反ニ付米苞石貳斗位取申候

一 新田苞反ニ付粃八升程蒔付申候、苞反ニ付米八斗位取申候

一 卯新田畑之儀は山辺ニ付猪鹿多く喰荒し防兼、過半雜木草生立ニ相成、生地分も取入定リ不申候

一 一本畑苞反ニ付麦苞斗程蒔付申候、苞反ニ付麦苞石五斗位取申候

一 新畑苞反ニ付麦苞斗程蒔付申候、苞反ニ付麦苞石位取申候

一 当村の赤坂宿江八里余

一 当村の御油宿江七里半余

一 当村の隣郷 長篠村江八町余  
大野村江壹里余  
山吉田村江壹里半  
塩沢村江壹里半

一 御朱印地除地有之候社寺無御座候

一 氏神宮

三ヶ所

一小宮 拾ヶ所

一御年貢地小寺式ヶ寺 藏泉寺 德藏寺

是は設楽郡長篠村禪宗医王寺末寺ニ御座候

一辻堂 「本郷久間市川 大平 七ヶ所」  
栗衣藏平小川

一庵室 「小川字長筋番地 菅沼八左衛門ノ所持地共有家」 七ヶ所（注「」の記事は後筆書入カ）

一家数合百九拾貳軒

一人数合千拾九人内男五百三拾六人  
女四百八拾三人

外ニ僧貳人

一女馬三拾疋

一分郷無御座候

一山伏座頭無御座候

一高老石三斗六升四合 山吉田村入作  
大野村

一当村之儀は都而極山谷之間ニ有之、御田地村高五百六拾石九升老斗四合、此筆数五千九百八拾筆程之小畝歩ニ而百姓七ヶ所ニ引別れ住

居仕、日夜猪鹿防仕候山中薄地之村方ニ御座候

右は当村諸色先規々當時迄在来之分書面之通奉書上候処相違無御座候、以上

明治二巳年九月

三河国八名郡乗本村

百姓代 喜右衛門

与頭 重平



同 断 喜 平 次  
名 主 宗 平  
同 断 耕 兵 衛

赤坂

御役所

## 菅沼家について

### 菅沼家の回漕業

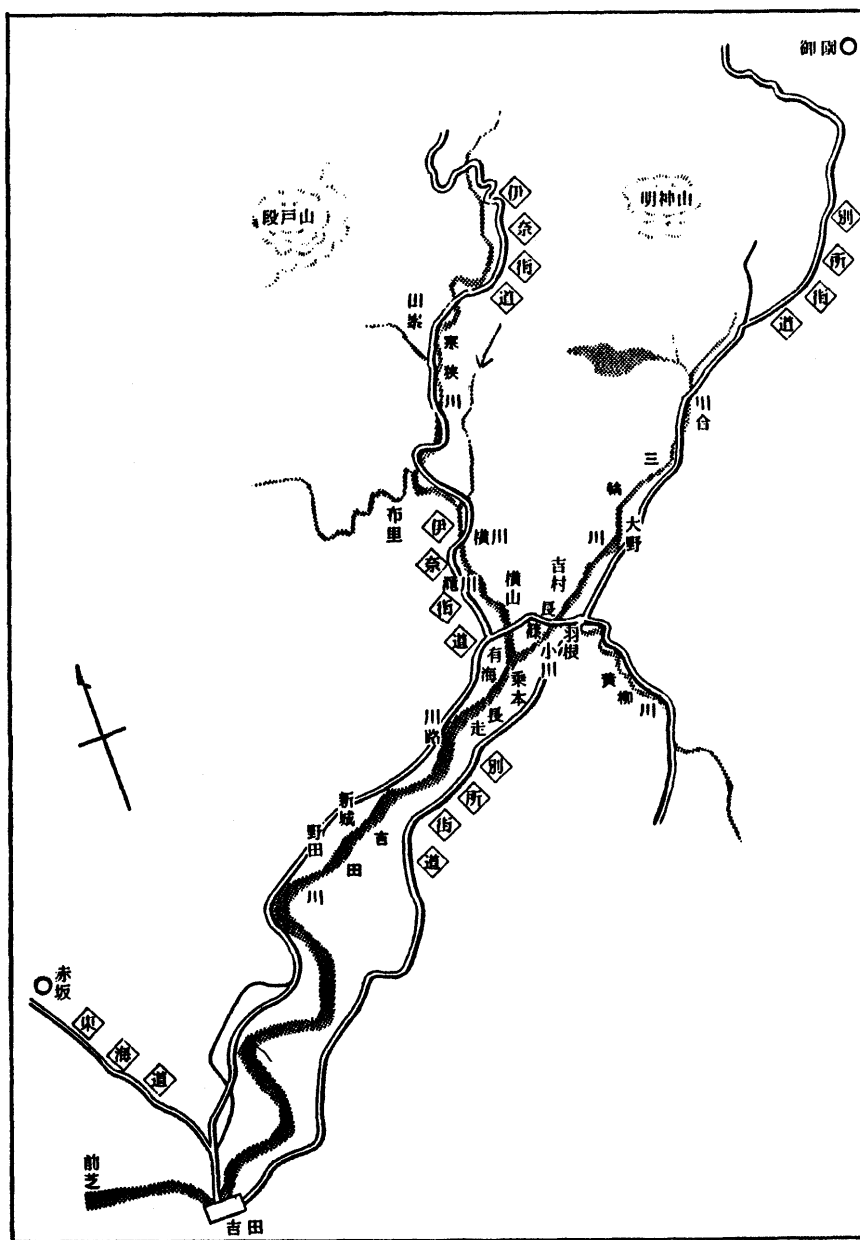
既述の通り、菅沼家は二代定常が長女に信州座光寺の浪人福田嘉平次を配して庄屋役を譲り、二男定房に家を嗣がせたが、定房に男子がなかったため、長女の夫であった八名郡大野村の新村治右衛門の男子を夫婦養子に迎えて相続させた。四代彦七郎定宗がこれである。「家記」は定宗の妻に「此仁賢女也と云」と注記している。定宗が正保二年六月に没したあと、家を嗣いで五代となった長子喜八郎定正（寛永三年生、のち三郎左衛門）は「家記」に

卅貳歳明暦三年酉春当家普請、定正ノ時代当村本新田畑御検地有、然所定正丈夫発明、依子孫ノため宜し、此時普代長作と云もの有、忠臣ノもの也

と注記されているように、菅沼家にとって中興の祖ともいべき人物である。菅沼家の家業となった舟運業を創始したのも、この定正であった。この点について後年、九代定久の記した「安永五申秋永代覚」（一二八四）の冒頭に

為屋八左衛門荷物請払会所之事

一正保元申年祖祖父喜八郎定正拾九歳之年開発被致、家居并荷蔵造立被致、手船ニ而新城吉田え荷物運送渡世被致（下略）



菅沼貴一『吉田川回漕史』より

とみえ、荷物請払のための会所屋敷と倉庫を建設し、物資集散の拠点として回漕業を開始した年を正保元年（一六四四）としている（因みに一〇代定基が安永五年秋羽根河岸に建立した「妙経三千部塔」の碑文によれば、菅沼家の屋号「為屋」は定正の晩年の命名によるという）。

定正が一九歳の時開発したという河岸場は概ね伊奈街道を交差しながら流れる寒狭川と、別所街道沿いに流れる三輪川が合流する牛ヶ淵から三輪川を三キロ遡った、黄柳川の流入する上み手左岸の羽根と称する地点であった（付図参照）。菅沼貴一氏の『吉田川回漕史』によると、定正はまず牛ヶ淵に河岸をもつ船主らの賛同を得、ついで美濃から船大工を招きよせ、在来の川舟に比べて小型で狭長な新型船（鵜飼船）一〇艘を造らせたという（典拠未詳）。すなわち従来川船の遡行できなかった牛ヶ淵上流の溪流を、船幅が狭く、かつ船首と船尾がほぼ同型で、舳櫓と艫櫓とを使って船を回転させることなく進退できる新型舟を導入したのである。同書によれば、当時の船主は定正はじめ七名で、菅沼家が三艘、一族の名主金十郎が二艘、他の五名が各一艘を所有したという。彼ら船持による舟仲間の結成は創始から約三〇年を経た

第8表 乗本村船名代内訳

持	船	延享3年現在			寛延3年 船数
		船数	内先年	新名代	
金	郎	3艘	2艘	1艘	4艘
平	郎	1.5	1	0.5	2
茂	衛門	1.5	1	0.5	2
弥	郎	1.5	1	0.5	2
次	七	1.5	1	0.5	2
四郎	衛門	1.5	1	0.5	2
(菅沼)					
八	衛門	4.5	3	1.5	6
計		15.0	10	5.0	20

史料 延享3年3月「新古名代拾五艘船仲間相談取極証文」（美博本F141）、寛延3年3月「鵜飼船持相談一札」（美博本F143）より

延宝三年頃とみられる。それ以前は大野・山吉田など奥筋の村から付出される小駄木などの荷物の積違い事故などが多く、舟や荷物置場の妨害など、船持間の出入も少なくなかったことが、残存の史料から窺われる。「延宝九酉年村方船持願ニ付村方通船不残無高下輪番ニ荷物船積被致」（「安永五申秋永代寛」とあるのは、このような荷物の争奪・競争の排除・防止を意図しての船仲間協定であったかと思われる）。

以後、乗本村の鵜飼船による回漕業の展開は、船数の増加に示されており、延享三年（一七四六）三月に在来の一〇艘では滞貨を来すとの理由で、新規に舟名代五艘の増加を代官所に願出て認可されている。増加の船持別内訳は第8表の通りであるが、右の数字については「右之通新古名代都合拾五艘、尤半艘宛名代は向寄々ニ而中間舟ニ取立、或は片付老人持ニ致候へ、半艘名代金三分宛年々出之申答ニ相極申候」とあり、新規五艘は元来仲間舟の取立にあったと思われるが、このような舟名代の配分と現実の所有・

營業の在り方はどうなっていたのであろうか。四年後の寛延三年、更に五艘分の舟運上（役）を追加した際に船持仲間が申合わせた「連判一札」（美博本、「F一四三」）には、当時の鵜飼船増加の背景とその実態を次のように述べている。

一 当村鵜飼船之儀、七拾四年以前延宝五巳年鈴木八右衛門様御代官所之節御願申上、船拾艘打立、老艘ニ付御運上鑑式百文宛上納仕持来り、八名・設楽兩郡奥村々并ニ遠州在々村々出候荷物、吉田・前芝・新城え運送仕来り候所、近年奥村荷物出方多、殊ニ延享式丑年が新規ニ茶荷物前芝送りニ罷成候、古来が持来候拾艘ニては運送難成、延享三寅年御代官天野助次郎様え御願申上、船持仲間ニて五艘打立運送仕候所、去冬が信州御城主様方江戸御廻米出候附、新古拾五艘ニては積荷物遅滞致候附、舟持仲間立会相談仕、又候今度名代五艘御願申上、都合式拾艘ニ罷成候、先規之通老艘附御運上鑑式百文宛上納仕、舟持仲間中能、物每実躰ニ万端相談仕、羽根間屋方荷物之分ハ新古名代式拾艘ニて先番後ばん輪番ニ船積可仕候、運賃棹賃之儀、其節々諸色ニ順シ舟持相談之上相極可申候、若又名代式艘ニて船老艘持申候節も、はね舟積輪番之儀ハ名代え割当リ式艘前積セ可申候事、式拾艘之外余人は不及申舟持仲間ニても船造申間敷候

（下略）

八名・設楽兩郡の奥筋村々及び遠州方面から付出される荷物の増加の内容は、延享二年から前芝（豊川河口の湊）問屋との直接取引が始まったとみられる茶荷物に加え、信州からの領主米の江戸廻送があったことが挙げられているが、船仲間内部における船名代の持分の取極めは、必ずしも現実の持船数を反映するものではなく、荷物の船積みに際して採られた輪番制における持分率<sup>11</sup>營業權益の多寡を意味するものであったことが判る。

このように菅沼家は乗本村の最大の船持として舟仲間に加盟し、自分荷物の輸送を含めて賃積みの回漕業を営むのみならず、自營の羽根河岸に設けた荷物請払会所に身内の者を置いて問屋營業に当らせていた。すなわち元禄元年から享保二十一年までの四十九年間は定正の掣である大平組長左衛門・伝十郎父子、元文元年から宝暦四年六月までの二十一年間は六代定安の弟分小川組平八郎・甚八郎父子、宝暦四年から明和六年の一六六年間は七代定好の孫掣に当る栗衣組六左衛門が実際の経営に当たたとされるが、八代泰定早世のあと九代を嗣いだ弟定久の代に至って、次男定孝（慎吉）が明和六年から同人の没する安永五年までの八年間、問屋を任かされている。

ところで定久が次男をして問屋経営に当らせた明和六年から安永五年の間は、羽根河岸の大掛りな改修工事が行なわれた年でもあった。定久の羽根河岸に対する情熱は可成りのもので、起工に当って同人は次のような記事を書残している。

一 荷物請払会所之義、数代本家え附置、永代為屋下タ屋敷ニ可致趣、祖祖父喜八郎定正、祖父八左衛門定安、父八左衛門定好え数度被仰聞候由、予定久八歳之節兄喜八郎泰定え被仰聞候節同座ニて承之候、定久拾三歳之節内外諸商売相勤、本家為屋相統致候ニ付父定好度々被仰聞候は、荷物請払会所之義ハ子共大勢有之候共、堅ク配分不致、永代本家付可致段数度之仰渡有之ニ付、定久行年廿三歳之秋九月廿日之朝未明ニ屋敷廻リ致シ存附候は、此所石かけ致し地形平地ニ致シ居宅丈夫ニ造立致シ、荷蔵等板置候ハ、先祖方思召ニ相叶候筋ニ有之間、造立可致と申志願ニて存附候（中略）、子々孫々ニ至リ不如意之時節有之候ハ、所持之田畑預ケ、本宅住居拾ケ年程相休、荷物請払会所え引越渡世致候ハ、五人七人之渡世は可相成候事、田畑小作預作徳を以借金返済致候様心掛ケ被申候ハ、永ク無相違御百姓相統可相成事を先祖方被思召付被仰置候、厚思召を子々孫々ニ至迄難有被思、定正・定安・定好・定久四代堅相守候通、農業并商売無油断丹精至シ、御年貢諸役大切ニ相勤、永<sup>代</sup>祿相統致候事先祖祭り之第一ニ候間、片時も油断有間敷候事

明和六丑六月吉祥日

為屋八左衛門定久 五拾貳歳書之

子孫に対して、為屋経営の基盤が豊川舟運による問屋営業にあることを明示し、改修工事のことは三〇年来の宿願であったとしている。改修工事の完成は安永六年九月で、九年の歳月を要している。その間定久は安永四年隠居し、八左衛門を改め正作と称しているが、次男定孝が没した翌安永五年の八月に「荷物請払会所家名永代正作と家名相定、下代喜三郎・義平ニ支配申付候事」と記している。自らの名前を荷物請払会所に冠して通称したのであり、以後菅沼家では同所を「庄作木場」と呼んだ。

なお、この荷物請払会所は、貞享四年の新田検地によって新下畑一八歩の高請がなされていたが、安永八年七月代官岩松直右衛門の手代西村嘉吉の廻村による百姓居屋敷歩改が行なわれた際、菅沼家から次のような申告を行なっている（「安永五申秋永代覚」）。

荷物請払会所間敷相改書上候覚

貞享四卯御改入相山之内落合之上卯新下畑拾八歩之所、此度改

一卯新下畑壹反歩　八左衛門

但堅三拾間

木場屋敷

横　拾間

右は八名・設楽兩郡奥村々々出候山荷物請払船積仕候会所ニ御座候付、卯御棹拾八歩之場所ニ而ハ荷物請払不都合ニ御座候付、三年以来人足千五百人余リ相掛ケ、山引崩シ地形平地ニ仕、居宅荷藏造立申候付、此度御吟味ニ付相改候所壹反歩程御座候、御見分之上居屋敷歩ニ御直シ被為下候様、帳面并口書を以申上候ニ付、御改之上卯新下畑拾八歩之所壹反歩上畑之石盛壹石式斗代<sup>(三九)</sup>ニ被成、分米壹石三斗之積りを以御免合卯新畑七匁七分九厘ニ而當亥暮々御年貢上納致候様被仰付候、此取銀

拾匁壹分三厘

口錢三分

合銀拾四匁四分三厘<sup>(八八)</sup>

銀五拾四匁代

此代永百九拾三文壹分四厘

これによってみると、菅沼家の河岸場は屋敷地として高請されたように見受けられるが、後年の史料によると、營業稅扱いの年季請の役永上納が行なわれたものであり、年季切替に際して増永免除や年貢地への変更願の下書が見出される。

### 菅沼家の土地集積と経営内容

家運の隆盛に心血を注いだと思われる定久は寛政二年（一七九〇）七月に七三歳で没したが、同人の代に菅沼家の持高は急増している。第9表は現存の小川組の年貢割付（取立）帳から菅沼家分を抽出したものである。もちろんこの高は村内のみの数字であって、出作分を含まない。試みに安永五年の「仕上勘定帳」（一一一一）によってみると、同年の菅沼家が納入した年貢夫錢金額の総計は六一兩三分、九七文であ

第9表 菅沼家持高の推移

			石
宝	永	1	9.834
"	"	2	10.893
"	"	6	12.749
"	"	7	13.114
正	徳	4	13.597
享	保	12	16.987
"	"	13	21.006
"	"	14	22.359
"	"	19	31.227
元	文	2	33.071
"	"	3	34.636
明	和	7	56.684
安	永	1	58.419
"	"	4	58.891

年貢割付帳（取立帳）より

り、そのうち乗本村分が二八両三六七文、長篠村分二三両一分九一六文、残りは塩沢・浅畑・下平・岡田四ヵ村分であつて、長篠村においても当時相当規模の越石分を持つていたことが判る（後出第10表参照）。

なお、定久隠居後の天明五年（一七八五）一〇代定基は弟定系（正蔵）を分家させ、田畑一五石余と山林八ヵ所・通船二艘（名代共）を分与しており、以後の持高の推移は詳かでないが、明治六年頃の戸籍簿（『旧乗本村文書』）によれば、宅地・建物・土蔵・田畑・山林・扣家の合計は一二町五反歩（内、田畑三町七反余・山林八町二反余）と六五二坪六六、船一四艘・馬二匹と記載されており、幕末期の持高は約六一石余（明治六年「地券仕出帳」〔二三六〕より集計）となつてゐる（山林には無税地が多く含まれてゐる）。

このような土地集積がみられる菅沼家の経営内容について、定基の代となつた安永五年の「勘定仕上帳」（翌六年二月一日仕上）を紹介し、現存の菅沼家文書理解の参考としてみたい。

第10表にみられる通り、菅沼家の総勘定帳としての同帳は、前半部分に「申年金銀出入」として当年の収支勘定があり、後半部分に「申大晦日改」として、古金を含む現金、在庫商品や諸地への送荷分の売残りの代価および仕入のための前渡金を含むと思われる貸附金の集計を行ない、そのうちから預り分（負債）を差引いた期末の資産勘定（店卸）から成つてゐる。

まず、収支勘定からみると、収入の合計金額六六七両余のうち、最も多額なのは貸附金の利足三二九両一步余で、全体のほぼ半額を占めてゐる。そのうち一村単位では長篠村が一位を占め、その他の村々は近隣の他領大名・旗本の収納米担保の郷貸がみられる塩沢・島原村（半原藩安部氏）、山吉田村（海老菅沼氏）などのほか、「川登村々」とあるのは山荷物物の仕入と無関係ではなからうと思われる。

収入の項の最初に記された小作加地子以下の四項目は菅沼家の恒常的な基礎収入と意識されていたと思われるが、一六六両三步余と収入部門の二位を占める。そのうち農業収入としての小作金・手作茶・櫛代合計一二七両のほか、鵜飼船助成金四〇両は八艘分とあつて、別途勘定

第10表 安永五申年仕上勘定（菅沼八左衛門定基）（史料番号111）

## 申年収支

収	小 手 加 地 子	兩 歩	文		
	鵜 飼 船 助 成 金	107-3	267	米金銭共	
	楨 之 代	17-2	833	正味1,412 $\times$ 600	
	小 計	40-0		鵜飼船 8 艘分	
		1-1	1,000		
		166-3	776		
	竹 広 米 5 俵 代	1-3			
	茶 之 利	41-3	930	末年茶13,414本買高之利	
	米 之 利	30-0		末年高 771 俵	
	新 米 利	8-0			
	藍 玉 利	14-3	823	藍玉14,359枚買高	
	頼 母 子 取 金	2-0	300		
	吉 田 送 り 利	11-3	247		
	名 古 屋 送 り 利		553		
入	江 戸 送 り 利	2-1	357		
	所 々 送 り 利	4-3	806		
	材 木 柄 売 買 利	0-3	1,182		
	小 計	118-2	1,234		
	申 年 利 足 金				
	乗 本 七 組	39-0	30		
	塩 沢・鳥 原 村	24-3	400		
	山 吉 田 村	17-3	740		
	高 野 村	6-0	140		
	長 篠 村	64-1	594		
	浅 畑・下 平 村	14-3	815		
	川 登 村 々	37-0	879		
	所 々 村 々	125-0	708		
	小 計	329-1	374		
	車 屋 へ 請 取	2-0	1,057	(水車稼カ)	
	出 店 へ 請 取	49-2	755	申年中差31 $\times$ , 本家へ請取	
	馬 之 代	0-3			
	小 計	52-2	488		
合 計 (A)		667-2	232	勝手へ納候利徳金	
支	申 暮 御 年 貢				
	乗 本 村 夫 錢 共	28-0	367		
	長 篠 村 "	23-1	916		
	川 合 村 林 年 貢		757		
	岡 村 田 地 夫 錢		250		
	浅 畑・下 平 分	4-0	1,300		
	塩 沢 村	6-0	27		
小 計	61-3	971			



出	男 女 給 金	37-0	174	内69兩普請金
	申 年 米 麦 買 金	60-0		
	茶 摘 賃	6-0		
	申 年 小 夫 帳 〆	236-2	920	
	小 計	401-2	745	
	弁 天 丸 作 事 金	20-1	554	
	申 年 中 永 代 帳	199-3	1,146	
	〃 金 之 利	32-0	347	
	頼 母 子 掛 金	23-1	263	
	小 計	275-2	990	
	未・申 辛 灰 損	44-3	924	
	吉 田 送 り 荷 物 損	2-0	1,066	
	名 古 屋 送 り 〃	1-0	390	
	江 戸 送 り 〃	12-2	740	
	所々へ送 り 〃	0-2	950	
	小 計	61-2	111	
	合 計 (B)	738-3	526	
差 引 (A-B)		-71-1	290	申年入用金
不足				

## 申大晦日改 (期末資産調)

古金 (慶長金ほか) 8 兩 1 歩	兩 歩	文	(文字金) *金182兩2歩, 銭175〆318文 (五三替)
現金・銭*	10-2 215-2	1,189 488	
茶 買 帳 之 部			茶13,058本 (内花 596 本)  茶 5,121 本 (内花48本) 〃 1,212 本 〃 59 本 〃 6,392 本
小 川 付	1,644-0	193	
申 年 送 り 候 分 掛 り	100-0		
計	1,744-0	193	
内 前 芝 売	760-3	銀 6 匁68	
名 古 屋 売	181-1	〃 6.90	
新 城 売	8-3	〃 10.20	
売 合 計	951-0	〃 8.78	
引 残 り	792-3	744	
万 買 帳 之 部			藍玉19,055枚
色 々 代	30-1	1,246	
藍 玉	78-3	618	
小 計	109-1	540	
穀 買 帳 之 部	271-3	904	米 629 俵, 稗12俵, 大豆20俵, 小豆 7 俵
山 荷 物 買 帳 之 部			
山 代 金	58-0	204	
材 木 柄 代	11-3	413	
諸 色 荷 物 〆	297-2	235	
山 仕 入 金 12 口 分	364-2	393	
小 計	731-3	1,245	

荷物積送り帳之部	両 歩	匁	
吉 田 五 口 分	75-3	51.03	
前 芝 吉 蔵 ニ 有	35-3	10.21	
名 古 屋 ニ 有	30-2	6.38	
江 戸 ニ 有	60-2	5.77	
舟 方 預 ケ	5-0	14.26	
所 々 ニ 有	7-0	12.63	
小 計	216-0	10.28	(錢 908 文)
辛灰積送り帳之部	299-0	7.08	(錢66文) 江戸三口
海 老 酒 屋	164-0	357文	
合 計 (C)	2,800-2	1,188	年越金・商物代
借(貸)方売方帳之部			
乗 本 村 内	2-3	18	小川・蔵平・栗衣・乗本組
高 野・山 吉 田 村	1-1	205	
川 登 村 々	5-1	50	
所 々 村 々	21-1	258	
小 計	30-2	536	
信州藍代金メテ	125-2	804	
大 福 帳 之 部			
小 川 組	519-0	1,225	内11両 1 歩36文旧
蔵 平 組	209-1	594	〃 48両1, 143文旧
栗 衣 組	40-1	859	
大 平 組	21-3	243	
乗 本 組	225-1	809	
市 川 組	31-2	171	内 9 両 404 文旧
長 篠 村	723-2	565	内62両 1 歩212文旧
高 野 村	47-2	1,314	
山 吉 田 村	331-3	216	内20両 126 文旧
川 登 村 々	1,215-1	691	内 120 両 3 歩 228 文旧
浅 畑・下 平 村	322-0	121	
塩 沢・鳥 原 村	607-0	709	
所 々 村 々	979-0	1,148	
小 計	5,274-2	742	
借 方 三 口 合	5,430-3	758	内 352 両 1 歩 375 文旧
旧 分 差 引 残 (D)	5,078-2	378	
合 計 (C + D)	7,879-1	247	(E)
内 預 り 田 々 々 代 々			
吉 江 名 藍 所 小 計 (F)	2-0	457	
	86-3	730	
	7-0	49	
	2-2	821	
	844-0	738	
	942-2		
引 残 (E - F)	6,936-2	833	

が行なわれている本店から本店に対して、一艘につき五兩宛の貢納金が義務づけられていたものと思われる。農業収入に次ぐ商業活動による利得は、茶・米・藍玉ほか山荷物の取引によることが知られ、送荷先に吉田・江戸・名古屋の地名がみられるが、その内容は明示されていない。なお宝暦七年に小川に開設された出店からの売上げ利益金は四九兩二歩余であった。

次に支出についてみると、年貢金が村外分を含めて六一兩余で小作加地子の五七%に当る。そのうち川合村の林年貢七五七文は菅沼家が買付契約を結んでいた川合村御林から焼出される「辛灰」と関係がありそうである。

注、茶と並んで奥三河の特産物であった辛灰は藍染めに用いられる媒染剤で、樗の木・樺の葉などを焼いたものといわれ、多く関東地方に移出された。

明和元年江戸本銀町の大坂屋長次郎が運上金上納を条件に江戸に売会所を設け、川合村御林雑木から焼出される辛灰の独占販売を出願した際、従前から同御林の辛灰を買請けていた大野村大和屋五兵衛と乗本村為屋八左衛門両名の代官所宛の尋答書がある（美博本、F二〇一）。

その辛灰は当年四五兩弱の損金を出している。また別途に記された江戸送り荷物損金の内容は不明であるが、当年の収支勘定の赤字分七一兩一步余には羽根河岸の普請金六九兩を含むものの、それを差し引いても期末の決算は一兩一步余の欠損となっている。もちろん後半部分の店卸にみられる残り荷物の販売結果が不明な段階での収支勘定であり、その資産勘定も他の関連史料と絡めて検討すべき問題は多々あるのである。また安永五年という一年限りの勘定帳を以って菅沼家の経営を云々することは不可能である。ただ指摘できるとされる特徴は、期末の資産勘定にもみられる借（貸）分部門の比重の大きさである（此年旧債の一部、三五二兩一步の切捨てが行われている）。このことは菅沼家が積極的に意図したか否かは不明であるが、同地方の山間部農村における金納年貢の実現が、菅沼家文書中に残されている茶手金証文（口絵参照）や米手金証文の存在で知られるように、菅沼家に対する生産物の前売によって果されていたこと、云い換えれば菅沼家の商業活動における利得の源泉の大きな部分は、山間部農村の金納年貢を楨杆とした集荷形態にあったとみることができよう。

なお、次の第11表は菅沼家の商業活動の内容を窺う手掛りとして、鵜飼船によって奥三河と吉田・前芝湊を上下した貨物の品目を、天明四年の運賃諸掛帳によって表示したものである（一部品目のみ摘記して運賃省略）。

#### 幕末・明治期の菅沼家

一〇代八左衛門定基は、父定久の没後僅か三年の寛政五年正月に四五歳で没している。定久の生前天明四年に書かれた遺言状（美博本、F六三）

第11表 鵜飼船上下荷物運賃品目表（天明4年現在）

<b>前芝の鵜飼船登り運賃</b>		麦1俵 34文	
米1俵（4斗入）	72文	<b>川路・塩沢の</b>	
麦1俵（"）	64文	米1俵（竹広蔵）	24文
稗1俵（6斗入）	64文	麦1俵	22文
粟1俵	67文	米1俵（4斗入）	28文
小豆1俵	72文	<b>江戸行廻船運賃積り覚</b>	
大豆1俵（4斗入）	64文	諸穀類（100石＝付）	金7両2歩
あこ（赤穂カ）塩1俵	55文	山荷物（"）	7両2朱
土青塩1俵	55文	酒（100駄＝付）	8両2歩
御馬直し1俵	55文	柿（100石＝付）	8両1歩
みや小塩1俵	20文	木綿（100反入）1箇	銀4匁50
乙川成岩共1俵	18文	油（10樽＝付）	金3歩
判付役塩1俵	29文	<b>吉田經由伊勢送荷物</b>	
<b>吉田より登り運賃</b>		（以下運賃・庭賃省略、品名のみ）	
米1俵（4斗入）	64文	檜松六分板，榎六分・五分板，綾部，戸井皮，垂木，角材	
麦1俵（"）	55文	<b>吉田經由名古屋送り荷物（同上）</b>	
大豆1俵（"）	55文	節松，堅炭，車真木，輪木，鋏長平，同柄，角棒，傘ろくろ，辛灰，榎，竹皮，木ふし，蕨，美男草，とうつる，盆，木地，古鉄，茶，明樽，砥石，鳥もち，みかん，綿，くり綿，かち栗，桃皮，樽木，ひしやくゑ，松やに，やしや，松煙，杉粉，桐板，こんにゃく，こぬか，飯田出粉板，桎板，浜綱，肴	
小豆1俵（"）	64文	<b>名古屋荷物其他登荷物（同上）</b>	
稗1俵（6斗入）	55文	酢，溜り，油，味噌，瀬戸物，鉄，伊勢笠，真塩，才田塩，そうめん，長持ほか	
あこ塩1俵	48文		
御馬直し塩1俵	48文		
日出表1俵	48文		
乙川塩1俵	16文		
判付役塩1俵	25文		
判付なし	22文		
成岩塩1俵	16文		
みや之たいこ塩	18文		
酢老斗樽三口入	100文		
溜り老斗樽（8升入）	32文		
油大樽1樽	132文		
酒1樽	100文		
秤1丁（17貫目掛）	24文		
脇差1本	24文		
前引老枚	24文		
銭1固（15メ文入）	32文		
浜綱1筋	12文		
<b>新城庭賃</b>			
米1俵	70文		

「東上御運上 船上下運送 其外売買諸掛帳」（美博本，F 179）より

には「庄藏身軀相統無覺速、周助義病身故外之渡世難相成候間、兄弟三人中能申合、我等死後式拾年間周助木場ニ差置可被申」とあって、定基以下正藏（定系）・周助（定章）三人の兄弟が協力して家業に励むことを命じ、正作木場を預る周助から正藏は二〇年間問屋収益の二五％を受取り、身代の助成とすることを指示していたのであるが、定基もまた没する前年に遺言状（一一二八三）を作成し、当時一四歳であった養子豊吉（一代八左衛門定年、尾州知多郡亀崎新美氏三男）の成人までの後事を弟の正藏・周助ほか別家・支配人に託すとともに、病身の周助に対しては「周助義随分我儘不申正藏ニ随ひ、屋敷畑家作下村左平畑通船老艘薪山老校長篠村高周助へ心当之田畑元金百両もらい病氣保養可致」と、不動産・動産の分与を指示している。

以後の菅沼家は、一代定年（天保一〇年九月六日没、行年六一歳）・二代八左衛門定春（明治五年四月二二日没、行年六一歳）の二代に亘って、公面向の献金・差出金が目立って多くなり、また村内に止まらず困窮宿村への助成・貸付金の醸出に応じ、代官所から屢々褒賞を受けるなど、東三河の名望家として著名な存在であった。安政二年に作成された菅沼家の「寛政以来上納金其他宿村助成出金之廉訳書下書」（一一五五四）を整理してみると、次の通りである。

一金五拾両

右は辻甚太郎様御支配中、寛政六寅年五ヶ村水損困窮ニ付差出候処、同十二申年白銀老枚頂戴仕候

一金拾五両

右は松下内匠様御支配中、文化七午年凶作之節上納金兩度御下ケニ相成申候

一金百両

文政六未年長篠村へ拾両貸置利積立候分、天保十一亥年ヨリ右利足之儀同村助情（成）ニいたし申候

一金貳百両

右は天保五午年平岡熊太郎様御支配之節、宿村え為助情、右之内金百両差出シ切ニ仕、残金百両は当御役所ニ而利足御取立年々御下ケニ相成申候、御替御書有之候

一金五拾兩

右は天保七申年凶作ニ付村方へ貸遣シ、右之内金廿五兩為助情遣シ切ニ仕、殘金廿五兩は無利足年賦ニ而追々請取申候  
一米百石

右は天保申酉兩年凶作ニ付難波之もの救として安売仕候、五拾兩金損

一金百兩

右は天保八酉年遠州白須賀宿困窮ニ付無利足ニ而貸置、金拾兩宛拾年ニ済切申候

一金五兩

右は天保九戌年西之御丸御炎上ニ付為冥加之同十亥年小笠原信助様御支配之節上納仕候、其後弘化四未年七月十七日山上藤一郎様御支配之節、為御褒美三州郡中へ銀八匁被下置、割合永百七拾貳文頂戴仕候

一金七拾五兩

右は天保十五辰年山上藤一郎様御支配中、村内藏平組困窮ニ付貸シ遣シ無利足年賦拾ヶ年ニ済切申候

一金拾兩

右は嘉永七寅年村内大平組市郎兵衛示談之節同人え遣シ切ニ仕候

一金三百兩

右は嘉永七寅年中、異国船渡来ニ付海岸防禦之節上納仕候

一金四拾兩

右は安政二卯年村方入組ニ付多く雜用相懸リ候ニ付助情仕候

一金百兩

右は安政二卯年大地震ニ付郡中村々へ為助情貸遣シ申候

如上の結果、嘉永七年三月「村内厚世話致し貧民をも労働段奇特之事」として、中泉代官所から名主後見を命じられ、更に安政二年八月には海岸防備のための上納金（三百両）に対して「其身一代苗字御免」を老中阿部伊勢守（正弘）からの御差図として赤坂役所において申渡されている（「公用向扣」〔四六〕）。

なお、菅沼家の名主就役について触れておくと、名主金十郎家は寛保三年の名主役相続に関する惣百姓願書（美博本〔F一三三〕）によれば、当時世襲名を十郎左衛門（のち重左衛門）と改めていることが知られるが、何時の頃から家運が衰えたとみえ、管見の限りでは安永六年以後、乗本村の公的書類からその名が消えている。そして安永七年以後、名主役に正作定久の名がみえるから、同人が隠居後没年まで名主役を勤めたと思われる。その後正確な年次は確認できないが、寛政初年から天保七年頃にかけて分家の正藏定系、天保末年から嘉永七年まで親類正兵衛（血縁関係不明、定年二男カ）、安政二年以後明治初年まで分家耕兵衛（定年三男、分家の年次不明）と、菅沼家の分家筋が名主役を勤めている。

明治以後菅沼家の回漕業は一三代八左衛門定雄（明治九年一月没）、一四代耕一定道によって引継がれ、定道が明治三四年一月に没したあとは、幼主斐三郎の後見人として定道未亡人園によって営業されたが、園が大正六年に没したあとは、支配人松井直太郎が本家から全権を譲り受けて経営したと云われる（菅沼貴一『吉田川回漕史』続編）。

その間菅沼家の土地集積は進み、明治二二年現在、乗本・長篠村地内で田畑八町歩余、山林・宅地・其他が二四町七反九畝六歩の規模となっている（森靖雄「乗本村と菅沼家の土地集中について」△『愛知大学総合郷土研究所紀要』第九輯▽）。

#### 明治期の菅沼正兵衛家・耕兵衛家

幕末に乗本村の名主役を勤めた「正兵衛家」は、菅沼家（本家八左衛門家）の願届書類の加判の肩書に名主のほか「親類」と記されており、本家との血縁関係を明らかにし得ないが屋号を本家と同じ「為屋」と称しており、嘉永七年七月「東川小川組材木師白木師井下地其外間屋性名帳」（美博本〔F一九九〕）に、本家八左衛門・分家耕兵衛と並んで名を連ねているから、菅沼家の林産部門を受け持ったことが知られる。

明治二年三河界から商法掛に任じられ、同地における養蚕・製茶業の発展を策する国益建白書を呈する一方、自ら卒先して一反歩の畑に桑苗

を取寄せ栽培したという。『八名郡誌』によると、「是が本郡として最初の桑園であろうか」とし、その後長男正録を奥州二本松の安斎宇兵衛方に遣して養蚕法を研究させ、製糸工女を信州から呼んで製糸を試みたという。明治七年正兵衛は八名郡の蚕種世話役に任じられ、翌八年には宝飯・設楽・八名・渥美四郡の有志二四名によって結成された蚕種製造組合としての豊川組の頭取に就任している。豊川組は設立後僅か二年にして解散しているが、如上の経歴から菅沼正兵衛が東三河における養蚕業普及の先達であったことが窺われるのである（『八名郡誌』・『豊橋市史』第三巻）。

正兵衛家のあとを受けて、幕末から明治初年の名主役を勤めた「耕兵衛家」は、明治二年三河県から酒造取締役を命じられ、「勤中苗字御免、手当金下賜」の沙汰を受けている。明治五年二月一五日額田県から八名郡副郡長を拝命（正郡長なし）したが、同年四月九日太政官の達により額田県限り任命の地方官制は廃止されたから、耕兵衛の副郡長は同年五月一五日を以って免じられた。僅か三ヵ月の在職期間であったが、当時の役職上の書類が伝存している。そして耕兵衛は副郡長離職直後の五年五月二八日、田原藩士本多述を乗本村に聘して郷学校を開校した。同年七月の学制頒布によって八名郡は加茂・設楽両郡と共に第二大学区第九中学区に属したが、翌六年六月耕兵衛は第九中学区取締に任じられ、小学校の設立と教員の養成に協力したという。因みに明治六年一二月現在の八名郡小学校創立一覧表（『八名郡誌』七八二頁）によると、乗本村の小学校所在地は「千三百四十一番地菅沼八左衛門扣家」と記されている。耕兵衛はこのように学校教育の普及に協力する一方で、明治七年五月正兵衛と同じく八名郡の養蚕世話役に任じられており、養蚕奨励に役かったことが知られるほか、八年三月大区長拝命（一〇年二月病氣による辞職）するなど、地方官としての要職に就任している（『八名郡誌』）

## 菅沼家文書の分類と配列

既述の通り、江戸時代の菅沼家は豊川舟運における問屋営業を含む回漕業・商業活動を営む一方で土地を集積し、また山林地主としての経営を行なうなど、幅広い経営を行なっているが、残存の史料は年歴の長さとは経営内容に比して余り多いとは云えない。従って当館所蔵史料の



欠を補うべくマイクロ・フィルムによって収録した豊橋市美術館所蔵史料の一部、および愛知大学総合郷土研究所所蔵史料の一部は、本来所蔵機関別に掲載すべきであるが、検索・利用上の便宜を考慮して、史料館所蔵史料の中に混載した。目録中、史料表題の上欄に㊦とあるのは豊橋市美術館所蔵分、㊦とあるのは愛知大学総合郷土研究所所蔵分である。

菅沼家文書の構成は、近世初頭に名主役を一族の金十郎家に譲ったあと、享保―安永期に小川組の組頭を勤めていた形跡があるが、組頭役は複数家の年番であったとみえ、小川組に関する村方史料は断片的である。安永末年以後十数年間は名主役を当家が勤めたものの、寛政以後は分家の管掌するところとなり、若干の乗本村文書が含まれているが、本文書の主体は菅沼家の家文書である。なお家文書中には幕末に菅沼家の後見なり経営の実務に当たったと思われる分家正蔵・正兵衛・耕兵衛家の文書が散見され、本・分家の経営の未分離を窺わせるが、本目録の分類に当っては、大項目に菅沼家、分家・親類、乗本村の三項を立てて区分した。

以下、各大項目を中・小項目に分ち配列した史料群のうち、問題点・補注を要するものについて若干触れておきたい。

### 菅沼家

中項目の最初に掲げた「家譜」のうち、系図・家伝記録のほかに本来は「家政」のうちの仏事に含まれるべき「過去帳」を、利用目的を配慮して「系図」の項に付属させてある。また近世初頭に菅沼家が小川郷に移住後の動静を伝える「慶長拾年高付」（重出）や、同地に勢力を定着させる過程で生じたと思われる村内でのトラブル（田地出入や舟場出入等）に関する史料、およびそれらの史料を安永期に九代定久が書写し、子孫のために解説を加えた書添書などを一括して、家伝記録の末尾に配列した。

中項目「公用向」は、通常みられる村役人としての立場から作成されたものではなく、菅沼家が代官所から独自に拝命した臨時御用向や褒賞詞、また宿村助成御貸附のための菅沼家の差加金・上金や、海防のための献金等、所謂菅沼家の勤功事績に関する史料を纏めたものである。

中項目「所持地」は所持地取調、分地・譲地、替地、地境出入、田畑売券、貸地・貸家、江戸八町堀家作の小項目に分けてある。そのうち「所持地取調」に関する史料としては、この他に菅沼家が個人的な関心で書写した旨の奥書のある寛文九・同一〇・貞享四年の本新田畑検地帳写が存するが、これも利用上の便宜を優先させて、後出の大項目「乗本村」の中項目「土地・山林」中に配置してあるので留意されたい。

「田畑売券」は菅沼家の土地集積の実際を示すものであるが、永代売のほか、年季売・本物返・請作文言書添や、滞金の結果引渡された田畑証文等、借金証文とも小作証文とも解される証文を多く含んでいるが、截然と区別することは困難であったため、一応「売渡し」と表記のあつた証文はこの項に集め、できるだけ契約内容を注記して年代順に配列した。また田畑の転売によつて添付された古証文や、古証文への書添継証文の類は、菅沼家の入手時の年次に配列し、関連古証文はそのあとに付属させてある。なお菅沼家宛の売券のほかに、出店支配人で、のち別家となつた次郎八宛証文教通と、他家宛売券が若干散見されるが、その残存理由が不明な分については、菅沼家宛の売券のあとに一括しておいた。「江戸八丁堀家作」に関しては、九代定久の天明五年十一月の遺言状（美博本、〔F一六三〕）中に、末子周助に対して定久死後二〇年間正作木場の支配を命じ、その間屋収益が一、二千両にも達したならば「江戸屋敷相調、本家へ附に致候ハ、永く本家之中興可為候、我等生涯之志願ニ而出情致候得共、念願成就不致残念ニ有之間、右之存念ニ而云々」とあつて、江戸に屋敷地を購入することが定久の宿願であつたことが判るが、その購入の時期は明らかでない。天保後年以後、同地の支配人三河屋八三郎の「地代店賃勘定帳」が本家宛に提出されているが、定久の宿願は単に地代店賃の取得を目的とするものではなく、菅沼家の江戸送り荷物の代理店の設置にあつたであらうと思われる。このことは僅か一通のみしか見出せないが、安政六年新城領主菅沼氏の江戸下し金六〇両の為替手形〔一一一六〕が菅沼家から三河屋八三郎宛に取組まれており、菅沼家の江戸送り荷物の代金の授受に三河屋が拘わつていたことを窺わせるのである。

中項目「貸付」は菅沼家の経営のうち、最も大きな比重を占めることは既述の通りである。同家の貸付の内容を、貸金証文、郷貸、祠堂金、質屋の小項目で区分した。そのうち量的に最も多い貸金証文は、前出の「田畑売券」で断つた通り、本物返しや年季売りや田畑の書入を契約条件とする借金証文と実質的な差異の有無は判断し難い。また商取引に係る仕切残金・滞金や、茶手金・米手金証文など生産物の前売りに際して授受された証文など多様性があるが、敢えて細分化せず一括し、質地証文もこれに加えてある。一般の貸付と区別した「郷貸」は、近隣農村の地頭先納金・勝手賄金調達のための借入で、旗本用人差出の証文もあるが、多くは知行所村の田地書入や年貢引当の郷印証文である。「祠堂金」は長篠村医王寺へ入寺した九代定久の弟泰化（仙カ）の出世金名目の貸付のほか、鳳来寺祠堂金への加入金に関するもの、また「加判帳」は村内外の農民の主として鳳来寺・秋葉山等の御貸附金拝借の口入人として菅沼家が加判した拝借証文の控留である。

中項目「山林証文」は、前出の「田畑売券」・「貸金証文」が中項目「土地所持」「貸付」のそれぞれ小項目扱いとなっているのに対してバランスがとれていないが、本項目に一括した証文中には永代売りを明記した山証文のほか、山林の利益権の期限付売買を示す立(上)木年季売証文が多く含まれている。もっとも明和三年一二月の蔵平組平七の杉木五六本、代金一両一步と定めた売渡証文(六五七)には「右粗木何拾ヶ年成共御立置、貴殿御勝手次第御切取可被成」とあって、永代売と実質上差異のないもの、また文化三年七月大峠村藤左衛門の杉林三〇年季売渡証文(六八六)の場合「年季中御勝手次第御支配可被成、尤年限相済候節は上木御伐取被成、無相違御返シ可被下」とあるもの、寛政九年一二月の源兵衛杉木年季売渡証文(六八一)には三〇年の年季中、苗木の成育を請負う文言があり、成育に相当な年数を要する立木山の期限付売買は、実質的には山林地主の経営の一環をなしたと思われるものの、その経営の実態が不鮮明であるため、土地集積と同レベルの山地証文と上木の買得証文を区別せず一括し、後出の中項目「山林業」とは別立ての中項目とした。

中項目「経営帳簿」は七代定好の代と思われる宝永五年以後の「大福帳」(万貸帳)を初見とするが、その他の帳簿は概ね定久の代以後の本店・出店の決算簿である「仕上勘定帳」の類である。前にみた年末の決算簿としての「暮勘定仕上帳」のほか、「仕入荷物勘定帳」には前年の仕入荷物の売却がほぼ完了する五月―八月頃にかけて損徳勘定が行なわれている。本店・出店と別途勘定の行なわれている「積荷物仕上帳」は賃積みの回漕部門の勘定帳であり、「木店勘定」は盆暮二季に問屋部門の浜賃・庭賃収入の品目別明細を記し、その合計から食費・光熱費・給金などの経費を差引く純益計算が行なわれている。これらの諸帳簿は欠年が多く、同一年次に各帳簿が揃って残っている例は見出せない。

中項目「茶取引」は菅沼家文書中、帳簿以外は極く少量しか残っていない商取引関係の史料のうち、年次的に片寄りがあるが比較的纏っているため設けたものである。最初の小項目「寛政度書上」は、松平定信の寛政改革の一環として実施された物価調査が、三河の山村にまで及んでいたことを知ることができ興味深い。菅沼家の書上(下書)「秋摘下茶売買直段明細帳」(美博本、F九二二)によると、同家の取扱う茶は品質を表わす等級の下茶に属し、「当国八名郡設楽郡村々々持出、過半雜穀・味噌・塩等ニ引替買取候義ニ御座候間、売主銘々名所難相訳御座候、買直段之義ハ前芝村直段積を以年々秋九月新茶山方買取、翌年秋九月迄前芝村ニ而売払申候(下略)」とあって、仕切直段の取極めは前

芝問屋の裁量にあった模様である。菅沼家の前芝問屋との直取引は延享二年に始まったことを前に触れたが、明和二年九月の前芝問屋から荷主へ宛てた「茶荷物請払支配一札」(美博本、〔F一四七〕)には「茶井花御荷物請払支配之義、権兵衛・弥吉・善左衛門三軒ニ而年番当九月新茶々来八月売仕廻迄格年ニ相勤候事」とあり、安永四・五年に集中して残っている前芝問屋の仕切状の中には、三軒連名の仕切判が用いられているが見出される。

中項目「回漕業」は、小項目に羽根問屋、鵜飼船、船仲間規定、船人、積荷・運賃出入、東上番所分一、船荷手形、回漕店、一畝田分水事件に分つてある。回漕業は菅沼家にとって中興の祖定正以来の家業と認識されていたが、その居村乗本村にとっても重要な位置を占めていたことは前にも触れた。安永三年羽根問屋が提示した運賃値上げについて奥筋村々荷主百余人と出入となった時の定久の記録(安永五申秋永代覚)中にも「両村(乗本・長篠村―引用者注)船持船人小駄賃等稼仕候小百姓ニ至迄奥村之助成ニ而作間之渡世親妻子を養ひ、御年貢諸役等迄荷物運賃之助成ニ而相勤相統致候云々」とあって、豊川舟運の起点としての乗本村農民の生計の糧が回漕業に大きく依存していたことが知られ、寛延三年以降村役人の加判がみられる「船仲間規定書」や「東上番所分一」などは、村レベルのものとも考えられるが、菅沼家の経営と密接に絡んでおり、分離し難いため本項目に纏めておいた。なお代官鈴木八右衛門によって寛永二〇年に設けられたという宝飯郡東上村(現、一宮町)の分一番所は、同所を通過する下り荷物に対して運上を課したものであり、寛文元年以降は請負人による徴税が行なわれていた。

小項目「回漕店」は明治以後の菅沼家の回漕業に関するもので、『八名郡誌』によれば、豊川舟運による同郡下の荷物運送問屋は明治七年に設立された内国通運会社<sup>ニ</sup>に属したと記されているが、明治以後の菅沼家の回漕業が江戸期とどのような変化があったかは不明である。『同郡誌』は豊川舟運の最盛期は明治一九年頃としているが、一四代耕一定道の晩年明治三三年九月長篠の望月喜平次と共同で丸二運送合資会社を開業したことが知られる。もっとも従前水運に多く依存した同地方の交通は、明治一四年の別所街道・伊奈街道の大改修工事、明治三〇年豊川鉄道の敷設(豊橋―一宮間、明治三三年大海まで延長全通)など陸上交通が大幅に改良整備されたから、豊川の舟運は漸次衰退したと思われる。菅沼家から経営を譲り受けた松井直太郎の回漕店は、その後他家の引継ぐところとなり、大正一四年閉店したという(菅沼貴一『吉田

## 川回漕史』続編)。

「一畝田分水事件」は、明治二〇年山口県士族毛利詳久が渥美郡牟呂村地内の新田開発を計画し、その農業用水を八名郡一畝田村の豊川から取水堰を設ける牟呂用水の開鑿を県に出願したこと、豊川舟運に携っていた八名・南設楽・北設楽・宝飯・渥美五郡の回漕業者が同盟して反対運動を起した事件である。すなわちこの開鑿計画を許可した県知事勝間田稔を被告として、名古屋控訴院に工事取消しの提訴をした代表者に菅沼耕一も加わっており、牟呂用水による豊川水量の減少は舟運業者の死活問題として激しく反対したが、二一年末原告側の郡長等が仲介に入って示談が成立されたとされる(『豊橋市史』第三卷)。

中項目「林産業」は、山林地主としての菅沼家にとって主要な経営部門であったと思われるが、残存する史料は極く少量であり、分家筋の正兵衛・耕兵衛名前の史料を含むが、奥村の御林の伐出や川下げの請負人と菅沼家の関係は不明である。

中項目「酒造」は、菅沼家が鳳来寺領門谷町源内より酒造株を譲り受け(寛政初年カ)、鳳来寺の御神酒酒造御用達を勤めたことによって残された史料である。そのうち酒造高書上は本来村方史料として扱うべきであるが、書上の酒造人は菅沼家のみであるため、便宜同一箇所に纏めておいた。

中項目「書状」には、八名郡(塩沢・島原村カ)に采地をもつ旗本安部右京(千五百石)の用人松井喜右衛門の江戸からの書状が、定久の没する前後の年にやや纏って残っている。その内容は菅沼家に対して臨時金の才覚を依頼する役向書状も含まれているが、その多くは幕閣の人事、幕吏の処罰・褒賞、諸侯の御手伝普請の拝命や、江戸市中に流布された落首や風刺戯文等、聞書に類する江戸の情報を送ったものである。もっとも上封紙が失なわれ、同封されたと思われる聞書類は書状と離れて残っていたが、「徳川実紀」などによって年次の推定し得たものは書状の月日付と照合し、書状の同封書付として一番号に纏め、また書状が失われて聞書のみが残っている分についても、同時期のものと判断できるものは松井喜右衛門書状の後部に続けて配列し、情報源の明らかでない幕末の聞書類は別項に区別してある。

## 分家・親類

既述の通り、菅沼家本家に分家筋の史料を断片的ながら含むことの意味は、分家の経営が本家の経営と未分離であったことを示すと思われること、また分家以後も本家の後見をつとめたと思われる正藏家以外は分家の年次が明らかでないため、周助

・正兵衛・耕兵衛名前の史料の分家以前・以後の区別も難しく、またそれらの史料は極く少量であるため、便宜本家の経営史料に混入させてあるが、前述の通り明治前期の正兵衛・耕兵衛両家は、それぞれ同地の産業・教育の育成・振興に尽力し、短期間ながら地方行政の要職に就くなどして、本家とは別種の史料を残しているもので、それらに関する史料を纏めるため「分家・親類」の大項目をたて、江戸期の分家名儀の不動産・動産の売買・貸借証書類や、本家の分類項目からはずれたものを付属させた。そして正藏家・周助家もその例に倣って纏めてある（なお周助家については既述の通り寛政四年の「定基書置」に田畑屋敷・船等の配分のこと が指示されているが、同人の病弱のことが言及されており、果して分家を意味したかどうかは不詳である）。

#### 乗本村

前にも触れたように、旧乗本村文書の大半は、現在鳳来町乗本の小川区会所に共有文書として保管されている。このことは、菅沼家に伝来した旧乗本村文書が、安永末年以降の隠居正作（定久）および分家筋による名主勤役中、何らかの理由か偶然的契機によって家文書に混入したものとみることができ、そして安永以前の年番組頭としての小川組に関する史料と、その期間中菅沼家が個人的関心から書写した村方史料が追加される。従って所謂村方史料としては体系的に整備されておらず、数量も僅かであるため、小川組レベル・乗本村レベルの区別は行わず、現存の史料の在り方に準じて適宜中・小項目を立てて配列したが、如何せん少量史料の分類で、ニュアンスの違う史料を無理に纏めた部分が少くないことを諒承されたい。

なお、該村方史料中、若干特徴的な点を付言しておく、乗本村名主両名のうち、小川組在住名主が七組の触頭としての地位にあり、同名主によって各組宛の年貢免状・皆済状の発行が行なわれたことを前に触れたが、菅沼家文書中にはこれらを裏付ける名主金十郎発行の小川組宛の免状・皆済目録が見出されるが、中に年次の記載のない免状下書が数通残されており、菅沼家がその実務に拘わっていたことを推測させる。

中項目「水運」には、「菅沼家」の「回漕業」に一括配置した舟運関係の史料を除き、乗本村の「筏場」に関する史料を主としている。すなわち豊川舟運の起点としての乗本村は、奥筋村々の山林から伐出し、管流しによって三輪川・滝川を川下げされる材木の筏場でもあり、筏乗りに従事することによって生計を支える農民が多かったことと思われる。長篠・乗本両村の筏乗仲間の規定は安永四年正月に作成されてい

るが、同七年筏場運上吟味に際しての口書（美博本、〔F一五九〕）には次のように説明されている。

右両川岸限り筏組ニ仕候義は先年御用材木無賃ニ而筏組仕候例并ニ御本丸御用・日光御用・奈良御用等之御材木ハ不残右両川岸ニ而筏組被仰付候附、其節之御材木え御打被成候御名印并御用御幟等も当時所持仕、右川岸字ニも御筏場と有之（下略）

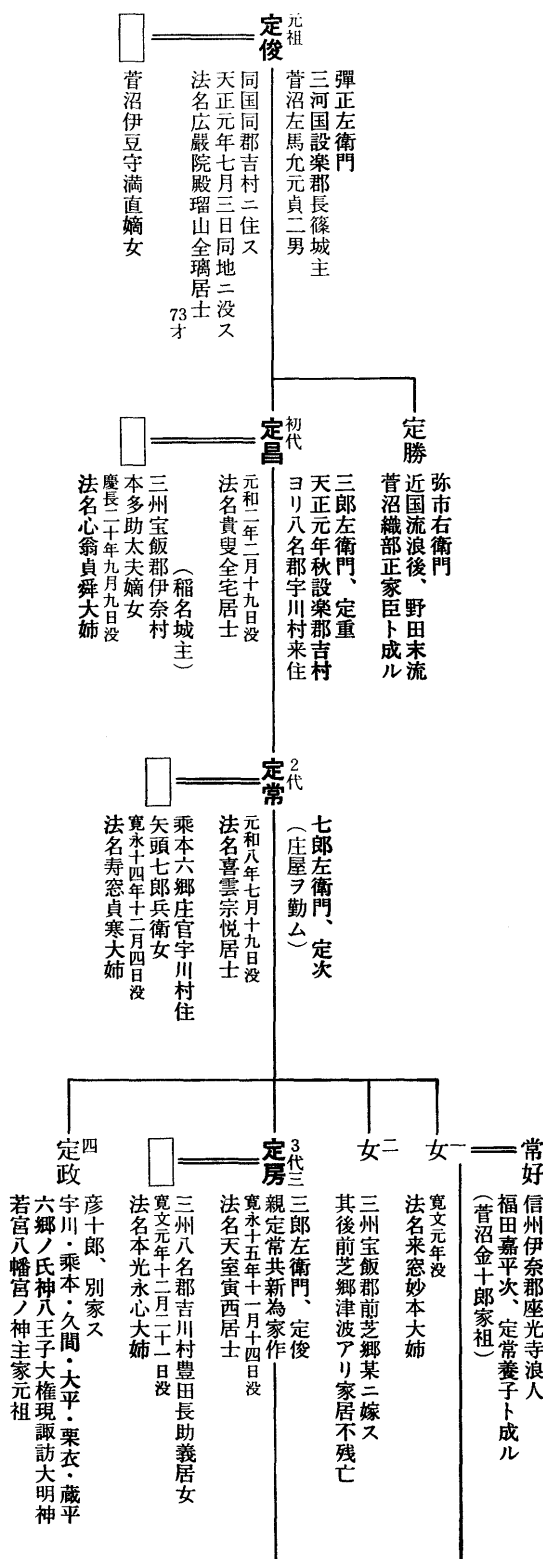
幕府の御用材を奥筋村の御林から川下げするに際して、乗本・長篠村が無賃の筏組みをするこの反対給付として「御筏場」の特権を有していたことが知られる。

〔付記〕

菅沼家文書の整理および目録作成は鶴岡実枝子が担当した。マイクロ・フィルム収録に当っては、豊橋市美術館河合正樹氏はじめ館員の方々、昨五十八年十二月二十七日急逝された愛知大学教授故歌川学先生、同大学総合郷土研究所山本敦子氏から深甚なるご助力を頂いた。とりわけご多忙の中を格別のご尽力を下された故歌川学先生には謹しんでご冥福をお祈り申し上げます。

また現地調査に際して、ご紹介の労をおとり下さった中井信彦先生、手厚いご誘導を頂き、種々ご教示を賜わった川合重雄先生（新城市）、菅沼家文書の原蔵者で鳳来町乗本小川の現組長菅沼恵一郎氏には、旧乗本村文書の閲覧の機会を与えて下さり、本目録の作成に快くご協力下さったことを、末筆ながら付記して厚く御礼申し上げます。

# 菅沼家系図



## 系図凡例

- 一、本系図は、『菅沼家系図』(美博本〔F一〕・史料館本〔二二八二〕・菅沼恵一郎氏所蔵本)・『小川邑菅沼家記』(美博本〔F二〕)のほか、享保一六年『万覚之日記』(一)・『安永五年秋永代覚』(二二八四)・『天明四年辰中春万覚書』(四)・『天明四年』・『永代諸色覚』(五)・『過去帳』(美博本〔F三〕)等に拠って作成した。
- 一、当主名の肩に付した代数は『安永五申秋永代覚』による。
- 一、親子の続柄は、実子は――、養子は――で示し、――は妻帯関係を示す。
- 一、行年より逆算した生年には(――)を付した。



常直  
金重郎  
盛光  
金十郎

彦七郎、定利  
三州八名郡大野村新村治右衛門  
重行男、定房男子世続ナク  
夫婦共当家相続  
正保二年六月十四日没  
法名海雲永吞居士

竹松・喜八郎・三郎左衛門  
(寛永三年生)  
元禄十六年三月二十日没  
法名了屋祐然居士 78才

竹松、八左衛門、三郎左衛門  
(慶安三年生)  
享保十年七月八日没  
法名一乘入法居士 76才

金太郎、八左衛門、三郎左衛門  
延宝八年六月八日生  
延享五年正月二十六日没  
法名美翁玄眞居士 69才

たつ  
天和二年三月二十八日没  
法名桃屋性見大姉

三州設楽郡川路村原田  
十左衛門近友嫡女  
明暦二年三月八日没  
法名潭心妙澄大姉

なへ  
(万治三年生)  
普沼金重郎盛光女  
享保十五年十月十七日没  
法名瑞顔妙正大姉 71才

たつ  
長篠村望月三左衛門重良女  
元禄四年生、宝永元年入嫁  
享保六年七月三日没  
法名宝雲貞鏡大姉 31才

女二  
三州八名郡山吉田村鈴木  
太郎右衛門元俊へ嫁ス

川路村原田近友二女  
(前妻妹)  
貞享元年四月六日没  
法名玉室貞琳大姉

女二  
遠州引佐郡別所村七右衛門へ  
嫁ス

かん  
山吉田村鈴木兵左衛門重友女  
元禄九年生、享保六年九月入嫁  
元文三年五月十一日没  
法名万室妙善大姉 43才

女三  
三州設楽郡長篠村内金  
夏目久兵衛政行へ嫁ス

三州宝飯郡瀬木村伊藤  
武兵衛家武女  
宝永六年十二月晦日没  
法名心月貞本大姉

女四  
延享四年四月二十四日没  
法名親法貞近信女

ひめ  
設楽郡海老村原田新三郎へ嫁ス

三州設楽郡長篠村鎌田権四郎  
正勝へ嫁ス

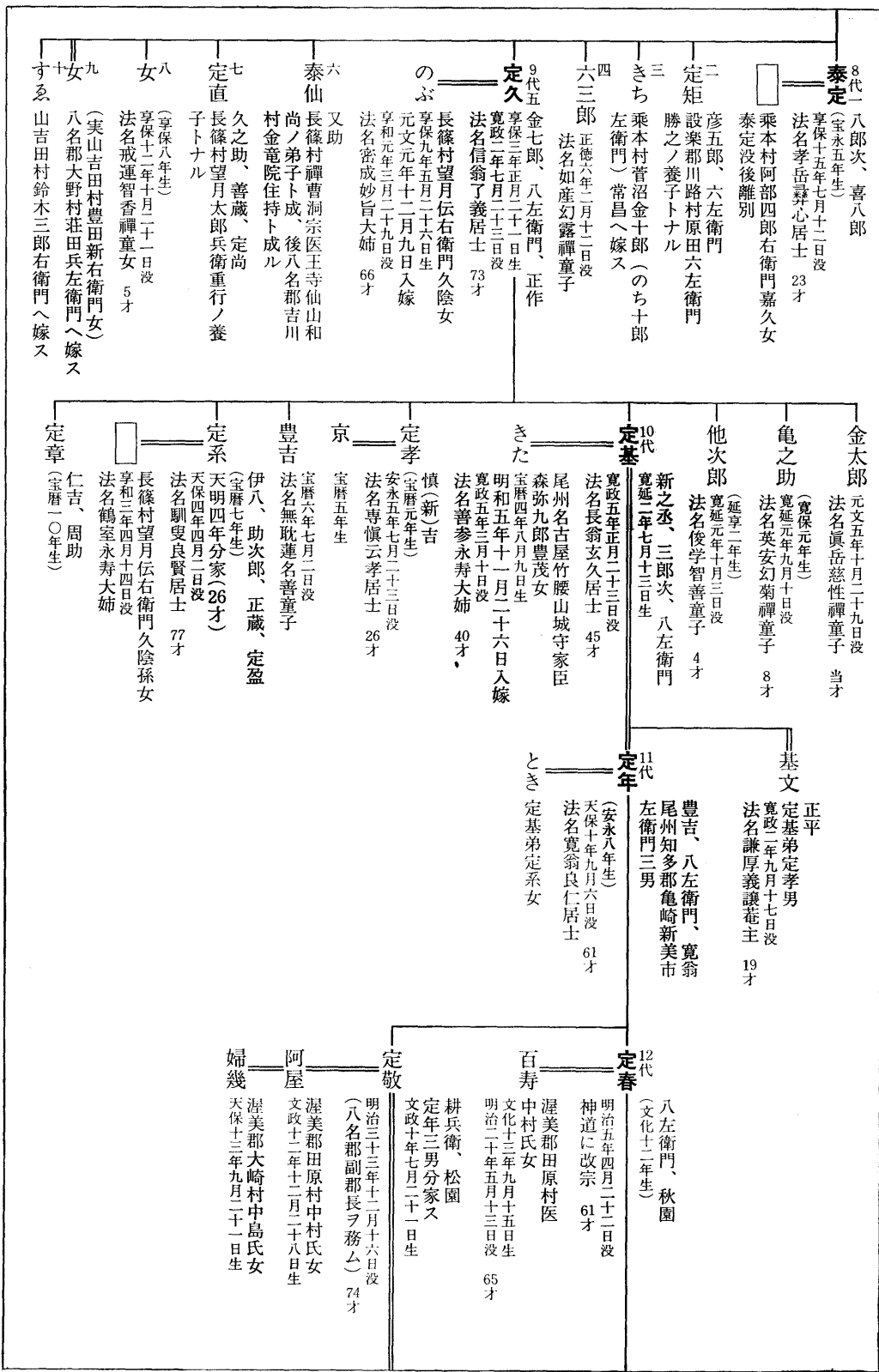
女五  
三州設楽郡長篠村鎌田権四郎  
正勝へ嫁ス

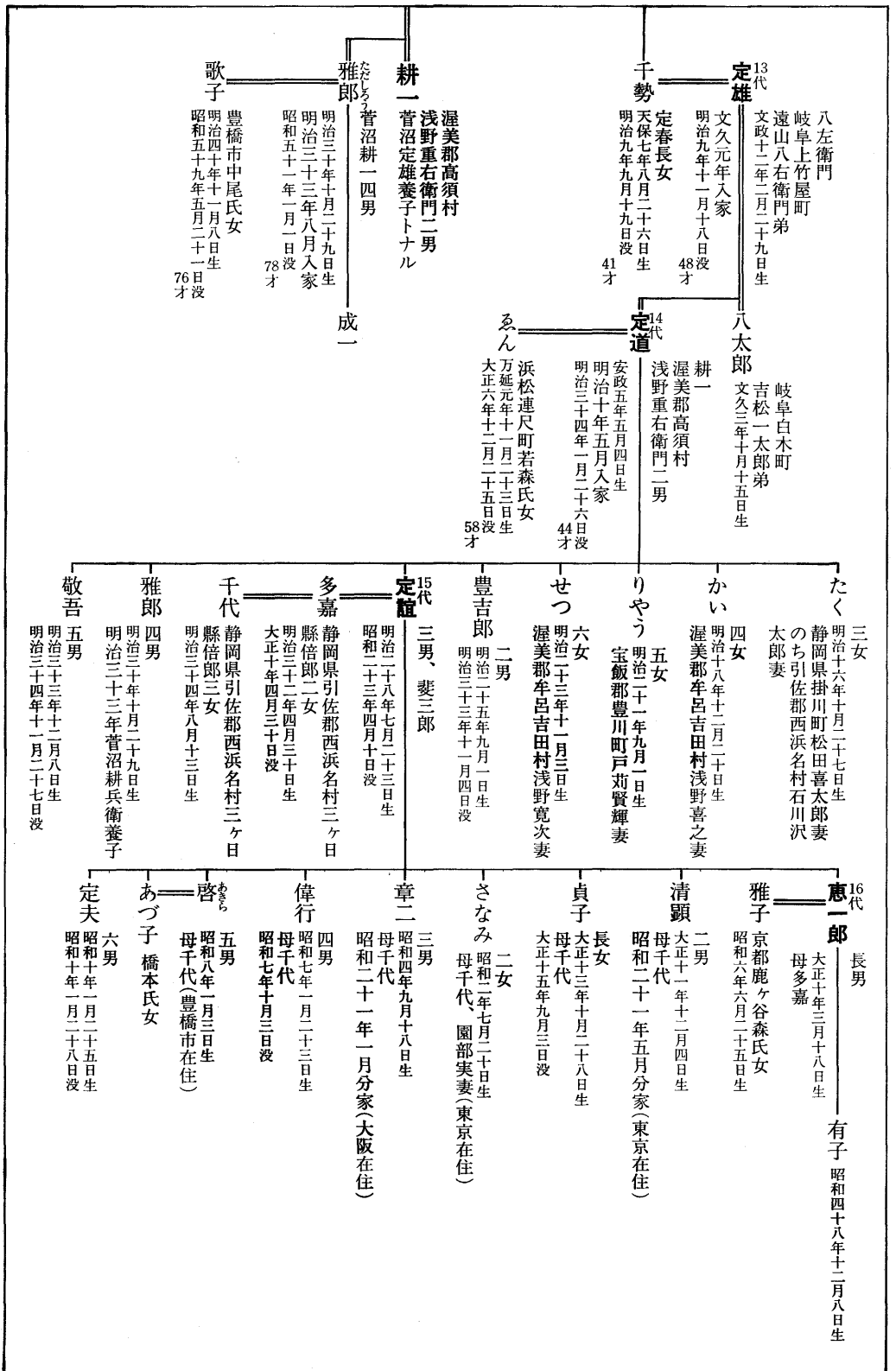
つね  
乘本村蔵平西野利右衛門へ嫁ス

三州設楽郡長篠村野沢左次兵衛  
友良へ嫁ス

しけ  
山吉田村豊田新右衛門へ嫁ス

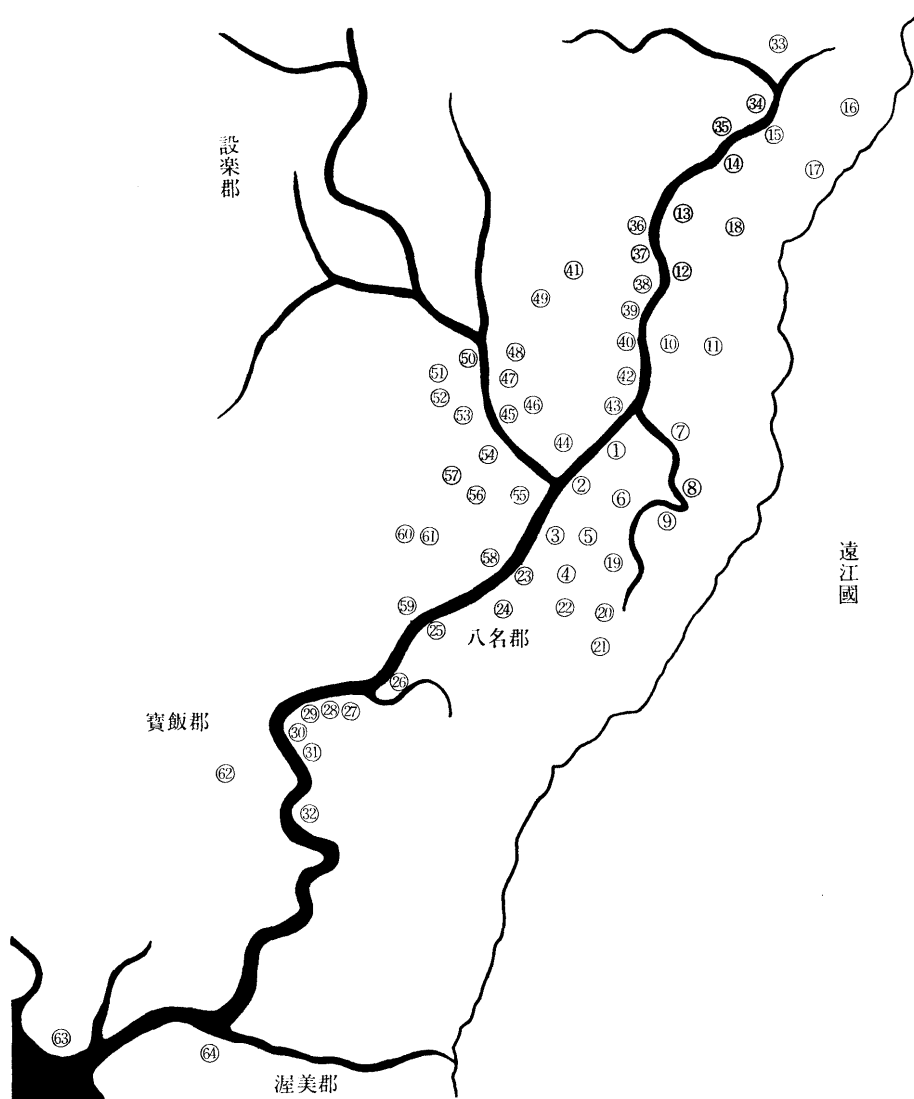
ふき  
八名郡能登瀬村野沢左次兵衛  
友良へ嫁ス





## 菅沼家文書関連町村配置図

(『愛知県史』第2巻附図, 「元禄14年三河国絵図」より)



## 八 名 郡

- |            |        |        |            |       |       |            |
|------------|--------|--------|------------|-------|-------|------------|
| ① 乗本村之内小川村 | ⑩ 大野村  | ⑳ 多利野村 | ㉓ 御園村      | ㉔ 大峠村 | ㉕ 田代村 | ㉖ 新城町      |
| ② " 乗本村    | ㉑ 下平村  | ㉒ 黄柳村  | ㉗ 養父村      | ㉘ 寺林村 | ㉙ 滝川村 | ㉚ 夏目村      |
| ③ " 久間村    | ㉓ 井代村  | ㉔ 吉川村  | ㉕ 加茂村      | ㉖ 門谷村 | ㉗ 出沢村 | ㉘ 門前村      |
| ④ " 市川村    | ㉑ 能登瀬村 | ㉒ 塩沢村  | <b>設楽郡</b> | ㉓ 下平村 | ㉔ 谷下村 | <b>宝飯郡</b> |
| ⑤ " 大平村    | ㉑ 名越村  | ㉒ 鳥原村  | ㉓ 池場村      | ㉔ 浅畑村 | ㉕ 浅木村 | ㉖ 一ノ宮村     |
| ⑥ " 栗衣村    | ㉑ 名号村  | ㉒ 庭野村  | ㉓ 川合村      | ㉔ 長篠村 | ㉕ 大海村 | (東上分一番所)   |
| ⑦ " 蔵平村    | ㉑ 一色村  | ㉒ 一畝田村 | ㉓ 柿平村      | ㉔ 横山村 | ㉕ 有海村 | ㉖ 前芝村(湊)   |
| ⑧ 下吉田村     | ㉑ 巢山村  | ㉒ 八名井村 | ㉓ 湯谷村      | ㉔ 吉村  | ㉕ 下々村 | <b>渥美郡</b> |
| ⑨ 上吉田村     | ㉑ 細川村  | ㉒ 江村   | ㉓ 橋本村      | ㉔ 大草村 | ㉕ 竹広村 | ㉖ 吉田城下(豊橋) |
|            | ㉑ 竹輪村  | ㉒ 鵜飼島村 | ㉓ 引地村      | ㉔ 黒谷村 | ㉕ 川路村 |            |

史料館所蔵史料目録 第三十九集  
三河国八名郡乗本村菅沼家文書目録

昭和五十九年三月三十一日 印刷発行

東京都品川区豊町二丁目十六番十号

国文学研究資料館内

編集者 国立史料館  
発行者

東京都中野区中央四丁目八番九号

印刷所 株式会社 三協社